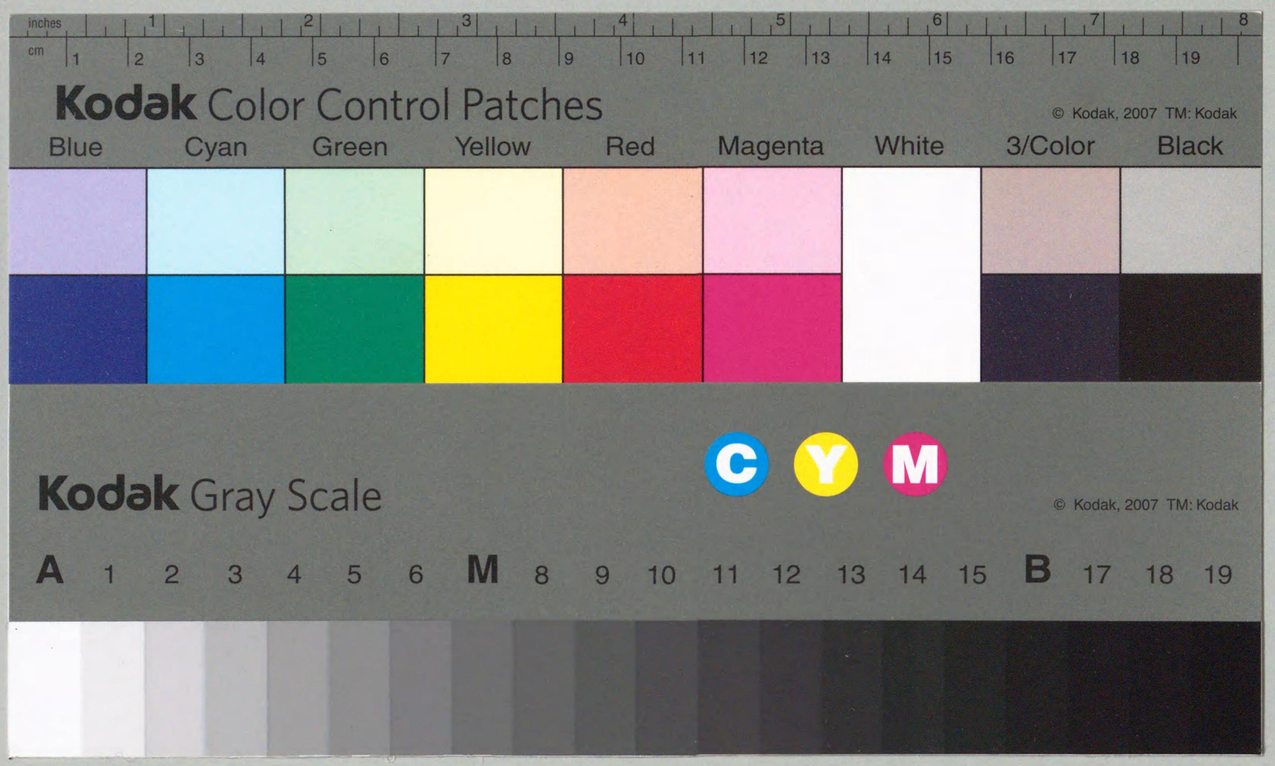

678.238
M494s2
00117094

極秘

ソ聯邦の經濟外交の方向

—主として歐洲動亂を繞る—

南滿洲鐵道株式會社
調査部

資料第五十四號

678.238
M494ソ2

ソ聯邦の經濟外交の方向

（主として歐洲動亂を繞る）

目　次

第一章　歐洲動亂のソ聯邦貿易に及ぼす影響……三
　序　文……三
一、ソ聯邦貿易の國民經濟に於ける意義……三
二、動亂のソ聯邦貿易に及ぼす總體的影響……一一
三、主要物資輸入に於ける影響……一〇
四、主要物資輸出に於ける影響……三〇
五、輸送路の混亂による影響……四四
六、結　論……四九
第二章　日滿對ソ聯邦の經濟的提携の可能性……五五
　緒　言……五五
一、日ソ貿易の推移と現狀……五五

117094

二、滿ソ貿易……六六
三、ソ聯邦の輸入の必要性……七一
四、日滿の對ソ輸出の可能性……七七
五、日滿兩國の輸入の必要性……八三
六、ソ聯邦の對日滿輸出の可能性……八六
七、シベリヤ鐵道の輸送能力……九四
八、結　論……九六

附表目次

第一表　ソ聯邦貿易の量的推移……九九
第二表　ソ聯邦貿易の大いさ（世界貿易に於けるソ聯邦の地位）……九九
（イ）世界貿易總額に於けるソ聯邦の割合……九九
（ロ）世界輸出總額に於けるソ聯邦の割合……一〇〇
（ハ）世界輸入總額に於けるソ聯邦の割合……一〇〇
第三表　ソ聯邦の商品別輸出入……一〇一
第四表　ソ聯邦の商品群別輸入構成……一一一
（イ）輸　出……一一一
（ロ）輸　入……一一二

第五表　生産、消費財別輸入構成……一一二
第六表　ソ聯邦の輸出構成……一一三
（イ）農、工業製品別輸出構成……一一三
（ロ）生産部門別輸出構成……一一四
第七表　ソ聯邦國内消費に對する輸入割合……一一五
第八表　ソ聯邦の輸出率……一一六
第九表　相手國別輸出入……一一六
（イ）相手國別ソ聯邦輸出貿易及ソ聯邦輸出に於ける各國の地位……一一六
（ロ）相手國別ソ聯邦輸入貿易及ソ聯邦輸入に於ける各國の地位……一一六
第十表　日ソ貿易……一一六
（イ）品目別對日輸出……一一六
（ロ）品目別ソ聯邦の輸入……一一六

折込表

第一章　歐洲動亂の
ソ聯邦貿易に及ぼす影響

序　文

本年九月一日獨逸の波蘭進軍に端を發した歐洲動亂は獨逸對英佛兩陣營の抗爭となつて益々激化の形勢にある。が扨て、この歐洲動亂はソ聯邦の貿易に如何なる影響を與へるであらうか？

此處に問題となるのは今次歐洲動亂の將來性と動亂に對するソ聯邦の態度であり、戰局の前途、即ち戰爭の期間、範圍及程度並にそれに對するソ聯邦の出方如何によつて貿易の受ける影響も亦異つて來る。が本論では、武藤氏の前論文に述べられた論旨に從ひ、動亂が英佛對獨逸の抗爭として益々長期且つ擴大化の展望を有し、一方ソ聯邦は交戰國に對しキャステイングボートを握り、その雙方に對して通商の公平を期し、戰亂を自國の有利に利用しつゝ、反面近接國壓迫の擧に出るであらうとの見通しの下に論を進めて行き度い。

が、本論に這入る前に一言したいことは、右の前提の内の「自國の有利に戰爭を利用する」との意義についてである。

今次の歐洲戰爭は長期戰の樣相を露呈してゐるが、その特徵とするところは現在に於て武力戰以外に、それよりも大規模な經濟戰が展開されてゐる事實である。現段階に於ける歐洲動亂は經濟戰であり、貿易戰である。而して此處に動亂に對するソ聯邦の意義が重要視されて來る。

この貿易戰が展開されてゐる限りソ聯邦は自國の武力と特殊な經濟力をバックとして、英佛及獨逸に政治上及經濟上の援助を行ひ、その好むと好まざるとに不拘、之を戰爭の渦中にかりたてうる機會を持つことが出來るし又現にそれを實行しつゝある。

だが、ソ聯邦は自國の生存を犧牲にしてまでも英佛及獨逸の抗爭を激化しようとするものではない。ソ聯邦の戰爭

に對する態度は、飽くまでも、ソ聯邦の利益に於て、換言すれば交戰國に對する自國の政治的及經濟的優勢を徹底的に保持せんがために、戰爭を利用せんとするものであり、從つてソ聯邦は戰局の發展過程にあつても交戰國より取得しなければならないものはこれを取得し、更に交戰國に供給しうる餘裕あるものはこれを供與すると云ふ態度に出るであらう。「今次動亂をソ聯邦が自國の有利に利用する」と云ふ意味は斯かる態度を指すのである。

ソ聯邦は現在交戰國英及獨逸と夫々通商協定を締結し、通商の維持につとめつゝあるが、それは現にソ聯邦が必要とする物資の自國內への供給を確保し、他面これが代償として餘剩物資の輸出を行はんとする貿易政策の基本的線に沿つて、嚴然たるバーター制によつて行はれてゐるのであつて、ソ聯邦の對獨輸出が、或は對英輸出が、「英佛聯合國」或は獨逸の戰時經濟に益するところが大であると云ふことそれ自體は原則的には英佛獨の經濟的特徵に起因するものに他ならない。蓋し、ソ聯邦が英佛或は獨逸から自國の必要とする物資を輸入せんとする限り、ソ聯邦も亦之等の諸國の必要とする物資を供給せねばならないから。

而して、ソ聯邦が敢へて英佛及獨逸の抗爭にキャスティングボートを握りうるのは、強大なる武力と特殊な經濟力を持つてゐるからに他ならぬ。

此處に於て第一にソ聯邦經濟は現在何を必要とし何を輸出しうるか、即ち、ソ聯邦の國民經濟に對する貿易の意義第二、戰亂によつて、貿易が如何なる障害にぶつかるか、第三に、その結果貿易は如何なる政策の下に如何なる方向を辿るかの問題が生じて來る。

これらの問題について以下次の順序によつて檢討を加へて見る。

一、ソ聯邦の國民經濟に於ける貿易の意義
二、動亂の貿易に及ぼす總體的影響
三、主要物資輸入に及ぼす影響
四、主要物資輸出に取ぼす影響
五、輸送路の混亂が貿易に及ぼす影響
六、結論

一、ソ聯邦貿易の國民經濟に於ける意義

周知の如くソ聯邦は共產主義への移行の過度的段階にある國として計畫經濟を實施し、貿易を含む經濟の主要部門を國家の手中に獨占し、目下國の工業化、工業の技術的完成を主要目標とする第三次五年計畫を施行してゐる。そしてこの第三次五年計畫は一面から見れば、その前の二つの五年計畫と共に國の自給自足經濟の確立—特に高度の—を目的としたものである。

而して、この經濟的及技術的獨立達成のためにソ聯邦貿易が如何なる役割を演じてゐるかと云ふに、これを簡單に云ふならば、そのために必要にして而も短期間にソ聯邦國內に於て生產し自給しえない物資、即ち、過去に於ては工業化と農業の機械化に必要な機械及原料、現在に於ては生產の技術的完成に必要な技術、新式機械及諸原料を外國より輸移入し、これを國家經濟諸部門に供給すると云ふのが基本的役割であつて、輸出は右輸入を保障するための一資金獲得手段である。即ちソ聯邦貿易に於ては輸入が主であつて輸出は、國際市場に進出して、企業の利潤を追求せんとする資本主義國のそれと異なり、輸入に追隨してゐる。即ち「ソ聯邦の貿易は基本的には輸入の必要性に應じて變化する」ものである。勿論近年に於ては國內の生產力の增大とそれに起因する輸入の必要性の低下とに關聯して部分的には外交政策の手段としても利用されてはゐるが、右の基本的原則には何等變更も加へられてゐない。

而して、このことはソ聯邦の經濟及貿易關係がアウタルキイの傾向を有することを示すものであると同時に、次の如き特徵を示すものである。

（イ）、ソ聯邦の國民大衆の生活と外國市場との結合してゐる程度は薄弱で中斷されさへしてゐる。

（ロ）、輸入を主眼としてゐる關係上、輸出貿易の杜絕により輸出產業の蒙る打擊は資本主義諸國よりも甚だしくない（ハ）、然し、輸入計畫の未遂行に起因する國の產業計畫遂行に與へる影響が極めて大きいこと。

（イ）、（ロ）はソ聯邦に有利な特徵であるが、（ハ）は

否定的要素である。

然らば、ソ聯邦は現在如何なる程度に貿易、引いては世界市場に依存してゐるであらうか？　これには先づ現在ソ聯邦が何を必要とし、何を輸出しうるか、即ちソ聯邦の經濟的技術的獨立性について見る必要がある。

（第一表）ソ聯邦の原料及食糧品自給率

		一九三二年					一九三七年				
		生産高	輸出	輸入	需要高	自給率	生産高	輸出	輸入	需要高	自給率
一、石炭	（千屯）	六四、三五	一、七九五	五三	六二、五七二	一〇二・七	一二七、九六八	三、二二二	二六、六六八	一〇一・〇	
二、鐵鑛	（〃）	三、〇六六	三四二	—	二、七四八	一〇三・七	三七、七二〇	三五一・五	三七、四一八	一〇一・三	
三、鐵金屬	（〃）	七、七八	二七	一、三〇三	九、五五三	八一・四	△一九、一九五	八五・八	八、八八六	一〇一・七	
銑鐵	（〃）	六、二〇〇	—	—	六、二〇〇	一〇〇・〇	一四、五〇〇	〇	一四、三六四	一〇一・〇	
鋼材	（〃）	…	…	…	…	…	二、五〇八	一、六	二、五一〇	九九・九	
鋼管	（〃）	三一〇	—	…	…	…	八九五	五・七	九一四	九七・九	
四、石油同製品	（〃）	二、四一三	五、五八一	〇	一五、七三二	一〇六・八	一、八六〇・六	四一九	一〇九・七	一〇六・八	
揮發油	（〃）	二、四五九	一、九七二	—	四、三八七	五五・六	△三、〇〇一	三八二	一〇・二	二七・九	
燈油	（〃）	三、五六〇	七九三	—	二、七六七	一二八・六	△五、四三三	△一〇、四八五	—	一四一・八	
燃料石油	（〃）	九、二一四	三、七三〇	—	六、四八四	一四一・八	△一〇、四八五	△一、五〇〇	—	一二六・四	
潤滑油	（〃）	六六二	二四六	—	四三六	一五六・四	△一、五〇〇	三〇八	—	一二六・四	

今、第一及第二次五年計畫期末、即ち一九三二年及三七年の兩年をとつて先づソ聯邦の原料及食料品の自給自足狀態を見るに、ソ聯邦の自給率は甚だしく增大してゐることが判る。即ち次表の如し。

		一九二四年					一九二五年				
		生産高	輸出	輸入	需要高	自給率	生産高	輸出	輸入	需要高	自給率
五、硫黄	（〃）	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
六、棉花	（〃）	三八一・〇	一七・八	二四・三	三八七・六	九八・一	七六・〇	一八・九	二四・三	八三・四	九一・五
七、銅	（〃）	三〇・七	—	二一・五	四三・二	七九・二	◎六三・六	◎六二・〇	二九・一	六八・七	九三・二
八、アルミニユーム	（〃）	〇・九	—	一〇・六	一一・四	大・九	△三〇・〇	△三〇・〇	〇・一	一・一	〇・〇
九、アンチモニイ	（〃）	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
一〇、クローム	（〃）	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
一一、ニツケル	（〃）	六五・二	三六・二	—	二九・一	二六・六	◎六六・八	◎六三・八	四・七	六・五	九九・八
一二、亜鉛	（〃）	一三・七	—	一〇・五	二四・二	五六・六	◎四五・七	◎四〇・二	一・五	四七・二	九六・八
一三、鉛	（〃）	一八・七	—	三三・七	五二・四	三五・六	◎三六・八	◎三六・三	二五・三	六二・〇	五九・三
	（〃）	…	…	…	…	…	（三四年）一二九・二	—	…	…	…
一四、錫	（〃）	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
一五、硝酸鹽（七六封度フラスコ）		…	…	…	…	…	（三四年）三七・〇	—	…	…	…
一六、水銀	（〃）	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
一七、羊毛（千屯）		六四・九	—	二五九	二九四・九	二一・九	● 三・五	● 三・五	〇・六	四・一	六四・一
一八、鹽	（〃）	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
一九、雲母（千封度）		…	…	…	…	…	● 一・九	● 一・九	二五・八	二六・三	九〇・八
二〇、ゴム（千屯）		…	…	…	…	…	△九〇・七	△九〇・七	二五・八	二六・三	九〇・八
二一、パルプ	（〃）	四三・六	—	三一・二	七四・八	五八・三	◎六三・六	◎六二・〇	四・四	四三・四	九八・一
二二、滿俺鑛	（〃）	八三三	四一五	—	四一八	一九九・二	◎五九一・〇	◎五九一・〇	一三・七	一三・七	一〇〇・〇
二三、麻	（〃）	六七三	九三	三	五九三	一一二・四	△四二・〇	△四二・〇	三一・五	三一・五	一〇〇・一
二四、燐礦石	（〃）	三八、	四五	—	三三五	一一六・四	一、一五五・〇	—	一四三・三	一、一四三・三	一〇〇・一
		八八・五	一四三・三	一三・四	一四六・四	九六・八	一、〇〇〇・八	—	三六・五	三六・五	一〇〇・一
		六〇・五	六七二・八	二九・一	八八・二	六七・五	二、七五二・〇	二、七五二・〇	四三・八	四三・八	一〇〇・一
		六八・四	六二・五	八二・五	二九・九	三七・一	一、三四三・三	一、三四三・三	五五・八	五五・八	一〇〇・一
		四〇・〇	一・一	一・一	〇・〇	一〇〇・〇	四一・〇	—	四一・〇	—	一〇〇・一
		九九・八	四七・二	六・五	三七・七	一三・七	一、五五五・〇	—	一、五五五・〇	—	一〇〇・一
		五九・三	六二・〇	二五・三	四七・二	五九・三	三六・五	—	三六・五	—	一〇〇・一
		三一・八	五・八	三・四	二九・一	一〇・一	一、〇〇〇・八	—	一、〇〇〇・八	—	一〇〇・一
		二五・三	〇・六	五・三	三一・〇	一三・七	二、七五二・〇	二、七五二・〇	三一・五	三一・五	一〇〇・一
		一六・三	四・一	三六・五	四九・四	三三・一	一、七五二・〇	一、七五二・〇	七三・五	七三・五	一〇〇・一
		二五・八	〇・六	三・四	二九・一	八二・五	五九五・八	四八	五九五・八	四八	一〇〇・一
		四〇・〇	二五・三	一三・七	三四・四	三九・三	一、三五〇・一	—	一、三五〇・一	—	一〇〇・一
		一〇三・九	七三・九	三六・五	一三二・三	七八・一	九九九・一	九九九・一	一七五・一	一七五・一	一〇〇・一
		八八・五	一四・三	一四・三	八八・五	一〇〇・〇	一、一五五・〇	一、一五五・〇	一三・一	一三・一	一〇〇・一

117094

二五、セメント（〃）	三、四八一	三八	〇	三、四四三	一〇一・〇	△五、八四五・〇	九〇・〇	一〇〇・〇	五、八五五・[illegible]	九九・八
二六、石綿（〃）	五九・八	一六・五	[illegible]	四三・三	一三八・一	△一三五・一	二六・一	—	九九・一	一三六・二
二七、マグネサイト（〃）	三三五	三	—	三三二	一〇〇・九	（三四年）四八二	一	—	四七・二	一〇三・三
二八、穀物（千瓲）	六九・八七〇	一、八一九	二四八	六八、二九八	一〇二・三	一二〇、二九〇	一、二七七・五	三五・九	一一九、〇四八・四	一〇一・〇
小麥（〃）	二、二五〇	三五〇	一三一	一九、八三一	一〇二・一	四六、八六〇・〇	八四五・七	—	四六、〇一四・三	一〇一・八
大麥（〃）	五、〇三〇	四三三	〇・四	四、六〇八	一〇九・[illegible]	一〇、六〇〇・〇	二三〇・五	—	一〇、三九五・八	一〇一・九
ライ麥（〃）	二二、二〇〇	四二一	—	二一、五九九	一〇二・七	…	二〇四・二	—	…	…
燕麥（〃）	一二、二四〇・〇	一七	〇・一	二、二二三	一〇〇・一	二、八六〇	六・一	〇・一	[illegible]八・四	一〇〇・一
玉蜀黍（〃）	三、四三〇	三一一	—	三、一一九	一〇九・九	…	—	—	…	…
豆類（〃）	一、三三五	八五	〇	一、二五〇	一〇六・七	二、二六〇・〇	〇・一	—	二、二六〇・〇	一〇〇・〇
米（〃）	一九五・六	〇・七	六六・九	二六一・八	七四・七	三八〇・〇	〇・八	三五・八	四一五・〇	七一・五
二九、魚類（〃）	一、三三五・五	二六・九	七一・一	一、三七九・六	九六・七	一、六〇八・九	一・六	一四・六	一、六二三・〇	九九・七
三〇、罐詰（〃）	…	一八・七	〇・一	…	…	△一、一七一・五	八・四	〇・六	一、[illegible]六三・七	一〇〇・六
三一、植物油（〃）	四〇九・七	三七・九	六・三	三七八・一	一〇八・三	四九三・三	四・六	三・四	四九二・一	一〇〇・二
三二、肉（〃）	四八三・二	二・三	九・二	四九〇・一	九八・五	八一二・一	四・一	二・五	八〇八・八	一〇〇・四
三三、砂糖（〃）	一、二六四・六	七六・一	四一・五	一、二三〇・〇	一〇二・八	三、四五三・三	一三三・〇	〇・二	三、三三〇・五	一〇三・七
三四、綿布（百萬米）	（三四年）二、七三三	二一・九	〇・二	二、五二一・三	一〇八・四	三、四四七・七	二二・六	二・三	三、二三八・四	一〇六・四
三五、〃粕（千瓲）	七九八・六	四三一・八	—	三六六・八	二一七・七	◬六九五・八	三八九・六	—	三〇六・二	二三七・二
三六、牛酪（〃）	七一・九	三〇・九	—	四〇・七	一七五・九	△一八七・八	二三・一	—	一六四・七	一一七・〇
三七、麥粉（〃）	…	三一・九	四一・九	…	…	…	一三・三	八・〇	…	…
三八、茶（〃）	一三・〇	〇・三	一六・四	三九・一	—	一六・九	五・六	一六・五	二七・七	六〇・六
三九、紙（〃）	四七一・二	—	〇・三	四七一・五	九九・九	八三一・六	三・九	二・三	八二七・七	一〇〇・四
四〇、石鹸（〃）	三五七・二	—	—	…	…	四五五・二	〇・七	〇・〇	四五四・五	一〇〇・一

註　△印—一九三六年度、◬印—一九三五年度、●—二九—三二年平均、棉花は屑を含む

右表に示せる自給率は生産高と輸出入差額との和を國内需要と見、これの生産に對する割合を示したものであつて貯藏物資、代用品その他は加算しなかつた。この表を見る上に注意せねばならないのは輸出入とも大衆の需要を壓迫しつゝ行はれてゐる關係上、實際には更に輸入が増加し、反面輸出が減少すべき傾向を有し、從つて自給率は更に小さいものとなるであらうことである。

右表によれば、ソ聯邦の戰時重要物資、食糧品及生活用品の自給率は鐵金屬、棉花、アルミニューム、亞鉛、鉛、羊毛、ゴム、燐鑛、マグネサイト、米、魚類、肉、〃粕、茶、紙、石鹸に於て増加し、一方石油、石炭、鐵鑛、鹽、亞麻、パルプ、セメント、石綿、穀物、植物油、牛酪等に於て低下してゐるが、この自給率の増減傾向の特徴とするところは、一方ではソ聯邦の對外依存性の過去に於て高かつた物資の自給率が上昇し、他方嘗て自給自足してゐた物資の自給率の低下しつゝあることである。

これはソ聯邦が對外依存性の高い、自給困難であつた物資の生産部門の生産力増大に努力しつゝ、而も反面に於て軍需品及一般消費品の國内需要の増大に起因し嘗ての輸出を縮少せるためである。

而して、現在ソ聯邦が自給不可能にして外國より是非とも輸入しなければならない不足物資は、化學製品（硝酸鹽）、鋼材、鐵管、硫黃、棉花、銅、アンチモニイ、ニッケル、亞鉛、鉛、錫、水銀、羊毛、ゴム、パルプ、麻、セメント、米、魚類及茶の二十數品目であり、その輸入はそれが主として軍需品である關係上現在の國際情勢からして

益々需要の增大すべきことは必定である。

而して反面輸出可能な物資について見るにこれは第一表によつても明かなる如く石炭、鐵鑛、銑鐵、石油及同製品、鹽、滿俺鑛、石綿、マグネサイト、穀物、罐詰、植物油、肉、砂糖、綿布、ガ粕、牛酪、紙、石鹼等であつて、特にその輸出は穀物を除いて全般的に低下傾向にあり、その輸出率もソ聯邦事情第十卷一號に於て述べた如く減少してゐるが、このことは反面から見れば、ソ聯邦が叙上物資に於て今後機にのぞんで轉出を增大すべき大きい潛在的轉出力を持つことを物語るものである。

次に生産技術の點であるが、この點に於てもソ聯邦は尙諸外國に負ふところが甚だ大きい。即ちモロトフは「ソ聯邦國民經濟發展第三次五年計畫に關する決議」に就いて報告せる中に於て「……ソ聯邦は第三次五年計畫に於ては發展の新段階……社會主義から共產主義への漸進的移行の段階に入るのであるが、然し此の巨大なる課題解決の困難を殊に敵意を含む資本主義的環境の條件下に於て過少評價することは許されない。況んや第一次及第二次五年計畫の成功的遂行にも拘らず生產技術の點に於て最も發達せる資本主義國に追付いてゐない」と前提して、ソ聯邦の技術的經濟的立遲れの淸算を强調してゐるが、事實、モロトフの引用せる數字によれば「例へば第二次五年計畫末期にはソ聯邦に於ては人口一人當りの電力使用量は佛國の二分の一以下、英國の約三分の一、獨逸の三・五分の一、米國の五・五分の一であり、銑鐵は英國及佛國の二分の一以下、獨逸の二・五分一、米國の三分の一、鋼は佛國の約二分の一、英國及獨逸の約三分の一、米國の約四分の一に當り、石炭に付てはソ聯邦に於ては人口一人當りの消費は佛國に比し若干少く米、英、獨に比し遙に少い。ソ聯邦は織物、紙、石鹼其他數種の商品の人口一人當りの生產高に付ても尙遲れて居る。」

そのため、ソ聯邦は第三次五年計畫期に於ては特に機械の大量輸入を必要としてゐるが、今、機械の內最も重要なる工作機及動力設備について見るに、ソ聯邦事情第十卷一號に於ても述べた如く、最近の國內總据付臺數に占める輸入品の割合は次の如くであつて、特に今後に於て之が輸入の必要性は增大する情勢にある。

（第二表）機械の總据付臺數に占める輸入品の割合

	生產臺數	輸入臺數	輸入品の割合
工作機（一九三七年）	三七、三六〇	三、九八五	一一・〇%
タービン（一九三四年）	—	—	三三・五%
發電機（一九三三年）	—	—	二三・六%
發電用ボイラー（同）	—	—	三〇・六%

因みに、最近の輸入について見るに內燃機關及施盤は一九三七年の二七〇・一百萬留より一九三八年一—十二月には三三四・六百萬留と約二五%の增加、電氣機械は五一・七百萬留より、五三・五百萬留、精密機械は一九・二百萬留より二一百萬留、運輸材料は〇・六百萬留より二六・九百萬留と夫々增加の傾向を示しつゝあり、以上よりして生產技術及機械設備に於て、ソ聯邦は之を外國より移入するの必要に迫られてゐる。のみならず、ソ聯邦の第三次五年計畫遂行の點からするならば、その輸入は益々增大すべきものと見られる。

尙、デ、ミシュースチンは「プロブレームイ・エコノミキ」誌三七年發行五—六號に於て「ソ聯邦の總消費額に對する輸入額の割合は、米國の八—七%、英國の四〇—五〇%、獨逸の二〇—二五%に對して一%である。ソ聯邦は凡ゆるものを國內生產でまかなひうる樣になつた」と云つてゐるが、成程總體的に見れば列國に比してソ聯邦の自給率は著しく高い。が然し、特に戰略的物資に於て輸入に依存する程度が高く、之等の物資及技術に於てはソ聯邦はその工業化政策に成功した現在に於て尙、輸入貿易に依存しなければならないのであると斷言しうる。

一方、これが物資輸入資金は如何と云ふに、

ソ聯邦は（產金、金準備及外貨保有高）は國內產金奬勵策と外貨獲得を目的とする出超策に成功し、國產金に於てはアフリカに次いで世界第二位に達し、その外貨及金準備は增加傾向にある。

（第三表）ソ聯邦の產金高

	斤	千留
一九二八年	二九、六一二	二六七、二〇六
一九二九年	三五、七四七	二〇二、九七四

一九三〇年	四七、二一八	二六六、七九〇	
一九三一年	五六、〇二三	三一六、五三八	
一九三二年	六一、八九七	三四九、七三〇	
一九三三年	八二、九五四	四六八、七〇四	
一九三四年	二三二、四一七	七四八、一七八	
一九三五年	一八一、三六八	一、〇二四、七六二	
一九三六年	二二八、六一五	一、二九一、七一八	

註　留は平價切下後の一瓦＝五・六三留によつて示す。留＝六五錢

右表によればソ聯邦の產金高は一九三六年に於て二二八・六噸、十二億九千萬留で年約八億四千萬圓に達する。而して、右の增加テムポよりして、三七年及三八年には夫々十五億留位の金が產出されたであらうことが想像される。

一方民間の退藏金銀はドルグシンの存在せる時代殆んど吸收しつくされ、現在民間に保有されてゐる貴金屬はトルグシン廢止以後のものと見られるが、更にソ聯邦の金準備及外貨準備は筆者の計算によると一九三七年一月一日現在に於て全準備は十九億留、外貨準備一億五千萬留、次いで在外正貨二千萬留と推定され、以上諸要素を綜合すると最近（一九三九年一月）のソ聯邦の輸入資金は、一九三七年一月一日現在の金準備十九億留、外貨準備一億五千萬留、在外正貨二千萬留、一九三七年及三八年の國內產金計三十億留、合計五十億七千萬留、これより一九三八年の貿易上の支拂超過額六千萬留を差引いて、差引五十億留—約三十二億圓見當と推定される。三十二億圓と云へば、現在（一九三七年）の日本の一ケ年の輸入額に匹敵し、この點より見て、ソ聯邦は他の外貨獲得手段として、輸出に待つところが甚だ大いとの結論に達する。

嘗て、外國貿易人民委員ローゼンゴリツ氏は「我國は今後の不時の輸入を保障するため、極力貿易上の出超を維持せねばならぬ」と既に一九三六年に於て述べてゐるが、これは輸入資金獲得手段としての輸出貿易の意義を强調せるものとして注目さる可きである。

以上、ソ聯邦貿易の國民經濟に於ける意義について述べて來たが、之は要するに、ソ聯邦の國內消費に對する輸入の割合は一%にしか過ぎないが、現在尙新式機械及戰略原料——有色金屬、ゴム、羊毛、良質棉花、米、茶等に於て甚だしく外國品に依存する程度高く、右輸入の停止は、ソ聯邦の第三次五年計畫の遂行を阻止し、且つ軍需品生產を阻害するものである。と同時に、之が輸入資金獲得の一手段たる輸出貿易も亦今後の不時の輸入を保障するための不可缺の條件となつてゐると云ひうる。

而も、最近の國際情勢及それに處するためのソ聯邦の經濟計畫より見て、かゝる意味に於ける貿易の意義は益々重大となりつゝあり、此處に、ソ聯邦の通商政策を規定する基本的要素がある。

ではソ聯邦經濟に斯く重要な意義を持つ貿易に對して、今次歐洲動亂は如何なる影響を與へるであらうか？　又それに對して如何なる通商政策が採られるであらうか？

二、動亂のソ聯邦貿易に及ぼす總體的影響

歐洲動亂がソ聯邦貿易に對して最惡の影響を及ぼした場合、それは動亂が世界大戰にまで發達し、ソ聯邦對諸外國の貿易關係が完全に斷絶する場合であるが、かゝる事態は第一次歐洲大戰當時聯合國がスカンヂナビア諸國を通じて獨逸に物資を賣りつけ、あまつさへ聯合國相互間に獨逸市場獲得のために競爭せる事實を顧みても判る如く、到底あり得ないことである。特にソ聯邦は穀物、木材、石油、石炭、マンガン鑛、亞麻、石綿等の國際的商品輸出國であり、反面に於て羊毛、非鐵金屬、ゴム、機械類その他の主要輸入國である點に思ひを至すならば右のことは當然理解しうるであらう。

そこで先づ、動亂のソ聯邦貿易に及ぼす影響を總體的に見るならば、序文にも述べた如く今次動亂が先づ貿易戰の形を以て展開されてゐる關係上、之は英佛及その植民地並に獨逸がその輸出能力の減退及戰爭遂行の必要からして自國貿易に對して加へるところの統制並に交戰相手國の經濟封鎖を目的として、一方の交戰國と第三國との貿易に對してとるところの諸方策が、ソ聯邦貿易に及ぼす影響、即ち直接的影響（輸送路の混亂を含む）と、之に派生するところのソ聯邦の物資輸入或は輸出難緩和のための新市場の開拓と云ふ間接的影響の二つに分つて見ることが出來る。

ソ聯邦の貿易を相手國別に見ると、近年政治的に敵對關係にある、例へば日獨伊等との貿易關係は第二次五年計畫期より著しく惡化し、之に代つて米國、佛蘭西、英國等持

てる國とのそれが增大傾向を示しつゝあつたが、第二次歐洲大戰が現實化するに及んで、この傾向は見られなくなつた。と同時にソ聯邦は獨逸と政治的及經濟的緊密關係を樹立すると共に、反面に於て英佛とも通商關係の調整に乘り出して居り、英外相の十月二十六日の議會に於ける演說に依つても指摘された如く、「ソ聯邦は交戰國の双方に對し通商上の公平を期し、獨ソ貿易狀況に關しては獨逸との經濟的連帶性を宣言してゐるけれども、すべて交戰國と公平なる立場に立つて通商を行ふ意嚮を持つてゐる」。

即ち、英國との關係について見ると、ソ聯邦の九月十七日の波蘭進駐に關聯して翌日英ソ通商關係の斷絕が傳へられたが、その後十月十一日、ヒットラーの和平要請に英國が解答をしぶつてゐる矢先、ソ聯邦は駐英大使マイスキイをして英ソ通商協定を締結せしめ、英ソ兩國はソ聯邦の木材及英國の錫及びゴムのバーター制をしいた。而も今後此の種の協定は更に成立するであらうと云はれてゐる。

他方、獨ソ關係について見ると、八月末の通商協定の締結、次いで九月二十七日の獨ソ軍事協定の調印、九月二十七日の波蘭國境劃定に關聯せる新通商協定の締結あり、特に十月二十六日の情報によると、ソ聯は獨逸へ通商使節團を派し、ベルリンに於て今後の通商關係調整について交涉しつゝある。

而して「これが交涉の目的は、獨逸がソ聯邦へ多量の機械、その他工業用品を提供し、特に合成ガソリン、人造ゴムなどの最新の化學發明品をソ聯邦に與へんとするものであり、既にソ聯邦本國に於て行はれた獨ソ交涉に於ては、ソ聯邦は多量の小麥、鑛物性油、木材、棉花、燐鑛石、麻、白金及マンガンその他の鑛物を獨逸に提供することに決定した」。

斯くの如くソ聯邦は、英佛及獨逸の双方に對して經濟的緊密關係を結びつゝあり、今後交戰國との貿易は發展するのではないかとさへ考へられる。が此處に注意すべきはソ聯邦は總て之等諸國との協定をバーター制に基いて締結してゐることである。而してソ聯邦がこの何れに對しても斯く緊密關係を樹立せんとする理由は如何と云ふに、これは經濟的には、第一項に於て示した輸入必要物資に於て、過去に於ては勿論最近に於ても貿易を通じて之等諸國に依存する程度が極めて高いからである。

今、ソ聯邦貿易に占める英佛及その植民地並獨逸、その他の地位について示せば次表の如くなつてゐる。

（第四表）　ソ聯邦貿易に於ける各國の地位　（一九三八年一―一一月）

國	輸出 千留	輸出 %	輸入 千留	輸入 %	合計 千留	合計 %	バランス（千留）
帝國	三〇・六		二二・七		二六・四		
英國	三五、三三二	二九・七	二〇六、四四六	一五・五	二四二、七七八	一八・〇	(+) 一四六、八八五
アイルランド	—	—	—	—	—	—	—
南阿聯邦	五、五八九	〇・五	五五八	〇・〇	六、一四七	〇・三	(+) 五、〇三二
英領セイロン	三、五九九	〇・三	—	—	三、五九九	〇・一	(+) 三、五九九
濠洲	七	〇・〇	四八、五〇二	三・九	四八、五〇九	一・九	(+) 四八、九四五
ニューヂーランド	七	〇・〇	—	—	七	〇・〇	(+) 七
カナダ	七七八	〇・一	二九、二〇五	二・三	二八、四二七	一・二	(-) 二八、四二七
其他英植民地	—	—	—	—	—	—	—
佛蘭西	五九、七五二	五・〇	三六、六三六	二・九	九六、三八八	三・九	(+) 二三、一一六
本國	五七、六九八	四・八	三六、六三六	二・九	九四、三三四	三・九	(+) 二一、〇六一
植民地	二、〇五四	〇・二	—	—	二、〇五四	〇・一	(+) 二、〇五四
獨逸	八五、五八八	七・二	五九、二四四	四・八	一四四、八三二	五・九	(+) 八五、五四〇

波蘭	六、五四四	○・五	一、四二九	○・一	七、九七三	○・三	(+)	五、一一五
和蘭	八四、五一〇	七・一	八四、四八三	六・七	一六八、九九三	六・九	(+)	二七
白耳義	一二四、八五〇	一〇・四	五四、九六六	四・四	一七九、八一六	七・四	(+)	六九、八八四
丁抹	二五、四三四	二・一三	五、一三七	○・四	三〇、五八一	一・三	(+)	二〇、二八七
瑞典	二、一六七	○・九	二五、二〇九	二・〇	三六、三七六	一・五	(−)	一四、〇四二
芬蘭	七、四〇七	○・六	三、一四九	○・三	一〇、五五六	○・四	(+)	四、二五八
諸威	二〇、〇九五	一・七	七、三〇三	○・六	二七、三九八	一・一	(+)	一二、七九二
スペイン	四二、〇五二	三・五	一八、九五六	一・五	六一、〇〇八	二・五	(+)	二三、〇九六
ポルトガル	—	—	五、〇三四	○・四	五、〇三四	二・三	(−)	五、〇三四
ルーマニア	一、九一三	○・二	八〇五	○・一	二、七一八	○・一	(+)	一、一〇八
ユーゴースラビア	一〇七	○・○	—	—	一〇七	○・○	(+)	一〇七
ハンガリイ	八五	○・○	—	—	八五	○・○	(+)	八五
エヂプト	一一、二九九	○・九	二七九	○・○	一一、五七八	○・五	(+)	一一、〇二〇
イタリア	—	—	五六	○・○	五六	○・○	(−)	五六
ギリシヤ	一四、五四六	一・二	一、二九二	○・一	一五、八三八	○・六	(+)	一三、二五四
チエッコ	一一、八六二	○・九	一七、五一六	一・四	二九、三七八	一・二	(−)	五、六五四
オーストリイ	八四四	○・○七	四、五三六	○・四	五、三八〇	○・二	(−)	三、六九二
瑞西	七、四〇八	○・六	一〇、六二六	○・八	一八、〇三四	○・七	(−)	三、二一八
エストニア	六、一一三	○・五	五、九〇五	○・五	一二、〇一八	○・五	(+)	二〇八
ラトビア	六、五六九	○・六	七、六三七	○・五	一四、二〇六	○・六	(−)	一、〇六八
リトワニア	一〇、五七八	○・八	一一、六九二	○・九	二二、二七〇	○・九	(−)	一、一一四
トルコ	一六、九八九	一・四	一八、八九〇	一・五	三五、八七九	一・五	(−)	一、九〇一
イラン	五七、二五九	四・八	六三、四七九	五・一	一二〇、七三八	四・九	(−)	七、二二〇
アフガニスタン	一一、二二四	○・九	一二、三〇六	○・九	二三、五三〇	○・九	(−)	一、〇八二
新疆	三八、三六三	三・二	三二、五〇七	二・六	七〇、八七〇	二・五	(+)	五、八一六
支那	七三六	○・○	一九、六二〇	一・六	二〇、三五六	○・八	(−)	一八、八八四
蒙古	五九、二八二	四・九	三〇、四六四	二・四	八九、七四六	三・七	(+)	二八、八一八
トウワ	五、四五八	○・五	二、三二〇	○・二	七、七七八	○・三	(+)	三、一三八
日本	五、八八三	○・五	一六、八七五	一・三	二二、七五八	○・九	(−)	一〇、九九二
ビルマ	—	—	九五六	○・一	九五六	○・一	(−)	九五六
米國	七九、三二七	六・七	三七三、二一八	二九・八	四五二、五四五	一八・五	(−)	二八三、八九一
アルゼンチン	三一二	○・○	四、二二六	○・三	四、五三八	○・二	(−)	三、九一四
その他	一三、〇八三	一・一	二六、六九九	二・一	三九、七八二	一・六	(−)	一三、六一六
合計	一、一八九、九六八	一〇〇・〇	一、二五二、一三五	一〇〇・〇	二、四四二、一〇三	一〇〇・〇	(−)	六二、一六七

即ち、ソ聯邦の輸出貿易に於て英佛及その植民地の占める割合は三五・六%、輸入貿易に於て二五・六%、一方獨逸はソ聯邦輸出の七・二%、輸入の四・八%を占めてゐる。これによれば英佛及その植民地（以下英佛と呼ぶ）はソ聯邦の輸出市場としても又輸入相手國としても重要な地位を占めてゐることが判るが、一方獨逸について見るに、總體的に最近政治關係の惡化に起因して斯くの如くソ聯邦貿易に占める獨逸の地位は低下してゐたが、過去に於ては、既に本誌前號に於ても述べた如く、ソ聯邦の貿易相手國として、特に機械及技術製品供給國としてソ聯邦貿易に支配的地位

を占めてゐた。

即ち、一九三七年度の資料によつて、ソ聯邦の重要物資輸入に占める英佛及獨逸の割合を見れば次の如くなつてゐる。（米國のそれも一應併記して置く）

（第五表）ソ聯邦の主要商品輸入に占める各國の割合

	英國	フランス	合計	米國よりの輸入	獨逸よりの輸入
機械及設備	五・三	〇・九	六・二	二七・四	四四・三
工作機	三・六	〇・四	四・〇	一七・八	七一・五
船舶	〇・七	—	〇・七	一・二	〇・七
鐵金屬製品	五・〇	五・五	一〇・五	四三・三	三・三
鐵、銅板	〇・〇	〇・八	〇・八	四六・一	三・六
非鐵金屬	八・九	三・九	一二・八	三三・五	一・〇
銅	三一・一	〇・一	三一・四	三六・九	〇・三
ニツケル	九八・二	五・二	九八・七	—	—
錫	七・一	—	七・一	—	—
アンチモニイ	〇・六	一四・六	一五・二	—	〇・八
アルミニユーム	一・五	四五・〇	四六・五	三・六	七・七
鉛	二三・九	六・九	三〇・八	△	一・四

亞鉛	一・四	〇・〇	一・四	〇・〇	〇・〇
羊毛	三〇・四		三〇・四	〇・三	
ゴム	九五・八		九五・八	〇・〇	
棉花					
生畜					
原料皮革	一・〇		一・〇	三五・四	
ジユート	一〇〇・〇		一〇〇・〇		
シザール、ケナフ	四六・九		四六・九	三・九	
茶	一五・〇		一五・〇		

（註）△即ち一五三六年、英佛は植民地を含む

右表は一九三七年（一―九月）に於ける各商品の總輸入高或は總輸入量に占める各交戰國の割合について示したものであるが、これによつて見るとソ聯邦は生産技術―機械及鐵製品に於て獨逸に依存し、重要軍需原料―非鐵金屬、羊毛、ゴム、麻及茶に於て英佛に依存してゐることが判る。

従つて、若し英佛及獨逸よりの輸入が杜絶すれば、これだけのものが、輸入不可能になるわけであつて、特に前者からの輸入が、重要戰略原料に占められ一方後者よりの輸入が、それを生産加工するところの機械である點を考慮するならば、交戰國の双方ともソ聯邦の貿易にとつて重要であると見ねばならぬ。

而も、英米關係について見るに、英米兩國はその歷史が示す如く全く不可分の關係にあるが、一方、ソ聯邦の米國に對する依存性も輸入に於ては獨逸と同程度である。此處に於てソ聯邦は現在獨逸に對すると同樣英國側とも通商協定を締結し、その物資輸入を確保しなければならない理由がある。

反面輸出にあつても同樣で、ソ聯邦の主要物資の輸出に占める交戰國の割合を示せば次の如くなつてゐる。

（第六表）ソ聯邦の主要商品輸出に占める各國の割合（一九三七年一―九月）

	對英佛輸出杜絶の場合			更に對米輸出杜絶の場合	更に對獨輸出杜絶の協合
	英國	フランス	計		
木材	四九・四	五・七	五五・一	一・二	九・五
中丸太	八・八	二一・五	三〇・四	—	三七・八
杭木	六三・二	一・七	六四・九	—	—
挽材	五〇・三	四・八	五六・一	一・八	五・〇
ベニア板	七七・二	〇・一	七七・三	—	三・一
原木	六二・一	〇・四	六二・五	〇・九	一・六
半製品	四・〇	四・二	八・二	一・九	〇・〇
穀物	四五・一		四五・一		
小麥	五三・九		五三・九		
大麥	四三・八		四三・八		
牛酪	九二・七		九二・七	〇・七	
砂糖	一八・一		一八・一		
石油、同製品	一五・九	四・二	一九・八	一四・二	
棉花、棉屑	二七・〇	二・七	二九・七	四・〇	七・六
亞麻	八・二	四〇・一	四八・三	三・八	二七・八
滿俺鑛	一一・二	一三・二	二四・五	四九・五	六・三
石炭	二〇・七	三六・九	五七・六	△	
石綿	五・七	一一・四	一七・一	九・二	
燐鑛石	九・九	一一・八	二一・七	三・一	
銑鐵	四・一	四・二	八・三	一・七	
皮毛	六・四		六・四	二・二	

叙上商品はソ聯邦の全輸出の八五％を占めてゐるが、これによつて見れば、ソ聯邦の主要物資輸出相手國としての交戰國の地位が充分に理解されよう。

而して右の輸出入に占める割合は、とりもなほさずソ聯邦の英佛及び獨逸との貿易杜絶によつて蒙るところの打撃であつて、特に輸入に於て、交戰國との貿易杜絶によつて蒙る損害は大きい。

だが、斯かる程度にソ聯邦が英佛及び獨逸に依存して輸入を行ひ、戰亂勃發以來その貿易關係の維持に努力しつゝあるとは云へ、今次動亂によつてソ聯邦は叙上の如き貿易關係を交戰國との間に維持することは極めて困難となつて來た。その主要な直接的原因は交戰國の輸出能力の減退と之に伴ふ貿易統制並に輸送路の混亂である。

動亂發生以來未だ一ケ月半しか經過してゐない今日に於ては、各國の輸出能力の減退については數字の上で之を明かにしえないが、戰爭が經濟戰として長期化するに從つて輸出力の減退することは必定で、これは、交戰國特に英佛その他が開戰以後急速に貿易統制を施行したのでも判る。今その貿易統制について見るに、英佛は既に戰時禁制品を指定して、之が海上輸送を阻止すると共に、軍需品の禁輸を發布し、之に次いで和蘭、瑞西も亦食糧、武器、原料の禁輸を施行した。即ち、各國の禁輸狀態を示せば次の如くである。

各國の輸出禁止に關する資料

英吉利――△アルミニューム並にその合金、△アンチモニイ並にその合金、△錫、亞鉛、古屑、△鐵鋼、△非鐵屑、△棉花、纖維屑、コットン・リンタース、棉屑、亞麻、大麻、黃麻、繭、生糸、屑、△落花生、亞麻尼油、棕梠油、椰子油、棉實油、鯨油、〆粕、△麥粉、△石油類、△ゴム樹脂、△雲母、△ゴム。

佛蘭西――鐵鑛、錫、鉛、亞鉛、ニッケル、水銀、アンチモニイ、カドニューム、マグネシューム、光學ガラス、工作機、鐵管、鐵製品、電機等約八〇種、及び軍需品の殆んどすべて。

濠　洲――羊毛（濠洲內需要以外の羊毛は全部英本國が買占めてゐるらしい）。

印度及びビルマ――武器、彈藥、化學藥品、麻、麻製品。

蘭領印度――玉蜀黍、ヒマシ油、コプラ、鐵、銅、棉花、皮革製品（礦油及び砂糖除外）。

和　蘭――鐵製品、皮革類、纖維原料、同製品、化學製品等の四品目

瑞　西――食料、綿布、金屬類、液體燃料。

香　港――英本國と殆んど同じ。

右の如く英佛及びその植民地、並に和蘭、瑞典は動亂の勃發と同時に軍需品の輸出禁止を行つてゐるが、ソ聯邦の輸入を必要としてゐる非鐵金屬、皮革、麻、金屬類の輸出禁止の行はれてゐることは注目されねばならぬ。特に英植民地の輸出禁止は今後本國の需要增と關聯して全面的に擴大されるであらうことは必然である。

ソ聯邦が叙上禁制品の輸入を確保することは、戰爭の初期に於ては、これら諸國との交涉の如何によつては可能かも知れないが、後にも述べる如く、英佛獨三國ともに主要軍需原料に於て自給自足不可能であり、而も獨逸は自國の商船隊によつて貨物輸送をし得ない現在、遲かれ早かれ、輸入困難な狀態に立至るであらう。

而して、ソ聯邦はこの列國の輸出制限に對する報復手段として九月七日、輸出制限令を發布して、外務人民委員に左の如き權限を與へた。

一、戰時情勢に處してソ聯邦貿易に不利となるが如き法令或は爲替統制をなしてゐる國への輸出、又は既にソヴェートより積出されてゐる國に輸送中の物品の引渡し禁止乃至制限することを得。

一、相手國が物資積出以前に支拂を行はざる場合輸出を禁止しうる。

この法令は明らかに叙上列國の輸出禁止に對抗した報復的處置であるが、その目的とするところはソ聯邦の輸出貿易を巧妙に使ひわけ、相手國よりの物資入手を保障し、動亂の自國貿易に對する影響を最少限に喰止めんとする點にある。

因みに輸出貿易について見るにソ聯の輸出はそれが木材石油、石炭、棉花、亞麻、マンガン鑛、石綿、鐵鑛等の主要戰略原料であつて、これらに於いては交戰國はまだ自給自足しえず、而も之等物資に於てソ聯邦は世界的輸出國である關係上、機に望んでこれが輸出を政策的に利用しう可き可能性は充分にあるが、この際最も大きい障害となるのは輸送路の混亂である。既にバルチク海は戰亂勃發以來封鎖され、一方黑海はソ聯邦の土耳古抱込み工作の失敗によつて何時封鎖されるか判らない狀態にある。更に地中海、北海方面に於ても交戰國は戰時禁制品を指定し、その貨物輸送に嚴重な監視を行つてゐるため、甚だしく輸送困難な狀態にある。

而も、斯樣な列國の輸出禁止、輸送路の混亂の他に、チヤーター料及び保險料の昂騰、物價特に國際的商品の物價騰貴、交戰國に於ける荷役の困難、その他多くの貿易上障害があり、斯くて輸出入とも著しく困難な立場に置かれることとなつた。

然らば、具體的にソ聯邦の輸出入貿易に今次動亂は如何なる影響を及ぼすか、次に主要商品の輸出入が交戰國の輸出統制その他によつて蒙る影響及び輸送路の混亂によつて貿易全體の蒙る影響について見よう。

三、主要物資輸入に於ける影響

第一表に於てソ聯邦が現在是が非でも輸入しなければならぬ戰略的重要原料、食糧及び技術について述べたが、現在これらの輸入總額は全輸入額の約八〇―九〇%を占めてゐる。

即ち、最近三ケ年の之等商品の輸入狀況を示せば次表の如くである。

（第七表）最近三ケ年の品目別輸入貿易

	一九三六年			一九三七年			一九三八年(一―一一月)		
	千噸	百萬留	%	千噸	百萬留	%	千噸	百萬留	%
一、機械設備	—	五二七・一	一三八・九	—	三四一・六	二五・五	二三四・五	四三八・〇	三四・九
內燃機關、旋盤	—	四〇二・二		—	二七〇・一		六三・八	三四・六	
電氣機械	—	五九・〇		—	五一・七		一七・九	五三・五	
精密機械	—	二八・六		—	一九・二		〇・六	二一・〇	
運輸材料	—	三七・三		—	〇・六		二二・二	二六・九	
二、黑色金屬、同製品	—	一三二・二	九・八	—	二〇・九	九・〇	一三六・二	一〇二・二	八・一
合金鐵	二・六	一八・三	—	一・六	一・六	—	一八・〇	一五・二	—
鋼材	六二・七	二七・八	—	一九・九	一九・九	—	一八・〇	一五・二	—
鋼板	一四六・八	四三・七	—	四五〇・九	五〇・九	—	六五・六	二九・六	—
鋼鐵針金	一〇・八	五・九	—	九・一	九・一	—	二・六	八・七	—

良質鋼	三・二	二・九	—	二・六	三・五	—	一・五	四・七	—
鐵管	三六・八	二三・五	—	二九・二	二五・一	—	二三・二	二三・二	—
三、有色金屬	—	一五五・三	一一・五	—	二七四・七	二〇・一	一一・五	二一九・三	一七・五
銅	—	五一・二	—	六五・八	一一・八	—	二・二	一一・二	—
銅製品	四五・三	一・六	—	一・六	一・八	—	一・六	一・六	—
ニツケル	七・三	三三・九	—	九・一	四〇・六	—	〇・八	〇・八	—
アルミニューム	〇・〇	〇・五	—	二・五	八・三	—	一・八	一・八	—
錫	九・八	五二・三	—	一二・五	八二・七	—	一・八	一・八	—
亞鉛	〇・〇	〇・〇	—	二・九	一・八	—	一・八	一・八	—
鉛	二九・六	一五・五	—	四二・四	一二・八	—	一・八	一・八	—
四、羊毛	二五・九	七七・二	五・七	二一・七	八七・〇	六・五	一・八	一・八	—
五、ゴム	三一・五	六〇・六	四・五	三〇・九	七七・六	五・七	一・八	一・八	—
六、棉花	一六・六	二四・六	一・八	一二・一	三四・七	二・六	一・八	一・八	—
七、化學工業製品	—	四〇・六	三・〇	—	一六・二	一・〇	一・八	一・八	—
藥品	—	二四・七	—	—	一六・一	一・〇	一・八	一・八	—
肥料	〇	〇・〇	—	〇	〇・〇	—	一・八	一・八	—
染料	一・四	一一・六	—	一・六	四・九	—	一・八	一・八	—
八、生畜	一〇三・四	五四・九	四・二	八九・一	三・四	—	一・八	一・八	—
九、皮革	二一・七	四一・七	三・二	一七・五	一・八	—	一・八	一・八	—
一〇、黃麻及び麻	三九・九	二三・九	一・八	四二・二	一九・一	—	一・八	一・八	—

二一、魚類	三〇・二	一四・五	一・二	一四・六	六・一	〇・五	一三・二	三・五	〇・二
二二、茶	一二・二	二四・七	一・八	一六・五	三〇・四	二・三	一三・五	二八・九	二・三
二三、米	五二・六	一二・一	〇・九	三五・八	六・九	〇・五	三九・九	一一・六	〇・九
小計	—	—	八八・〇	—		八二・三	—		八八・六
合計	—	一、三五二・五	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一、三四一・二	一〇〇・〇	一、〇〇七・九	一、二五二・一	一〇〇・〇

輸入總額は近年減少の一途を辿つてゐるが、右商品は依然として輸入總額の八〇—九〇%を占め、機械及び諸設備、有色金屬群は過去及び現在に於て輸入の大宗たる地位にあり、之に次いで羊毛、ゴム、生畜、皮革、麻等の輕工業用及軍需用原料並に化學工業製品が重要な輸入の對稱となつてゐる。

而して、その傾向を見るに、近年増加傾向にあるものは機械類、鐵金屬中の良質鋼、有色金屬の總て、化學工業製品、生畜、皮革、米等であつて、これは第三次五年計畫の遂行に特に機械及び原料を必要としてゐること、軍需の増大しつゝあること及び技術の點で外國市場に負ふ點の多いことを物語るものに他ならぬ。

それでは右物資の輸入は今次歐洲動亂の結果如何なる影響を受けるだらうか、この影響を克服するため如何なる方面に新市場を開拓さる可きか？重要品目について以下順次に檢討して見よう。

機械類　機械及び設備の輸入はその最大に達した一九三一年に於て約二十四億留に達したが、その後一九三七年まで減少の一途を辿り、三八年に於て増加の傾向を示してゐる。而して三八年(一—一一月)の輸入高は約四億四千萬留で、その最大に達した一九三一年の六分の一に過ぎないが、その內容を最近三ヶ年について示せば次の如くである。

(第八表)　機械及び設備の輸入　(單位百萬留)

	一九三六年	一九三七年	一九三八年(一—十月)
機械及設備合計	五二七・一	三四一・六	四三八・〇
一般機械	四〇二・二	二七〇・一	三三四・六
工作機械	一七三・六	一〇八・七	二一九・一
製紙機械	一三・四	一七・四	七・五
印刷機械	六・四	二・六	一・三
紡績機械	一五・三	九・六	一・六
裁縫機械	一・六	〇・四	〇・六
電氣機械	五九・〇	五一・七	五三・五
運轉材料	三七・四	二四・八	二六・九
船舶	三〇・〇	二一・四	二四・二
自動車	二・〇	〇・七	一・〇
精密機械	二八・五	一九・二	二一・〇

右表によれば**ソ**聯邦は高級機械類の輸入に努力しつゝあることが判るであらう。

特に三八年度に於ては工作機及船舶の輸入が増大してゐるが、これは前にも述べた如く、**ソ**聯邦は生產性の増大に努力し、特に高級機械の輸入を強行してゐるため、一方では過去に於ける機械の酷使に起因する補充的輸入の必要の増加せるためである。

而して、之等機械及設備の輸入を仕入れ國別に見れば、「**ソ**聯邦事情第十巻一號」に於て示した如く、獨逸が壓倒的部分を占め、一九三六年に於て**ソ**聯邦は獨逸より全機械輸入の四七・八%、一九三七年（一—九月）四一・三%を仰ぎ、これに次いで米國が一九三六年二八・六%、一九三七年二七・四%、英吉利が六・二—五・三%、佛蘭西二・七—〇・九%、伊太利一・〇—〇・三%、となつてゐる。

而して、戰亂の結果、この機械輸入が何うなるかと云ふに右の%よりして判る如く、機械類の輸入に於て英佛が合計六・二%乃至八・九%、獨逸が四〇—五〇%、米國が三〇%を占めて居り、現在に於ても**ソ**聯邦はこれらの國から機械を輸入せねばならぬ。而も過去に於て之等諸國より輸入せる機械を用ひて來てゐる以上、その部分品も必然的に之等諸國より仰がねばならぬ。が大戰の結果、旣に英佛よりの輸入は杜絕する運命にあり、一方獨逸からの輸入も、輸送路は確保されてゐるとは云へ今後戰局の推移につれて、獨逸の輸出力の減退を見、從つて、その困難となることは必然であり、今次動亂の結果**ソ**聯邦は機械輸入に於て多大の困難を生ずることゝなる。但し、獨逸及び米國よりの機

械輸入が保障されうる限りは、英佛よりの輸入杜絶によつて蒙る影響はさして大きくないものと云ひうる。此處に於て、獨逸及び米國の意義が増大する。

黒色金屬、同製品 一方機械類の輸入困難によつて必然的に黒色金屬製品の増産は困難をし、特に良質鋼、鋼材、鋼板、鐵管等の輸入の必要性が増大するであらうが、ソ聯邦の黒色金屬及び同製品の輸出入に就いて見るに銑鐵、鋼鐵の如きは輸出しつゝあるにも不拘、その加工品に於ては反つて輸入を行つてゐる狀態であつて（これは生産技術に於いて未だ完成してゐないからだ）、その輸入相手國に就いて見ると次の如くである。

（第九表）黒色金屬及同製品の國別輸入

	一九三五年 百萬留	一九三五年 %	一九三六年 百萬留	一九三六年 %	一九三七年（一—九月） 百萬留	一九三七年（一—九月） %
輸入合計	一六五・八	一〇〇・〇	一三二・二	一〇〇・〇	八〇・四	一〇〇・〇
英利	三七・四	二二・六	九・八	七・四	四・〇	五・〇
獨逸	一四・八	八・九	三二・四	二四・五	二六・〇	三二・三
米國	一五・六	九・四	三二・五	二四・六	三四・八	四三・三
白耳義	一二・六	七・六	一二・五	九・五	五・一	六・三
佛蘭西	六・一	三・七	一一・六	八・八	四・四	五・五
波蘭	一一・一	六・七	五・四	四・一	三・六	四・五

右表によれば英佛波よりの輸入が一應杜絶する場合、その一五%が輸入不可能となり、必然的に米、獨、白の三國より輸入を强行せねばならなくなる。乍然、ソ聯邦は之等諸商品に於て殆んど自給自足の域に達して居り、獨逸及び米國よりの輸入が確保されゝば一應需要は保障されるものと見ることが出來る。

有色金屬 歐洲動亂の結果最も大きい打撃を蒙るものは機械に次いで有色金屬即ち非鐵金屬である。第一表に示せる如くソ聯邦の非鐵金屬自給率は銅六八・四%、アルミニューム一〇〇・四%、アンチモニイ〇・〇%、亜鉛九六・八%、鉛五九・三%、錫八二%、ニッケル三〇%であつて、アルミニューム及び亜鉛はどうにか自給可能であるも、他の非鐵金屬は悉く之を輸入に依らねばならぬ實狀であつて、而もその需要は増加傾向にある。

而して、之をその輸入相手國別に見るならば次の如くなつてゐる。

（第十表）有色金屬の國別輸入（一九三七年一—九月）

	銅 瓲	銅 %	ニッケル 瓲	ニッケル %	アルミニューム 瓲	アルミニューム %	鉛 瓲	鉛 %	亜鉛 瓲	亜鉛 %	錫 瓲	錫 %	アンチモニイ 瓲	アンチモニイ %
輸入合計	五〇、七〇六	一〇〇・〇	六、〇〇七	一〇〇・〇	八〇七	一〇〇・〇	二九、九六四	一〇〇・〇	二、八八七	一〇〇・〇	九、二七三	一〇〇・〇	一、〇九一	一〇〇・〇
英佛	一五、八三四	三一・一	五、九二五	九八・二	三六二	五〇・〇	九、〇九九	三〇・七	三三〇	一〇・七	六六二	六・四	—	—
英本國	一、〇九六	二・二	五一五	八・三	—	—	一五二	〇・七	—	—	六六二	六・四	—	—
カナダ	八、四三三	一六・六	四、八九二	八一・六	—	—	三〇五	一・〇	三三〇	一〇・七	—	—	—	—
濠洲	一、五一六	三・〇	二〇八	三・三	—	—	六、六一〇	二二・三	—	—	—	—	—	—
南阿聯邦	四、七九九	九・五	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	—
佛蘭西	—	—	三一〇	五・〇	三六二	五〇・〇	二、〇三三	六・七	—	—	—	—	—	—
波蘭	—	—	—	—	—	—	—	—	一三五	三・六	—	—	—	—
獨逸	九〇	〇・四	—	—	六二	七・五	—		—	—	—	—	—	—
白耳義	一五、〇七三	二九・八	一五二	一・七	九六	一三・五	三〇八	一・〇	八四七	二八・六	一、二七三	一三・八	一三七	五・九
チェッコ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一〇三	五・九
和蘭	—	二・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	七、四〇九	七八・七	—	—
米國	一八、一四三	三五・七	—	—	一〇二	一三・五	—	—	六一〇	二一・四	—	—	—	—
日本	六	〇・〇二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
支那	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	五一	一・一	八六〇	七八・五

丁抹	—	—	四	〇・〇	—	—	—	—	—	—	—	—
スペイン	—	—	—	—	(ノールウェー)一七	二五・〇	一七、三一三	五八・六	(ノールウェー)九七五	三・一	—	—

註　第五表の%と本表の%との間に著干開きがあるが、前者は金額を單位としたものである。

ソ聯邦は有色金屬の內英佛より銅、一五千噸（三一・一%）ニッケル五、九千噸（九八・二%）アルミニューム〇・三千噸（五〇%）鉛九千噸（三〇・七%）、亞鉛〇・三千噸（一〇・七%）錫〇・六千噸（六・四%）を仰ぎ、特に**ソ**聯邦の銅、ニッケル、アルミニューム、鉛の輸入に於て英佛は重要な地位を占めてゐる。錫はゴムと共に今次の英**ソ**協定によつてその輸入を若干保障されたとは云へ、それによつて**ソ**聯邦の需要の全部がまかなはれるとは考へられず、從つて非鐵金屬に對する英佛の輸出禁止は**ソ**聯邦にとつて最も大きい打擊となる。

白耳義及びスペインも又非鐵金屬輸出國であつて**ソ**聯邦にとつて重要な供給地であるが特に白耳義の輸出は殆んど再輸出である關係上、今後その輸入は困難となるであらう。尙、支那はアンチモニイの供給地として支配的地位を占め、**ソ**聯邦に八六千噸のアンチモニイを供給してゐるが、その他軍需工業に必要なモリブデン鑛に於いても重要な對**ソ**輸出國であり、**ソ**聯邦が現在支那に對して政治的及び經濟的援助を行つてゐる理由の一つは又、此處にあるものと見ねばならぬ。

斯くて、**ソ**聯邦は非鐵金屬輸入に於て動亂の影響を最も多く蒙り、これが窮局打開のため新市場を米國、南洋及び支那方面に開拓しなければならないものと云ひうる。

羊毛　次に羊毛であるが、羊毛の自給率は一九三七年に於て七七・九%で、全需要の二二・九%、即ち約二―三萬噸を年々輸入に仰いでゐるが、之を輸入相手國別に一九三六年及び一九三七年（一―九月）に就いて見ると次の如くなつてゐる。

（第十一表）　羊毛の相手國別貿易

	一九三六年 噸	一九三六年 千留	一九三六年 %	一九三七年（一―九月） 噸	一九三七年（一―九月） 千留	一九三七年（一―九月） %
輸入合計	三五、八九五	六一・〇三五	一〇〇・〇	二〇、〇一七	六三、六四五	一〇〇・〇
英吉利	一、三三三	三・八五五	五・二	三、一一五	一三、五三〇	一五、六
濠洲	二、七三三	一三・二六〇	一〇・六	二、八六八	一五、六九七	一四・三
南阿	一五三	八三八	〇・六	一〇一	七四三	〇・五
アフガニスタン	四、七八八	八、六三六	一八・五	二、七九三	六、三〇九	一四・〇
イラン	四、六八七	七、五九九	一八・一	二、三八二	三、九〇〇	一一・九
新疆	四、五三九	五、七九一	一七・五	二、二五二	二、八四九	一一・三
蒙古	三、一三〇	七、〇三六	一二・一	一、五二九	三、三四五	七・六
トウワ	七五	一三〇	〇・三	六一	七八	〇・三
土耳古	三、〇〇九	七、八一九	一一・六	四、八二〇	一六、四三三	二四・一
白耳義	四〇〇	二・五七三	一・六	六〇	五三三	〇・三
南米	一、〇三八	三・四六八	四・〇	三〇	二四七	〇・二

註　%は全輸入額に對する割合

即ち、英吉利及びその植民地より全輸入の一七・三%乃至三〇・四%を、近東諸國より七八・一%乃至四七・二%を、殘餘の五%を白耳義及び南米より輸入してゐる。而して、近年英國及びその植民地よりの輸入が增大傾向にあつたのであるが、今回歐洲動亂と關聯して英吉利及びその植民地は之が輸出を禁止せる結果、**ソ**聯邦は之等諸國よりの約一萬噸の輸入は全く不可能となる。從つて、之が不足を充當するために特に近東諸國及び南米よりする**ソ**聯邦の羊毛輸入の意義が重大となつて來る。

ゴム　次にゴムであるが、近年**ソ**聯邦は合成ゴムの生產に成功し著しくその自給自足性を昂めて來たが、現在尙需要の四〇%即ち約三萬噸は之を輸入に仰がねばならぬ。

（第十二表）　ゴムの相手國別輸入

	一九三六年 噸	一九三六年 千留	一九三六年 %	一九三七年（一―九月） 噸	一九三七年（一―九月） 千留	一九三七年（一―九月） %
輸入合計	三一、四九一	六〇、四八九	一〇〇・〇	三二、七四八	五七、三一八	一〇〇・〇
英吉利	二九、七〇六	五七、三二五	九四・三	三〇、八四三	五四、九九六	九五・八
和蘭	五九一	九四五	一・九	八九四	二、二八八	四・一
米國	三	一九	〇・〇	七	二三	〇・〇
日本	—	—	—	五	一一	—
南阿	一、一六三	二、一九五	三・七	—	—	—

然るに右表に見られる如く、**ソ**聯邦輸入の大部分―九〇%は英吉利及びその植民地からの輸入によつてまかなつて

ゐる。而も、ゴム生産地は東南アヂアに位置を占め、英佛及び和蘭の植民地によつて獨占され、國際ゴム統制委員會の統制下に輸出されてゐる關係上、他地方の製品を以て代替すること困難な實情にある。一方、ソ聯邦のゴム需要は自動車工業の發展につれて增大傾向にあり、從つて歐洲動亂に起因する英國よりの輸入杜絶はソ聯邦のゴム輸入を殆んど中絶せしめるが、現在のところ英吉利とのバーター協定によつてその供給は可能となつて居り輸入は現在の水準を辛じて維持するであらう。

棉花　棉花のソ聯邦の國內需要に對する生產の割合は九九・六%であり、近年棉花栽培も發展し多量の棉花を輸出しうる樣になつたとは云へ、一方に於ては年々二—三萬噸の輸入を行つてゐる。而してその仕入先を見ると次表の如く米綿及びエジプト棉の輸入は全く見られず、主としてイランより輸入(一萬五千噸—全棉花輸入高の八〇・九%)して居り、殘餘はアフガニスタン、新疆より輸入してゐる。

(第十三表)棉花(棉屑を含む)の相手國別輸入

	一九三六年			一九三七年(一—九月)		
輸入合計	噸	千留	%	噸	千留	%
アフガニスタン	一六、六六三	二三、八七一	一〇〇・〇	一七、九九三	二七、八一五	一〇〇・〇
イラン	一一八	一六八	〇・七	一、〇三九	一、四九五	五・八
新疆	一四、三三〇	二〇、二二九	八六・〇	一六、〇一四	二五、二六九	八九・〇
米國	一、〇七五	一、一三〇	六・五	九四〇	一、〇五二	五・二
土耳古	一八九	三六三	一・一	—	—	—
	九五二	一、九八二	五・七	—	—	—

註　%は輸入額に對する割合

即ち上表の如く棉花に關する限り、その輸入に對して歐洲動亂の及ぼす影響は甚だ輕微であると見ねばならぬ。

黃麻、シザール及びケナフ　麻類に就いて見るにソ聯邦は亞麻の世界的輸出國であつて年々六萬噸近くを諸外國へ輸出してゐるが、半面、黃麻、シザール及びケナフは之を夫々約二萬噸宛輸入してゐる。而してその相手國は和蘭、米國及びイランであり、黃麻に於ては英吉利(一〇〇%)、シザール及びケナフは英吉利(一九三七年に於て總輸入額の四六・九%)和蘭(四九・一%)米國(三・九%)イラン(〇・三%)である。が、英國及び和蘭よりの輸入は既に杜絶狀態にあり、今後動亂の擴大化につれて之等物資に於いてイラン及び米國に依存する程度が大きくなつて來るであらう。

茶及び米　ソ聯邦は近年茶の需要量の六〇%、米の需要の九〇%を國內生產によつてまかなひ、殘餘の四〇%(一萬六千噸)及び一〇%(三萬五千噸)を輸入によつてまかなつてゐるが、茶の仕入國を見ると次の如くなつてゐる。

(第十四表)茶の仕入國

	一九三六年			一九三七年(一—九月)		
輸入合計	噸	千留	%	噸	千留	%
英吉利	二二、二五七	三三、一六一	一〇〇・〇	一二、九三九	二〇、八〇四	一〇〇・〇
和蘭	三、四六〇	一一、九〇六	二八・二	一、九三八	七、二八三	二五・〇
支那	二、〇七七	五、一五八	一七・〇	一、八九二	四、八七五	一四・六
日本	四、〇七九	三、一三一	三三・三	五、四一三	二、一八〇	四一・八
	二、六四三	二、九九七	三一・六	三、六九七	五、〇八七	二六・八

これによると英吉利よりの輸入杜絶によつて一千噸程度の輸入が困難となり從つて、世界の主要茶輸出國セイロン、印度、支那、日本等極東方面にソ聯邦は新市場を開拓する必要が生じて來る。

生畜及び皮革　ソ聯邦は現在生畜五千萬留(約五萬瓲)、皮革三千萬留(約二萬瓲)を輸入してゐるが、その仕入國は近東諸國であり、英佛及び獨逸からの生畜輸入は全く行はれて居らず、一方皮革について見るに英佛及び獨三國のソ聯邦皮革輸入に占める割合は合計三・一%程度であつて英佛及び獨よりのこれら商品の輸入杜絶によつて蒙るソ聯邦の損害は殆んど絶無と云つて良い。只注意を要するのは南米より皮革五千瓲、一千萬留(全皮革輸入の約四〇%)を輸入して居り、輸送路の關係から歐路よりの之が輸入の困難となることである。

尚、ソ聯邦は波蘭分割によつて、波蘭牧畜業の約五〇%を支配し、これにより馬一九〇萬頭、牛四六五萬頭、羊二二九萬頭、豚六六一萬頭を取得することゝなり、生畜の輸入問題は殆んど解決された。この點が波蘭分割のソ聯邦經濟に與へる最も大きい利益である。

四、主要物資輸出に及ぼす影響

次に主要商品輸出について見る。第一項に於て輸入資金獲得の基本的手段としての輸出貿易の意義を明かにしたが、では歐洲動亂がソ聯邦の輸出貿易に如何なる影響を及ぼすか？

それには先づ、現在ソ聯邦が如何なる商品を輸出しつゝあるか、又その生産の幾割までを輸出しつゝあるかについて知らねばならぬ。

そこで先づソ聯邦の輸出商品のその輸出貿易に於ける地位を最近三ヶ年について見やう。

(第十五表)　最近三ヶ年の主要品目輸出

	一九三六年			一九三七年			一九三八年(一—十月)		
	千瓲	百萬留	%	千瓲	百萬留	%	千瓲	百萬留	%
一、木材	一	三五・四	二六・四	一	四三七・八	二五・三	二、九六一・八	二五二・六	二一・二
木材	二、八一九・三	二一六・九		二、四二七・八	一、七二七・九		一、九五六・七	一七六・三	
桃原本	四二七・七	八四・四		二八六・九	八九・七		一、〇九六・七	四七・九	
ベニア板	一二八・九	三四・九	一	一〇六・四	三一・三	一	七二・六	二三・八	一
半加工材	二一一・〇	一四・四	一	一三四・九	一一・六	一	六三・九	五・四	一
二、石油同製品	二、六五三・三	一六〇・八	一一・八	二、九九一・二	一五〇・〇	八・七	一、三三一・二	九四・七	七・九
原油	一	五・八	一	一	二・六	一	…	…	…
ベンヂン	一	四〇・七	一	…	…	…	…	…	…
ケロシン	一	二五・四	一	…	…	…	…	…	…
催滑油	一	二八・六	一	…	…	…	…	…	…
三、毛皮	二・五	一五五・一	一一・七	一・八	一五三・六	八・九	一五四・二	一〇・四	一
四、棉花同製品	二四・八	六七・四	四・八	六六・九	一三〇・六	七・六	二五・七	四・八	一
棉花	六・八	三・三	一	四五・三	五一・八	一	三・六	三・八	一
棉布	一七・四	六一・四	一	二〇・〇	七一・八	一	一三・七	四八・四	一
五、亜麻同製品	五七・九	五・九	一	三六・一	五四・八	一	二五・三	二一・一	一
六、金屬原鑛	六三一・八	三三・一	三・九	三五二・二	六〇・一	三・五	三五九・二	二五・二	二・一
マンガン鑛	六〇五・七	二一・一	一	一、〇〇〇・八	五〇・八	一	三五二・〇	一五・〇	一
鐵鑛	二五・九	〇・三	一	三一・四	九・二	一	七・二	〇・一	一
七、穀物	一	三五・九	二・八	一	二五・六	一四・九	一、九五二・六	二七八・五	二三・四
小麥	五七・九	九・四	八・六	八四五・七	一八六・〇	一四・九	一、二〇七・五	一八〇・三	一八・四
大麥	一〇五・一	八・六	一	二一〇・六	三五・二	一	四〇五・九	四八・四	一
ライ麥	一〇五・八	一〇・二	一	二〇四・三	三五・四	一	二一〇・七	四七・四	一
燕麥	五二・四	七・二	一	六・二	〇・六	一	二一・九	〇・三	一

八、鐵鋼及同製品	—	三九・二	二・八	—	四四・九	二・五	六四・一	二〇・一	一・七
銑鐵	七二〇・六	二四・四	—	一三七・三	一六・三	—	二・五	〇・三	—
レール	—	二・六	—	—	四・九	—	一二・九	三・五	—
九、石炭	一、八六五・八	四二・八	三・一	一、二七三・二	三〇・九	一・八	三九九・五	一二・九	一・〇
無煙炭	一、〇〇三・六	二七・五	—	八〇三・五	二〇・七	—	…	…	—
一〇、化學工業製品	—	四七・七	三・七	—	五二・五	三・〇	七三〇・三	五一・一	四・三
肥料	五四二・九	二三・六	—	六二二・二	二八・九	—	六八二・八	三〇・九	—
一一、牛酪	二三・二	四二・一	三・一	一四・六	二一・二	一・八	〇・三	〇・五	〇・〇
一二、メ粕	一三七・八	一五・九	一・一	三六・八	…	…	…	…	—
一三、砂糖	一六二・八	三六・八	二・六	一三四・〇	三八・四	二・二	九七・二	三二・一	二・七
一四、皮革同製品	四・六	二一・七	〇・七	四・八	一五・五	〇・九	三・八	九・三	〇・九
原料	四・二	一九・九	—	四・四	一〇・八	—	三・三	五・七	—
一五、機械、自動車	—	—	一・八	—	一六・九	一・〇	—	五・九	〇・五
一六、植物油	二・〇	一・一	〇・一	四・六	二・八	〇・二	七・一	四・三	〇・四
一七、麥粉	五六・三	九・一	〇・六	五七・六	九・三	〇・五	四八・二	七・九	〇・七
一八、石綿	二六・一	九・一	〇・六	二七・三	九・一	〇・五	一三・六	四・八	〇・四
小計	—	—	八七・五	—	—	八六・五	—	—	八四・五
合計	—	一、三五九・一	一〇〇・〇	—	一、七二八・六	一〇〇・〇	—	一、一八九・九	一〇〇・〇

重要軍需原料に於て輸出の減少が甚しいことは注意すべきである。

總體的にソ聯邦の主要商品輸出は近年減少の傾向にあるが、木材、石油、毛皮、棉花、亞麻、マンガン、穀物、石綿等が依然として輸出の大宗となつてゐる。而して輸出の構成を見るに、それは國内の工業化を反映し、輸出は原料より半製品、半製品より完製品、農産物より工業製品と輸出の「精巧化」の傾向を示してゐるが、工業製品中に於ても木材、石油等が主要部分を占め、機械の如き完製品の割合は極めて少い。

而して、之等商品の國内生産に占める輸出割合を見るに、之はソ聯邦事情第十卷第一號に於て示した如く第一及び二次五ヶ年計畫末期の一九三二年及び三七年に就いてその國内生産に對する輸出割合を見ると次の如くである。

（第十六表）　ソ聯邦の輸出率

	一九三二年			一九三七年		
	生産	輸出	輸出率	生産	輸出	輸出率
木材						
挽材	—	—	一八・三	—	—	△一八・二
ベニヤ板	—	—	三四・五	—	—	△三三・六
石油	二一、四一三	五、五八一	二六・〇	三〇、四八五	一、八六〇・六	六一・〇
ベンヂン	二、四五九	一、九七二	八〇・一	△三、〇〇一	四一九	一三・九
ケロシン	三、五六〇	七九二	二二・二	△五、四三三	三八二	七・〇
燃料石油	九、二一四	三、七三〇	四〇・四	△一〇、四八五	一、四二〇	一・三五
催滑油	六八二	二四六	三六・〇	△一、五〇〇	三〇八	二〇・五
亞麻	六七三	九三・〇	一二・三	一、三四三・〇	三六・五	一七・一
綿布	二、七三三	二一・九	七七・五	三、四四七・七	二一・六	六・一

	滿俺	鐵鑛	鐵鑛	鐵	石綿	穀物	小麥	大麥	ライ麥	燕麥	玉蜀黍	罐詰	砂糖	植物油	燐灰石	メ粕	魚類	棉花	セメント	炭	石
一九三五年	八三三	二、〇八六	六、二〇〇	五七八	六九、八七〇	二〇、二五〇	五、〇三〇	二二、二〇〇	一一、二四〇	三、四三〇		一、二六四・六	四〇九・七	三八〇	七九八・六	一、三三五・四	三八一・〇			
一九三六年	四一五	三四二		一六・五	一、八一九	五五〇	四二二	四二一	一七	三一二		七六、一	三七・九	四五	四三一・八	二六・九	一七・八	三八		
一九三七年（一―九月）	四九・八	二・八	○	一一・二	二六、二〇、二九〇・〇	二・七	八・四	一・九	○・二	九・一		六・〇	九・三	一、五五〇・〇	五四・一	二・〇	四・七	一・二			
一九三七年（一―九月）	二、七五二	一七、七七〇	一四、五〇〇	二二五・一	四六、八六〇・〇	一〇、六〇〇・〇	二一、八六〇・〇					一、一七一・五	三、四五三・三	四九三・三	一、五五〇・〇	六九五・八	一、六〇八・九	七一六・七			
一九三六年	一、〇〇〇・八	三五一	一三七・三	二七・一	一、二七五・五	一四五・七	二〇四・二	六一				八・四	二三三・〇	四・六	三八五・〇	三八九・六	一・六	三八・五	九〇・〇		
一九三七年（一―九月）	三六・三	一・二	一〇〇・〇九	二〇・八	一・一	一・八	一・九	〇・三				〇・七	三・九	〇・九	二四・七	五五・九	〇・一	五・四	一・六		

註　△印―一九三五年木材はソ聯邦側發表數字

三四

木材　木材の輸出額は近年木材工業の不振と濫伐の影響を受けて減退し、一九三七年の四億三千七百萬留から三八年には二億五千萬留と殆んど半減してゐるが、一方輸出率も亦一九三〇年の二〇%より最近では約一〇%と低下してゐる。而もその輸出内容を見るに挽材及び抗木等が主位を占め、その主なる仕向國は次の如くである。

（第十七表）木材の相手國別輸出

	一九三六年		一九三七年（一―九月）	
	百萬留	%	百萬留	%
輸出合計	三五九	一〇〇	三二一	一〇〇
英國	一四六	四一	一五九	四九
獨逸	六三	一七	三一	一〇
和蘭	四四	一二	四九	一五
白耳義	二四	七	二九	九
佛蘭西	二二	六	一八	六

叙上五ケ國への木材輸出高はソ聯邦の木材全輸出高の八五%を占め、殘余は隣接國及び南阿に向けられてゐるが、若し英國への輸出杜絶すればソ聯邦の木材輸出は半減する。

第一章　歐洲動亂のソ聯邦貿易に及ぼす影響

石油　石油の輸出は生産の增加にも不拘、近年自動

車、トラクターへの需要の増大、軍需の増大に起因して減少の一途を辿り、一九三五年の三百三十萬噸から、一九三八年には百二十萬噸（一―一一月）と約三分の一に低下し、その輸出率も三二年の二六%から三七年には六%へ低下してゐる。然るに獨ソ新通商協定により、多量の石油が獨逸に供給されねばならなくなつてゐる。一方、ソ聯邦は三六年以來多量の石油製品を米國から輸入しつゝあり、その輸入量は一九三六年四六、九四〇噸、一九三七年一〇九、六五七噸、一九三八年（一―一一月）一一四、六三三噸と年々増加しつゝある。而も最近の情報によれば「ソ聯邦は獨逸の要求する量の石油を供給するにはソ領極東への石油供給を縮少せねばならず、之が對策として、米國よりの石油購入を考慮してゐるも、米國はソ聯邦が米油を獨逸へ供給することを恐れ、之が販賣を躊躇してゐる」と傳へられて居りかゝる實情よりするならば、ソ聯邦にとつては對英佛石油輸出の杜絶はさして苦痛とはならないであらうと考へられる。因みにソ聯邦の石油及び同製品輸出を國別に示せば次の如くなる。

（第十八表）石油の國別輸出

輸出合計	一九三六年 千噸	一九三六年 百萬留	一九三六年 %	一九三七年（一―九月） 千噸	一九三七年（一―九月） 百萬留	一九三七年（一―九月） %
英國	二、六五三・三	一五五・五	一〇〇・〇	一、四七三・九	一〇七・七	一〇〇・〇
獨逸	二七二・四	二四・四	一〇・三	二三〇・一	二三・五	一五・六
丁抹	三四七・九	二四・八	一三・一	二〇七・五	一五・〇	一四・一
イラン	六二・五	二・九	二・四	四三・二	三・三	二・九
スペイン	三六・五	二・三	一・四	二八・七	一・九	二・〇
伊太利	一一一・七	五・五	四・二	一六三・八	二・一・七	一一・一
	一二三・二	六・九	四・六	二五・七	一・九	一・七
佛蘭西	三六七・〇	一五・九	一三・八	二三・八	五・〇	四・二
瑞典	一二七・三	九・〇	四・八	四八・三	六・〇	四・四
日本	二一九・八	一〇・六	八・三	九六・七	六・〇	六・六

尙叙上の如く、ソ聯邦の對米石油買付の増加してゐる實情より見て今後石油の對獨輸出は、獨よりの機械輸入が保證されざる限り或は中止の余儀なきに立ち至るのではないかと考へられるが、英佛への輸出を獨へ振り向けるとすれば二―三十萬噸の輸出は可能であらう。

毛皮　ソ聯邦の毛皮輸出は年々減退傾向にあるが、現在に於いては輸出資源として益々その重要性を加へつゝある。即ち過去及び現在に於て輸出の大宗たるの地位にあり、その全輸出高に占める割合は約一割であつて、その輸出高は一億五千萬留に達し、日本の生糸輸出に於けるが如き役割をソ聯邦輸出貿易に於て演じつゝあり、その主要仕向國は左表の如く、英國（一九三七年に於てソ聯邦全毛皮輸出の四八・一%）と米國（三三・六%）でこれに次いで白耳義（七・%）佛蘭西（六・七%）獨逸（一・六%）等がある。

（第十九表）毛皮の相手國別輸出

輸出合計	一九三六年 百萬留	一九三六年 %	一九三七年（一―九月） 百萬留	一九三七年（一―九月） %
米國	八四三	四二・三	七七五	五〇・八
英國	八三三	四一・八	五二四	三三・五
白耳義	二六	一・三	一七	一・一
佛蘭西	三四二	一七・二	一〇三	六・七
獨逸	一〇八	五・四	三五	二・三
	一九五・一	九・八	一〇・二	六・九
	一〇〇・〇	五・〇	四・二	二・七
	一、六二〇	八一・三	一三九・四	九〇・八
	三三・六	一六・七	一四・三	九・三
	一三・三	六・七	一・三	〇・八
	一四・三	七・二	一・三	〇・八
	一〇三	五・二	一・七	一・一
	二・〇	一・〇	〇・一	〇・一

因みに、ソ聯邦は世界毛皮市場に於て支配的な地位を占め世界輸出の二割を受持つて居り、近年はレニングラードにオークションを開催し、之が輸出の發展に努力しつゝあるが、その最大顧客たる英國と佛蘭西を失ひ、更に獨逸の輸入統制に逢つて今後益々輸出困難な立場に置かれることは必然であり、これが窮境打開のために、敢へてダンピン

グに近い廉價輸出さへ考慮されるであらう。

棉花及び棉製品　棉花輸出は一九三七年まで增加傾向にあつたが、三八年には金額に於て前年の七〇%方減少し、棉製品輸出もこれと同樣の傾向を示してゐる。而して、その生産に對する輸出割合は一九三二年に對し、一九三七年には棉花四・七%から五・四%に增加、一方棉布は五〇%、七七%から六・一%に減少してゐる。而して最近の輸出量は棉花三萬八千噸、棉布二十一萬平方米であつて、その仕向國を棉花及び棉布別に見ると次の如くである。

（第二十表）　棉花の相手國別輸出

	一九三六年		一九三七年	
	千留	%	千留	%
輸出合計	三、三三	一〇〇	四九、六五五	一〇〇・〇
スペイン	一三四	一・九	二七、九一八	六〇・〇
英國	二九八	一〇・三	三、七二八	七・六
獨逸	三五八	七・四	二、八四三	五・七
米國	一、一八〇	四四・一	二、〇八六	四・〇
和蘭	六三五	一三・二	一、六九九	四・六

（第二十一表）　棉布の相手國別輸出

	一九三六年（一―九月）		一九三七年（一―九月）	
	千留	%	千留	%
輸出合計	六二、四三五	一〇〇・〇	五〇、〇三二	一〇〇・〇
イラン	三、五四四	五六・二	二六、九九六	四八・〇
蒙古	五、七八二	一三・一	五、二〇七	一〇・二
アフガニスタン	一〇、九三六	一六・六	六、七〇八	一三・三
土耳古	七、六四五	一二・八	五、九三〇	一〇・三
新疆	一四、〇二三	一・九	八、六二三	一三・六
波蘭	三八	四・四	二九七	一・一
佛蘭西	四一四	一三・二	七七	二・七

棉花は之を仕向國別に見るに英佛波蘭へ全輸出の約三〇%を供給、一方獨逸へ約八%を輸出し殘余の大部分はスペインに輸出してゐるのであるが、今次動亂の結果スペインには輸送困難であり、他方、英佛向輸出は中絶することなつたから、その八〇%までは輸出困難となる。然るに、獨逸は棉花に於いて年々百八―九十萬俵の棉花を輸入して居りは棉花三萬八千噸、棉布二十一萬平方米であつて、その仕向國を棉花及び棉布別に見ると次の如くである。

從つて對獨輸出を增加すれば、平時の輸出は維持可能であらう。

棉布についてはその九〇%までは近來諸國に仕向けられてゐる關係上、反つて增加の可能性を有しこそすれ、減少は見ないであらう。

亞麻　ソ聯邦の亞麻は世界的商品であつて、嘗ては世界總輸出の五分の一を占めてゐたが、近年その輸出は減少の一途を辿り、その最大に達した一九三二年の九萬三千噸より一九三八年（一―十二月）には二萬二千噸と四分の一に減少してゐる。而して、その生産に對する輸出割合は三七年度に於いて一九三二年の一二・三%より二%と低下してゐる。一方これに反比例して、黃麻及びシザール、ケナフ等の輸入が增加傾向にある。この傾向は今後益々强化されうるものと見られるが、その亞麻仕向國を示せば一九三七年度に於ては英吉利（三一・九%）、佛蘭西（八・二%）、獨逸（二七・八%）、白耳義（三一・九%）、米國（三・八%）で、殘餘の〇・三%はチエコ及び瑞典である。從つて、英佛への輸出が低下されゝば、亞麻輸出の四〇%までが駄目になるのであるが、その數量は約一萬噸である。

マンガン鑛及び鐵鑛　滿俺鑛も石油、木材、亞麻と同樣ソ聯邦の重要な國際的輸出商品であり、その輸出の最大に達した一九二九年に於いて百萬噸、世界總輸出の三八・六%を占めてゐたが、近年一九三四年以後その輸出は減少の一途を辿り、最近では三十五萬噸程度である。周知の如く滿俺鑛は鐵鑛の熔劑として不可缺の原料であり、之が生産に於いてソ聯邦が獨占的地位を占めてゐることは特に注視さるべきである。

（第二十二表）　滿俺鑛の仕向國

	一九三五年		一九三六年		一九三七年（一―九月）	
	千噸	%	千留	%	千噸	%
輸出合計	六四四・八	一〇〇	千留	千噸	千留	%
			六〇五・七	一〇〇・〇	七六二・九	一〇〇・〇
			三、一四三	一〇〇・〇	三三、七三三	一〇〇・〇

	米國	白耳義	佛蘭西	英國	獨逸	波蘭	伊太利	日本
一九三五年	一三八・二	二四・二	九七・七	一四・七	二三五・九	四一・九	四五・四	六・四
一九三六年	五、五一四	六一三	二、六三七	五九六	八、五三二	一、一七四	一、四四五	一一四
一九三七年（一―九月）	三・四	三・八	一五・二	二・三	三六・六	六・五	七・〇	一・〇
一九三五年	二四二・九	六〇・二	一五三・〇	六・七	二七六	四一・二	三〇・四	一五・三
一九三六年	八、七三二	一、七八三	五、〇〇六	二七五	一、三八五	一、一五七	五・〇	六一一
一九三七年（一―九月）	四〇・一	五・八	二五・三	一・一	六・八	一八・二	五・〇	二・五
一九三五年	三七七・四	一一三・六	八五・六	一四・一	四七・一	五四・七	一八・二	—
一九三六年	一八、九三九	三、〇六六	二、七九七	六五四	三、一〇五	一、八九四	一、〇五二	—
一九三七年（一―九月）	四九・五	一四・九	一一・二	一・九	六・二	七・二	二・四	—

満俺鑛の仕向國を見るに、最近までは日獨防共協定の締結による之等諸國對ソ聯邦の政治關係の悪化に起因し、その輸出は減少し、反面、英米への輸出が增加傾向にあつた。而して、ソ聯邦の滿俺鑛總輸出に占める割合は一九三七年に於いては米國が四九・五%、英佛が計一三・一%で殘余は白耳義、獨逸、波蘭、伊太利、日本に仕向けられてゐた。右の數字より見て、今次動亂により英佛への輸出杜絶により、ソ聯邦の輸出は十萬噸―一五%方の減少を餘儀なくされて居り、更に白耳義への輸出も困難となりつゝある。が、此處に注意しなければならないのは、獨ソ協定によつてソ聯邦が滿俺鑛の大量供給を獨逸に豫定してゐることである。一九三七年獨逸の總滿俺鑛輸入量は五十五萬四千七百噸に達してゐる。然るに、ソ聯邦の輸出高は一九三七年百萬噸、三八年三十五萬噸であり、獨逸の需要を完全に滿すには尠くとも、一九三七年度の水準にまで輸出を增加する必要がある。

從つて、滿俺鑛に於ては對獨輸出を增加すれば、英佛、白方面への輸出杜絶による損失は殆んどないであらう。

鐵鑛輸出はその輸出の最大に達した一九三一年に於て百十萬噸に及んでゐたが爾後減少の一途を辿りつゝあり、一九三八年には七千噸に過ぎず全く問題にならなくなつた。

穀物　穀物はソ聯邦の主要輸出品であり、その內小麥及びライ麥の如きは國際的商品として一九三一年には夫々世界輸出の二・五%及び六二%を占めてゐたが、爾後減少の一途を辿り、一九三六年にはその輸出の最大に達した一九三一年の五百萬噸に對し三十二萬噸と激減したが、近年再び增加傾向を示すに至り、一九三八年の輸出は二百萬噸となつてゐる。この輸出增加は國內生產增によるものか、それとも外貨獲得のための政策輸出によるものなるか、その理由は不明である。而して、最近の輸出率は一九三二年の二・六%（三一年七・四%）に對して一一・でありて、之が仕向國を見ると次の如くである。

（第二十四表）穀物の仕向國

	一九三五年		一九三六年		一九三七年（一―九月）	
	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%
輸出合計	一七一・五	一〇〇・〇	三五・八	一〇〇・〇	九八・五	一〇〇・〇
獨逸	一七・二	九・九	〇・八	〇・三	〇・〇	〇・〇

	和蘭	白耳義	芬蘭	諾威	英國
	一五・五	九・〇	一・八	五・〇	二・九
	二〇・七	二・〇	六・八	一九・〇	一七・二
	〇・一	〇・一	〇・七	二・〇	〇・二
	七一・九	七・二	五・二	六・三	一七・六
	四一・七	五・二	六・三	一七・六	四・五
	三・九	一〇・九	四三・一	四五・一	四・七

即ちソ聯邦の主要穀輸出國は英吉利で、これについて和蘭、白耳義がある。

ソ聯邦の穀物輸出に於ける英國の割合は約五〇%に及んで居り、之を最近のソ聯邦の穀物輸出と睨み合せて見ると、約百萬噸の穀物輸出が對英輸出杜絶によつて不可能となる。然らば如何なる方面に新市場を開拓しうるか、問題は獨逸の穀物需要の推移であるが、一九三六年の獨の穀物輸入量は二十三萬噸で、この量は今後更に增大するものと考へられる。從つてソ聯邦は對獨輸出を增加しても尙穀物を他の市場に振り向ける可く努力しなければならないのではないかと考へられるが、その方向については今の處明らかにし得ない。

鐵金屬、同製品　鐵金屬及びその成品の輸出に於いて

注目すべきは銑鐵である。銑鐵の輸出は第二次五年計畫期の中頃より活氣を見せ、一九三五年の輸出は三十三萬噸であつたが、爾後國内需要の增大につれ、減少の一途を辿り、一九三八年には二千噸と云ふ少額の輸出しか行はれてゐない。かゝる輸出の傾向から見て、今後鐵金屬の輸出は殆んどとるに足らない狀態となるであらう。一方その製品について見るもこれは主として、近來諸國の經濟建設に必要な鐵製品、レール、車輪等に限られ、從つて歐洲動亂の鐵金屬輸出に及ぼす影響は殆んどないと云ひうる。

石炭　石炭（無煙炭を含む）は第一次五年計畫期初まで輸入の對稱となつてゐたが、第一次五年計畫期に這入つて重要な輸出の對稱となり、その全輸出に占める割合は一九三四年三・一%であつたが、一九三二年には一%に低下

（第二十五表）無煙炭の仕向國（%は金額に對するもの）

	一九三五年			一九三六年			一九三七年		
	千噸	千留	%	千噸	千留	%	千噸	千留	%
輸出合計	一、〇八九・五	三九二・〇	一〇〇・〇	一、〇〇三・六	三七四・九	一〇〇・〇	七四・三	一七・八五三	一〇〇・〇
米國	三五、六四二	六、七三三	三六・〇	六、六二三	三七・五	一、六七・九	二、三二	二三・八
瑞典	二九・九	一〇・〇	二、九	三・〇	二・〇	三五・六	九一五	三・〇	二・〇	二四・九	六八六	二・五	二四・三	六八〇	三・四
瑞西	三三・九	一四八・一	一三・六	三二・四	五、二〇二	一四・三	一二一・〇	一四五・九	二、九一九	四・三
白耳義	二、三	七三	二、九	三〇・五	六四八	四・三
カナダ	三三・四	八七二	二・八	三・三	一、〇三九	四・七
佛蘭西	四、七三七	九一五	三・〇	三、九〇四	一五・九
伊太利	九、六八四	二九・九	二、九	三五・九	一、〇八九・五	三九二・〇	一〇〇・〇	一、〇〇三・六	三七四・九	一〇〇・〇	七四・三	一七・八五三	一〇〇・〇

が一方無煙炭は如何と云ふにその仕向國は次表の如くなつてゐる。

右の他に無煙炭仕向國としてソ聯邦の西歐隣接國があるが、西歐隣接國への輸出はソ聯邦全輸出の一五%程度で、ソ聯産無煙炭は良質のコークス用炭として米國、伊太利、佛蘭西、カナダ等に輸出され、その内、佛蘭西及び英領カナダへの輸出は各々全無煙炭輸出の一五・九%及び二〇・七%であつて、兩國はソ聯邦無煙炭輸出相手國として計三六・六%を受持つてゐる。從つて、これが輸出が中止されれば約三十萬噸の無煙炭が輸出不能となる。一方、獨逸について見るに獨の石炭生産高は一九三八年一億八千四百萬噸、平時需要二億二千二百萬噸で、差引三千八百萬噸の輸入を必要としてゐる。從つて、對獨輸出が增加されゝば、ソ聯邦はさして石炭輸出に困難を感じないだらう。

燐鑛石　燐鑛石は平時にあつては燐酸肥料の原料として、戰時にあつては火藥製造原料として重要な物資であるが、その輸出は年々增大の傾向にあり、一九三六年に最大に達し、五〇六・六千噸、一九三七及三八年は夫々約六〇〇千噸に及んでゐて、之が主要仕向國は白耳義（全輸出に對する割合は三四・九%）、和蘭（一八・〇%）、佛蘭西（九・九%）、英國（一・九%）、伊太利（八・五%）、波蘭（八・八%）であつて、今次動亂による英佛への輸出杜絶を考慮すれば、約一一%、六〇千噸―五百萬留の輸出が不可能となるであらう。がその新市場が如何なる方面に開拓されるかは目下不明である。

砂糖及植物油　これら商品の國内生産に對する輸出割合は減少傾向にあり、一九三二年の砂糖六%、植物油九・

三%に對し、三七年には三・九%及び〇・九%で、その輸出高は前者九萬三七千噸後者七千噸で、之をその最大に達した一九三一年に比較すれば、砂糖輸出は二倍の增加、植物油のそれは八分の七の減少である。而して、砂糖輸出の一八・一%（一九三七年一―九月）は佛蘭西、四・八%は英國が占められるも、植物油はその大部分が和蘭（全輸出の三二%）及び丁抹（四九・二%）に向けられ、英佛へは全然輸出されてゐない。

從つて、英佛への輸出杜絶により、ソ聯邦は砂糖のみに於て約二萬噸―八百萬留の輸出が困難となるものと見られる。

石綿　石綿輸出は近年減少傾向にあり、その三八年に於ける輸出高は一萬三千噸で、その最大に達した一九三一年の六萬四千七百噸に比して五分の一に滿たぬ。而してその仕向國は米國（三二・七%）、日本（一一・九%）で、英佛へは全輸出の五・七%を供給してゐるが、近年各國ともその需要は增大傾向にあり、ソ聯邦の對外輸出は增加しうるからして、英佛への輸出杜絶による影響はさして大きいものではない。

五、輸送路混亂による影響

次に特記すべきは輸送路の混亂による影響である。

歐洲動亂の結果先づ、獨逸によつてバルチク海が封鎖され、一方、スペイン及び佛蘭西方面より獨逸を通過する陸路も使用不可能となり、現在可能な輸送路は黑海、北海、大平洋及び近東諸國々境であるが、軍需品の輸送は交戰國の戰時禁制品の輸送防害にあつて輸送困難の立場に置かれ、一方、北海、地中海は「自己の危險に於いて」航行せねばならない。黑海も亦ソ聯邦の土耳古抱込み工作の失敗により何時封鎖されるか判らない狀態にある。此處に於て現在最も完全な輸送路は太平洋及び中、近東諸國々境である。では之等輸送路の混亂はソ聯邦の貿易と貨物に如何なる影響を及ぼすか？

ソ聯邦はさきにも述べた如く、貿易貨物の九〇%、即ち千四―五百萬噸を海路經由にて輸出入しつゝあるが、ソ聯邦商船隊は之等貿易貨物を輸送する能力を有してゐない。このことは嘗てソ聯邦事情に述べたことがあるが、その總噸數は日本の四分の一、英國の十分の一で百萬噸（三七〇隻、內油送船二十七隻十三萬三千噸）程度で、而もその約五分の一を貿易貨物の輸送に動員、總貿易量の五分の一、海上經由貨物の四分の一、即ち四―五百萬噸しか輸送し得ない狀態にある。從つて貿易貨物の大部分（四分の三―約一千萬噸）は之を外國船によつて輸送しつゝある。

而して、ソ聯邦の海上經由貨物輸送の內、輸出に於ては

（第二十六表）　ソ聯邦貿易貨物輸送に於ける各國船舶の割合

	輸出貿易				輸入貿易			
	一九三四年		一九三五年		一九三四年		一九三五年	
	數量（千噸）	%	數量（千噸）	%	數量（千噸）	%	數量（千噸）	%
海上經由貿易貨物輸送量	一六、一二九	一〇〇・〇	一五、八七二	一〇〇・〇	八二三	一〇〇・〇	一、〇六一	一〇〇・〇
內、ソ聯邦	二、六七三	一六・六	二、八四四	一八・〇	六八二	八二・九	七一五	六七・四
英國	二、〇〇〇	一二・四	二、二四四	一四・三	五一	六・二	三八	三・六
白耳義	二一九	一・四	二一七	一・四	—	—	—	—
獨逸	一、三四八	八・四	一、三七八	八・七	三〇	三・六	〇	—
和蘭	四九三	三・一	四四六	二・八	六	〇・七	五	〇・五

ギリシヤ	二、四〇六	一四・九	二、四九七	一五・七	七	〇・九	一六	一・五
丁抹	六七一	四・二	七〇九	四・五	六	〇・七	一一	一・〇
伊太利	一、八〇二	一一・二	一、一三七	七・二	三	〇・三	二	〇・二
諾威	一、八八五	一一・七	一、四〇四	八・八	六	〇・七	四四	四・一
米國	一四	〇・一	一六	〇・一	四	〇・五	八	〇・八
芬蘭	三七二	二・三	二五五	一・六	二	〇・二	一	〇・一
佛蘭西	四一六	三・六	二七三	一・七	｜	｜	六	〇・六
瑞典	六一二	三・八	五六一	三・五	一一	一・三	〇	｜
土耳古	一一六	〇・七	九四	〇・六	｜	｜	｜	｜
日本	一九三	一・二	九八	〇・六	八	一・〇	〇	〇
その他	九〇四	三・〇	〇	〇	七	一・〇	｜	｜

右の資料から見ると、交戰國のソ聯邦貿易貨物輸送に占める割合は輸出貿易に於て英國一四・三%、佛蘭西一・七%獨八・七%計二四・七%、輸入貿易に於て英國三・六%、佛蘭西〇・六%、獨〇・五%計四・五%であり、從つて輸入貨物輸送に於ては、外國船を利用することなくしても、最近の貿易量程度のものは輸送可能であると見られる。が一方輸出に於ては貿易貨物の四分の一弱の輸送が、交戰國の船舶利用不能に起因して輸送困難となり、外貨獲得のための輸出貿易は、それが大量及び重量貨物、木材、穀物、鐵物等である關係上可成り大きい影響を蒙る。

獨逸のバルチック海封鎖と黑海の不安が**ソ**聯邦貿易に如何に影響するかを見よう。

ソ聯邦の貿易の國境稅關別貿易分布を見るに、貨物輸出入の最も盛んに行はれてゐる地域はバルチック海（レニングラード港）と黑海沿岸（ポチ、バツーム、オデッサ、ニコラエフスク、フェオドシア、ケルチ及ノーヴォロシイスク港）で、これら地域を通過する貿易高は十八億五千五百萬留に及び、前者は總輸出高の四分の一、總輸入高の二分の一を合吐し、後者は輸出の三四・四%、輸入の一〇%を占め、之に次ぐものは白海沿岸（アルハンゲリスク、ペチラ、メゼン、オネガ港及び北海方面に於ける唯一の不凍港ムルマンスク港で、之等は夫々總貿易高の八%を輸出入してゐる。

而して、殘餘の二〇%は隣接西歐諸國及び近東諸國の國境を經て出入して居り、その內容を一九三七年度について見れば次表の如くである。

（第二十七表）　國境・稅關區別貨物輸出入

稅關區別	輸出 百萬留	輸出 %	輸入 百萬留	輸入 %	輸出入合計 百萬留	輸出入合計 %
バルチック沿岸	四四四・九	二五・七	六九〇・七	五一・五	一、一三五・六	三七・〇
黑海沿岸	五九三・九	三四・四	一二五・六	九・四	七一九・五	二三・四
白海沿岸	二四七・五	一四・三	一・四	〇・一	二四八・九	八・一
ムルマンスク	六三）八	三・四	一八七・八	一〇・〇	二五一・六	八・二
ソ・エ・ラ・波國境	九二・六	五・四	五〇・三	三・八	一四二・九	四・七
カスピ海	七〇・七	四・一	五五・一	四・一	一二五・八	四・一
ソ蒙國境	七二・三	四・二	三六・八	二・四	一〇九・一	三・六
ソ新國境	三四・三	二・〇	二五・七	一・九	三六〇・四	二・〇
極東沿海州	一六・二	〇・九	六三・四	四・七	七九・六	｜

その他	一〇八・六	六・二	八・〇
合計	一、七二八・六	一〇〇・〇	一〇〇・〇
	一六七・七	一二・五	二七六・三
	一、三四一・二	一〇〇・〇	三、〇六九・八

右資料はソ聯邦貿易貨物の輸送路としてバルチック海、黒海及び白海が極めて重要且つ支配的地位を占めてゐる事實を物語つてゐる。

然るに、今回の動亂によつてソ聯邦は貿易貨物輸送の三七%を占めるバルチック海を封鎖され、此處に於てバルチック沿岸諸國を除く他の歐米諸國との貿易に於ける黒海の意義が極めて大きくなる。黒海の安全が保障されてゐる限りはソ聯邦の貿易は何うにか維持されるだらうし、ソ聯邦も亦、黒海保全のために懸命な努力を行ふであらう。が黒海も亦土耳古懷柔工作の失敗により、何時封鎖のうき目を見るか判らぬ狀態にある。斯くて貿易貨物の輸送には專らムルマンスク港及び極東方面の滿鹽を利用する必要が生じて來る。

然らば、北氷洋方面に於ける唯一の不凍港ムルマンスク港の貨物積卸能力は何うかと云ふに、ソ聯邦は近年港灣設備の擴充に努力し、その能力は可成り增大したとも見られるが、ムルマンスク港の貨物積卸能力は一九三五年に於て、輸移出六十九萬三千九百千噸、輸移入六十六萬七千九百噸、合計一百三十六萬一千八百噸、滿鹽は輸移出五十九萬九千二百噸、輸移入一百四十二萬一千四百噸・合計二百二萬六百噸であつて、これを海上貿易貨物輸送量に比較して見ると、バルチック海封鎖の結果、ムルマンスクに歐米より廻送されるであらう貨物約三十五萬噸、及び輸出貨物約八百萬噸計八百三十萬噸の積卸しは、ムルマンスクに於ては不可能であり、假にソ聯邦沿岸への國內貨物輸送を壓迫して貿易貨物の輸送に努めるとしても甚だしく貨物積卸作業に困難を生ずることゝなる。

此處に、ソ聯邦が黒海の安全保障に奔命する原因の一つがあると同時に、極東特に日本による仲繼貿易の必要の生ずる一因がある。

之を要するにソ聯邦の貿易は海上輸送路の歐洲動亂に依る混亂、特に現在に於てはバルチック海がその沿岸諸國を除く他の歐米諸との貿易貨物の輸送のために利用不可能となつたことによつて、貿易貨物の三分の一、同輸出の四分の一、輸入二分の一が輸送困難となり、而も、外國船のチヤーターの困難と歐洲方面の海洋の危險性增大により今後益々この傾向は强められ、反面極東方面及びムルマンスク港の意義が貨物輸送上增大して來るものと云ひうる。

六、結　論

以上、今次動亂のソ聯邦貿易に及ぼす影響について見て來たが、之を要約して結論すれば次の如くなる。

即ち、今次の動亂は英佛及び獨逸の抗爭となつて益々長期且つ擴大化の展望を持つに至つたが、動亂の現段階に於ては英佛及び獨逸兩陣營の貿易戰が展開されて居り、而もこれが可成り長期に亙つて續けられる可能性を持つてゐる而して、これに對しソ聯邦はその武力と經濟力を背景として、交戰國に對してキヤスティングボートを握り、益々戰爭を長期せしめ、交戰國の武力及び經濟力の消耗により自國の歐洲に於ける政治的及び經濟的優越性を確保せんとしてゐる。從つて、ソ聯邦の動亂に對する貿易政策は抗爭激化の線に沿つて、或は英佛への原料及び完製品の供給、或は獨逸への原料の供給となつて現はれるであらう。從つてこの意味に於ける交戰國への輸出は行はれるだらう。

が交戰國双方へのかゝる援助は決してソ聯邦の犧牲に於て行はれるものではない。それには自ら限度がある。

現在ソ聯邦は第三次五年計畫の遂行のため大量の機械及び技術を必要としてゐるし、又戰略的原料に於ても、非鐵金屬、羊毛、ゴム、麻、棉花、その他の輸入を絕對的に必要としてゐる。而も一方では右の輸入資金獲得手段の一として、輸出、特に自國に於て餘裕のある木材、穀物、マンガン、石綿、亞麻、毛皮等の輸出貿易を振興するの必要にせまられてゐる。

從つて、ソ聯邦の交戰國への物資輸出の限度は、基本的にはソ聯邦自體の輸出餘力ー國內の需要、特に國防產業の需要を制限しない程度の輸出餘力と、交戰國から取得しう

る技術及び原料の量、並に交戰國の支拂能力等の諸要素の關聯に於て決定される。右の內、交戰國の支拂能力に對しては之を明らかにし得ないが、交戰國から取得しうる技術及び原料について、特に、ソ聯邦が現在最も多く外國に依存して居る機械及び原料の輸入について歐洲動亂の及ぼすであらう影響に就いて見るに、

（一）ソ聯邦の現在最も必要な原料の內今次動亂によつて、非鐵金屬—銅、ニッケル、アルミ、鉛、亞鉛及び錫の大部分、羊毛の三分の一、デュート、ケナフ麻の大部分、棉花の一部が輸入困難となること。

（二）機械類に於ては獨逸よりの供給が確保されゝば、さして輸入は打擊を蒙らないが、さもなければ交戰國の輸入杜絕により從來の五分の三程度の輸入が不可能となること。

（三）ゴム及び錫は一應現在のところ輸入可能なるも今後輸入杜絕の危險にあること。

（四）アンチモニイ、モリブデン、茶の供給國としての支那の意義の增大すること。

（五）生畜、皮革、棉花に於ては動亂の影響はさして大きくないが、その輸入を確保するため近東諸國の意義が增大して來るであらうこと。

（六）非鐵金屬輸入市場として米國を初め南洋及び極東の意義の重大となつてゐることが斷言しうる。

特に注目すべきは羊毛、麻、非鐵金屬及びゴムの輸入が戰爭の推移につれて困難となつて來ることである。

何故かなれば英國は勿論佛蘭西に於てもまだ之等の物資に於ては自給自足の域に達せず、而も自給自足に達しうる物資はその大部分が輸送に當つて敵の攻擊を受ける危險のある植民地によつて生產されてゐるからである。即ち、英佛の自給自足性について示せば次の如くである。

英國の自給自足狀態

	本國	植民地その他よりの充足率
一、棉　花	なし	米國八〇%、植民地二〇%
二、羊　毛	三五%	植民地九〇%、第三國一〇%
三、木　材	二〇%	植民地七〇%、第三國三〇%
四、ゴ　ム	なし	植民地一〇〇%
五、石　炭	一〇〇%	輸出しつゝある
六、石　油	なし	メキシコ及び米七〇%、植民地一〇%、第三國二〇%
七、鐵　鑛	五〇%	スペイン七〇%、屬國三〇%
八、銅	なし	米國七〇%、屬國三〇%
九、錫	なし	植民地及び屬國一〇〇%
一〇、スピネツ	五%	植民地九〇%、米國一〇%
一一、ニツケル	なし	カナダ（植）一〇〇%
一二、アルミ	なし	米國八〇%植民地二〇%
一三、石　綿	なし	カナダ（植）一〇〇%
一四、水　銀	なし	スペイン七〇%、植三〇%
一五、硫酸、窒素	なし	智利その他七〇%、植三〇%
一六、硫　黃	一%	第三國九〇%、植民地一〇%
一七、クローム	なし	植一〇〇%
一八、マンガン鑛	二%	植一〇〇%

註　植は屬國、植民地、自治領を含む、ソ聯邦發表イギリスの軍備による。

佛蘭西の自給自足狀態（一九三五年%）

一、小　麥	〇	九、銅	〇
二、棉　花	〇	一〇、ニツケル	〇
三、ゴ　ム	〇	一一、スピネツ	一・八
四、石　油	一・四	一二、ツインク	〇
五、石　炭	七〇・一	一三、ボーキサイト	一〇〇・〇
六、マンガン鑛	〇	一四、過燐酸	一〇〇・〇
七、鐵　鑛	一〇〇・〇	一五、羊　毛	一一・一
八、銑　鐵	一〇〇・〇	一六、砂　糖	九〇・〇

註　（印一九三四年、ソ聯邦發表「ソ聯邦と資本主義國」中の統計、列國の自給率による。植民地よりの輸入不明。

右表によれば英本國に於て自給可能なものは石炭のみであり、佛蘭西に於ては鐵鑛、銑鐵、ボーキサイト、過燐酸の四種である。然るにボーキサイトとを除いた他の銑鐵、過燐酸及び石炭はソ聯邦に於ては自給可能であり、輸出さへ行つてゐる。而もボーキサイト及び鐵製品は專ら佛蘭西から輸入してゐる現狀であるが、佛蘭西との貿易は輸送の點から見て現在の處、甚だしく輸入困難である。

斯くて、ソ聯邦は動亂の勃發と共に、鐵製品輸入の〇・八%、アンチモニイの一五・二%、アルミニユームの四六・五%、鉛の三〇・八%、亞鉛の一一・四%、羊毛の三〇・四%、ゴムの九五・八%、黃麻の一〇〇%、シザール及びケナフ麻の四六・九%が、英佛の輸出禁止及び輸送困難によつて入手不可能となつてゐる。此の內、錫及びゴムの一定量は今次の木材とのバーター制施行により輸入を保障されるとしてもソ聯邦の現在最も必要とする原料、特に非鐵金屬及び羊毛、麻類に於に輸入困難となつたことは注目さる可きである。

一方英佛への輸出も現在木材の輸出が協定されたのみであつて、その他の物資に於ては佛及び英兩國への輸出は杜絶狀態にある。

それではソ聯邦は叙上の英佛より輸入不可能となつた物資に於て、これを獨逸からまかないうるか？

獨逸の自給自足率を見ると次の如くである。

獨逸の自給自足狀態（一九三五年）

一、小麥	九七%		一一、鉛	三三・一	
二、ゴム	〇・〇		一二、ニツケル	〇・〇	
三、棉花	〇・〇		一三、ボーキサイト	〇・〇	
四、石油、同製品	△一〇・三		一四、過燐酸鹽	△九一・六	
五、石炭	一〇〇・〇		一五、羊毛	一一・九	
六、マンガン鑛	〇・〇		一六、魚類	七〇・二	
七、鐵鑛	三〇・一		一七、茶	〇・〇	
八、銑鐵	一〇〇・〇		一八、クローム	〇・〇	
九、銅	一四・五		一九、砂糖	一〇〇・〇	
一〇、亞鉛	六六・八		二〇、輕油	二八・三	

註　△印一九三四年、ソ聯邦側資料「ソ聯邦と資本主義國」一三〇頁による。

即ち、ソ聯邦は必要不可缺な原料の内、英佛より輸入困難となつた非鐵金屬、羊毛及び麻等に於て之を獨逸からまかなうことは全く不可能である。

之を要するに獨逸はソ聯邦に對して今後供給しうるものはその技術及び機械類のみで、ソ聯邦は他の物資に於ては今次動亂の結果、錫及びゴムを除いて他はその大部分が輸入不可能となつたと云ひうる。

此處に於て、ソ聯邦は右の輸入不可能となつた物資は他の諸地方から求めなければならなくなつた。と同時に、輸入をカヴアーするための英佛への輸出の意義も必然的に低下して來る。

勿論、ソ聯邦の輸出は原料及び半製品が主位を占めてゐる關係上、世界市場への輸出增加の可能性は充分にあり、英佛及び獨への現出輸絶によつてさして大きい打撃を蒙るとは考へられないが、現在の狀態からして、英佛への輸出杜絶が、一方ソ聯邦の輸出貿易に及ぼす影響としては

（一）英佛への輸出が杜絶すればその三五・六%が駄目になる。

（二）が、石油、銑鐵等はソ聯邦自身に必要で、而も現在國內需要を充すため輸出を縮少しなければならない關係にあり、これが輸出杜絶によつて蒙る打撃は尠い

（三）英佛への輸出を獨に振り向ければ、ソ聯邦の英佛輸出杜絶によつて蒙る穴は充分に埋めうる。

（四）乍然、ソ聯邦貿易が輸入を主として居り、而も交戰國より必要な原料が、充分に得られない關係上、若し獨逸に支拂能力がなければ、對英佛輸出を獨に全面的に振り向けることはしないであらう。

（五）斯くて、輸出方面に於ても輸入の方向の變化につれて、新しい市場の開始が必要とされるであらう。

而も、ソ聯邦の輸入困難に拍車をかけるものは、ソ聯邦の貨物輸送が專ら海路經由、船舶によつて行はれてゐる關係上、著しい貿易貨物輸送困難であることである。特にバルチツク海及び黑海の利用が出來なくなれば、歐洲方面よりの輸出入は全く杜絶狀態となる。

斯くて、物資供給地及び輸送路としての近東、極東、米國、南洋方面の意義が重大になつて來るものと見ねばなぬ

（昭和一四・一〇・三一、淺田萬喜雄）

第二章　日滿對ソ聯邦の經濟的提携の可能性

緒　言

今次歐洲動亂の發生により各國ともその對外依存の程度に於て對外經濟關係の再檢討を餘儀なくされるに至つた。

さきにも述べた如く、ソ聯邦は歐洲動亂の前にその五年計畫の再修正を餘儀なくされ、一方その原料の輸入確保のため及び輸入資金獲得のため、何等かの方法によつて極東方面との貿易をも發展せしめなければならない立場に置かれてゐる。

他面、日滿兩國を繞る國際情勢について見るに、現在支那事變の處理、對英關係の調整、日米通商條約の廢棄等の諸問題が當面の課題となつてゐるが、更に、動亂の發生による對獨伊貿易の實質的廢棄の前に、その物動計畫、或は産業五年計畫の改訂を餘儀なくされてゐる。

然るに、日ソ關係について見るに、本年五月末の所謂第二次ノモンハン事件以後三ケ月以上も續けられて來た滿蒙紛爭事件は僅々數回の折衝によつて解決を見、ソ聯邦側に就いて見ても本十月三十一日には、モロトフが日ソ兩國々交關係の根本的改善のため何時でも交涉の用意ある旨表明して居り、これを機會に兩國政治關係好轉の可能性が濃化して來た。

この秋に當つて日ソ兩國は既存の政治上及び感情上の對立に基く惡關係を清算し、相互にその經濟的緊密關係を樹立することは出來ないものであらうか？　若し可能であるとすれば何の程度の接近が可能であらうか。

以下この問題につき日滿側及びソ聯邦の經濟的特徵―特に貿易面より見た―よりして、次の順序により檢討を加へて見よう。

一、日ソ貿易の推移と現狀
二、滿ソ貿易の推移と現狀
三、ソ聯邦の輸入の必要性（イ、ソ聯邦全體として　ロ、ソ領極東地方として）
四、日滿の對ソ輸出の可能性
五、日滿兩國の輸入の必要性
六、ソ聯邦の對日滿輸出の可能性
七、シベリヤ鐵道の輸送能力
八、結　論

一、日ソ貿易の推移と現狀

日ソ外交關係は之を歷史的に見るならば、世界大戰當時の協調時代、一九一七年より二五年までの、ソヴェート新政權誕生、尼港事件、日本のシベリヤ出兵及び北樺太保障占領並に對露舊債權問題を繞る斷交の時代、國交恢復を見た一九二五年一月より滿洲事變に至る七ケ年間の日ソ國交好調期、滿洲事變以後、日獨防共協定の締結、漁業問題を繞る紛爭及び滿ソ國境紛爭激化等に起因して日ソ國交關係惡化し、現在に至るまでの時代の四期に分つことが出來るが、この國交關係の歷史的推移は兩國貿易の發展にそのまゝ反映し、兩國政治外交關係の好轉或は惡化に平行して兩國貿易關係も發展或は萎縮し、極めてジグザグな過程を辿り、今日殆んど經濟斷交に近い狀態になつてゐる。即ち、日ソ貿易の推移を外交關係のそれと照應せしめつゝ、量的に見るならば次の如くなつてゐる。

1、世界大戰中の日露貿易　歐洲大戰當時日露兩國は獨逸を敵として、英米佛と共に對獨「共同戰線」を結成せる結果、政治關係は甚しく親和的であり、之を反映して、日露貿易も亦甚しい發展を示した。

特に獨露の國交斷絕により獨逸品の露國への輸出が杜絕せること、大戰中歐米諸國の産業が正常なる狀態を失つたこと、露領極東のモスクワよりの孤立及び日本工業の飛躍的發展等の原因により、日本の對露輸出は露領極東のみではなく、全般的に發展した。當時露國は獨逸よりの輸入に甚しく依存し、一九一三年について見るに、露國の貿易に占める獨逸の割合は輸出の二九・八%、輸入の四七・五%で、最近一九三七年の六・二%及び一五%に比較すれば特に輸入に於てロシアは獨逸に依存する程度が大きかつたのであるが、これら露國の獨逸よりの輸入が日本に振り向けられた結果日本の對露輸出は急速に發展した。

即ち、大戰中に於ける日露貿易總額は大戰勃發前の九百萬圓より大戰の第三年目には一億五千餘萬圓に激增、日本

の輸入貿易に占める露國の地位は歐洲大戰前の十一位から一躍第三位に進み、沿海洲方面への食料品（砂糖、鹽、麥粉、米）、歐露への軍事工業製品及び一般工業製品（軍需品、漁業用設備、金屬製品、藥劑等）の輸出が盛んに行はれ、一方露國の〆粕、毛皮、魚類の對日輸出も之に追隨して增加した。

（第一表）　世界大戰中の日露貿易（單位千圓）

	對露輸出			日露輸入			バランス
	亞露	歐露	合計	亞露	歐露	合計	(イ)日本の出超 (ロ)日本の入超
大正二年（一九一三年）	四、二七	四、八九七	九、一六八	七五〇	(ロ)	八、三七八	
大正三年（一九一四年）	一〇、四一三	一、九六七	一二、三八〇	一、〇三五	三九	一、〇六四	(ロ) 一、三一六
大正四年（一九一五年）	七八、二九九	二、二五九	八九、五三八	三、五六四	六〇七	四、一七一	(ロ) 八五、三六七
大正五年（一九一六年）	一二七、六九三	三三、四二一	一五一、一一四	一、七一四	一、一〇四	二、八一八	(ロ) 一四八、二九六
大正六年（一九一七年）	七四、二二四	二三、五二四	八七、七四八	三、七五四	一、三〇九	五、〇六〇	(ロ) 八二、六八八

2、大戰後國交斷絶期の日ソ貿易　だがこれは變態的一時的現象の結果であり、この緊密關係は、ロシヤ革命、次いでソヴエート政權の成立、日本の對ソ武力干渉、尼港事件の發生、日本の北樺太保障占領等の政治的事件により兩國國交が斷絶すると共に冷却化して行つた。

而も、内亂及び武力干渉の終焉と前後して、一九二二年頃より、西歐諸國とソ聯邦との國交關係が恢復し、ソ聯邦の對歐貿易が開始されるに至つて日ソ貿易は殆んど杜絶狀態になり、只、シベリヤ方面との貿易が大戰中の餘勢をかつて若干維持された狀態であつた。

此の間、日本は一九二三年に沿海洲より撤兵し、次いで一九二五年北京に會商して、漸くソ聯邦との間に修好並に歐諸國が比較的有利に對ソ貿易を發展せしめたにも不拘、日本は對ソ輸出を發展することが出來なかつた。

而して、その最も大きい原因は、ソ聯邦が當時極端なる物資の缺乏に苦しみつゝも、工業建設を强行せる結果、國の工業化に必要な生産設備及び原料の輸入を第一とし、消費財の輸入は之を極力節減した事、及び日本が當時世界的經濟恐慌の餘波を受けて不況に喘いで居り、ソ聯邦にクレヂツトを供與してまでも輸出を計り得なかつたこと等である。

斯くて對ソ輸出が不振であつた一方、日本は歐露の白金亞露の木材、石油、毛皮等の輸入を增加した結果、貿易尻は日本の不利になり、日ソ國交好調期に於ては日ソ貿易總額は一九二六年の二千九百萬圓から五千萬圓と二倍の增加を示したに過ぎなかつた。

承認に關する日ソ基本條約を締結、國交を恢復したのであるが、日ソ貿易は萎縮の一途を辿るのみであつた。

即ち、一九一八年の日ソ貿易總額は前年の九千二百萬圓に對して四千五百萬圓と半減し、日ソ國交恢復せる一九二五年には更に半減し、一千八百萬圓となり、對ソ輸出は三百萬圓、輸入は千四百萬圓程度に過ぎなかつた。

3、日ソ國交好轉期の日ソ貿易　國交恢復後滿洲事變勃發までの日ソ關係は、漁業問題を巡つて一時惡化したこともあつたが、一般に見て好調であつたとは云へ、貿易關係は所期の發展を示さなかつた。時恰も、ソ聯邦にとつては産業復興に次いで第一次五年計畫を實施し、その工業建設に努力してゐた時代であつて、日本の對ソ輸出は激增するかに見えたが、工業建設が專ら歐露に於て行れたため、西

（第二表）　一九二六―三一年の日ソ貿易（單位千圓）

	對ソ輸出			對ソ輸入		
	亞ソ	歐ソ	計	亞ソ	歐ソ	合計
昭和元年（一九二六年）	五、二九九	四	五、三〇三	二三、八八三	七九三	二四、六七六
二年（一九二七年）	四、一〇一	一	四、一〇二	二九、一八三	七九七	二九、九七九
三年（一九二八年）	三、一〇一	一	三、一〇二	二九、一八三	七九七	二九、九七九

昭和二年(一九二七年)	七、七七六	八六九	八、六四五	二四、五二六	一、六〇六	二六、一三三	三三、三〇三	二、四七五	二四、七七二
三年(一九二八年)	一二、一九七	一、一九七	三、一四五	二一、九七一	二、一四一	二四、一二三	三三、一六八	三、三三八	三六、三〇六
四年(一九二九年)	一五、〇三三	二、三〇三	一七、三六	三三、八四四	三、〇八〇	二五、九四四	三七、九〇七	五、三八三	四三、二六九
五年(一九三〇年)	二六、九七三	一、三四五	二八、三一八	三七、二八	二、五八二	二九、八〇〇	四五、八二	九、二七七	五四、一四三
六年(一九三一年)	一四、四四二	二、一三四	一七、〇五五	三〇、八八〇	三、七七七	三四、六七七	四五、八三	九、二七七	五四、一四三

尙、此の期間に於て、ソ聯邦は日本に對し、北樺太の石炭及び石油利權を認め、又一九二八年に至つて錯雜せる漁業問題に關し協定を締結して、日本の北洋漁業權益を再確認し、西樺太の石炭、東樺太の石油、沿海洲の木材、カムチヤッカ及オーック地方の金の利權を日本の會社に許可したが石炭、木材、金鑛の利權契約は或は企業着手後或は着手前に放棄の外なき運命に立ち至り、北樺太石油、北樺太鑛業の二大利權が尼港事件の代償的意味に於て殘されたに過ぎず、而もその企業經營は、ソ聯邦の不法壓迫、細目取極の歪曲改訂によつて、始終兩國間の親善關係に大きい障害を釀成し、從つて日ソ兩國に通商條約も屢々問題となつたが、日ソ復交約十四ケ年を經た今日まだ具體化されない狀態であつて、これが又、兩國の貿易發展を阻止した原因でもあつた。

4、第四期　この期間は滿洲事變の發生以後今日までの時代である。而して此の期間に於ては日ソ貿易關係の發展を阻止せる要素と、助長せる要素との二つがあつた。即ち、前者は滿洲事變を契機とする日本の大陸進出と、ソ聯邦を目標に置く日獨防共協定の成立並に日支事變の勃發と滿ソ國境紛爭であり、後者は北鐵讓渡協定の締結である。

而して、前者は政治的な原因であり、後者は經濟的なものであるが、この北鐵讓渡協定の成立により、兩國の政治的紛爭は一時休止狀態となり、貿易關係も急速に發展して行つた。

ソ聯邦は右協定により、既に滿洲國の成立以來利用價値が減少し、その經營上莫大な負擔に苦んでゐた北鐵を一九三五年三月滿洲國に賣却し、その代償價格の三分の二、即ち九三三〇萬圓を駐日ソ聯邦通商代表部の注文になる日滿兩國商品によつて受取ることゝなり、これによつて滿洲事變以來の日ソ國交關係は一時鎭靜化したのみならず、凋落氣運にあつた日ソ貿易も亦、急速に發展傾向を示すに至つた。

因みに北鐵讓渡協定に基くソ聯邦の日滿物資注文狀況及びそれによる輸入狀況を示せば次のごとくである。

（第三表）　北鐵協定による物資注文及引渡狀況

物資注文狀況（日滿の承認總額）

機械類	一八、四五二
大豆及大豆油	九、二二四
絲	七、八二〇
織物類	五、二三五
帶鐵及鐵板	二、七三三
人絹	一、八〇五
船舶	一八、三三四
鋼線	八、五四四
セメント	五、九六八
ロープ	五、一六七
小麥類その他	九、二三三
合計	九二、五一七

物資引渡額（一九三七年五月まで）

茶	四、五〇〇千圓
漁具（網）	一、四〇〇
セメント	四、五〇〇
金屬（錫、銅）	八〇〇
化學製品及染料	九〇〇
絹、毛、綿織物	五、八〇〇
人絹	一、八〇〇
銅糸のケーブル	八、〇〇〇
靴底革	一、九〇〇
（註一）機械類	一二、〇〇〇
（註二）船舶	五、〇〇〇

註一　機械類の內譯は移動式發電裝置、電動機、發電機、變壓機、電氣溶接機、電氣起重機コンプレッサー、チーゼル機關、石油發動機、施盤、ポンプ等である。

註二　船舶の内譯は、川崎船、鱒漁船、カッター、曳船、スクナー、油槽船、水上移動式起重機等で、之が製造を監督するためソ聯邦は日本に專門家を派した。

（第四表）　最近の日ソ貿易　（單位百萬留）

	ソ聯邦の輸出	ソ聯邦の輸入	合計	バランス (+)ソ聯邦の出超
一九二九年	八四・一	三五・九	一二〇・〇	(+)四八・二
一九三〇年	七〇・一	七三・二	一四三・三	(−)三・一
一九三一年	八四・五	五五・二	一三九・七	(+)二九・三
一九三二年	四三・八	二〇・六	六四・四	(+)二三・二
一九三三年	三九・九	三二・〇	七一・九	(+)七・九
一九三四年	二五・〇	三〇・二	五五・二	(+)四・八
一九三五年	二三・五	△四七・三	七〇・八	(−)二三・八
一九三六年	二六・六	△六一・九	八九・六	(−)四五・二
一九三七年	一一・七	△五四・三	六六・二	(−)四二・六
一九三八年（一—二月）	五・八	一六・八	二二・七	(−)一〇・九

即ち、北鐵讓渡契約に基づく、ソ聯邦への物資引渡しの終了に伴ひ、日本の對ソ輸出は激減し、一九三八年にはソ聯邦の日本よりの輸入額は一九三七年の五千四百萬留より千六百萬留となり、一方ソ聯邦の對日輸出は一九三七年の千百萬留より五百萬留に減少して了つた。

而して、最近日本の貿易に於いて占めるソ聯邦の地位及びソ聯邦の貿易に占める日本の地位について見ると次の如くなつてゐる。

（第五表）　日ソ兩國貿易に於ける相互の割合（%）

	日本貿易に占めるソ聯邦の割合		ソ聯邦貿易に占める日本の割合	
	ソ聯向輸出	ソ聯邦よりの輸入	日本向輸出	日本よりの輸入
一九二九年	—	—	二・二	〇・九
一九三〇年	一・九	二・四	一・五	一・六
一九三一年	一・四	二・六	二・四	一・一
一九三二年	一・〇	一・一	一・八	〇・七
一九三三年	〇・七	一・八	一・八	二・二
一九三四年	〇・五	一・七	一・四	三・一
一九三五年	一・一	〇・七	一・五	四・五
一九三六年	一・二	〇・七	二・〇	四・六
一九三七年	〇・八	〇・三	〇・七	四・三
一九三八年（一—二月）	—	—	〇・四	一・三

即ち、最近の日本のソ聯邦貿易に於ける割合は輸出〇・四%、輸入一・三%で、反面ソ聯邦の日本貿易に於ける割合は輸入〇、三%、輸出〇、八%、總體的に見て日ソ兩國の貿易關係は極端に薄弱化してゐる。

主要品目輸出入、次に日ソ間に取引されてゐる物資であるが、本文中にその總てを表示することは煩雜であるから之をはぶき重要なもののみについて述べて見よう。

世界大戰中に於ては、さきにも述べた如く日本より軍需品の輸出が增大し、銅、羅紗、アンチモニイ、其の他の金屬、硫黃、樟腦、沃度、加里、藥劑化學用品等が多量に輸出され、反面魚類、皮革、サントニン等がロシヤより輸入され、日露貿易は躍進の一途を辿つたが、ソ聯邦の工業化の進展に伴ひ、この輸出及び輸入の內容は變化して來た。

即ち、「石油、石炭、滿俺鑛、石綿、肥料、黑色金屬、化學、藥劑工業製品の如き、それまで日本から輸入してゐた工業製品が漸次重要な輸出の對象となり、對日輸出の最も盛んであつた一九三〇年にはソ聯邦の對日輸出に占める工業製品の割合は七二、六%、翌々一九三二年度には八六・五%となつた。が、その後日ソ間の政治的對立の激化に起因して、銑鐵、マンガン等の對日輸出を極力縮少し、これ

を英米諸國に振り向けることゝなり、」最近では、原木、石炭、石油、石綿、サントニン、化學藥劑工業品、銑鐵、その他若干の機械工業品のみが輸出され、而も、その輸出は減少傾向にある。だが、ソ聯邦にとつて日本が、その輸出市場としてとるに足らないものであるかと云ふに決してさうではない。このことは次表によつても明らかだ。

（第六表）ソ聯邦の輸出に占める日本の割合

	一九三六年			一九三七年（一―九月）		
	ソ聯邦の總輸出高	內日本向	%	ソ聯邦の總輸出高	內日本向	%
原木	四二七、七四三	三一、五〇〇	七三	二六四、三六七	二二、九三六	八・六
石炭	八六二、一九三	二四九、三二三	二八・九	四五一、六二二	八四、一五一	一八・六
石油	二、六五三、二八二	二九、八九八	八・三	一、四七三、八九八	九六、九六二	六・五
石綿	二六、一五五	一、八六九	七・一	二一、〇七五	二、五一〇	一一・九
マンガン鑛	—	—	—	七六二、八九三	—	—
サントニン	二百五瓩	一百留瓩	五〇・〇	五瓩	三瓩	六〇・〇
機械	—	〇・二	〇・四	四一・三	〇・一	二四
銑鐵	七一〇、六六一瓩	三六三、八三二	五一・二	一一七、一八〇	一五、九七三	九〇・四

即ちソ聯邦は最近銑鐵の九〇%、サントニンの六〇%、石油の六・五%、石炭の二〇%、原木の約一〇%を日本に供給してゐる。尚、それらの物資は日本側から見れば重要な軍需工業用原料であることは注目すべきである。

次に日本からのソ聯邦の輸入について見るに、その內容も輸出に於けると同樣變化した。ソ聯邦は曾ては日本から各種の金屬製品、機械器具、工作機、漁業用設備を輸入したが、國內工業の發展と對日輸入を第三國へ振り替へたことに起因して、有色金屬、化學工業製品の輸入は減少し、沃度、ゴム製品の輸入は殆んど停止され、現在專ら日本から輸入されてゐるのは極東用の穀物及び同製品、野菜、果實、茶、木材、生畜、罐詰類、砂糖、皮革、セメント、染料、紙、魚網（麻製品）、黑色金屬、同製品、機械及び船舶である。

（第七表）ソ聯邦の主要商品輸入に占める日本の割合

	一九三六年			一九三七年（一―九月）		
	ソ聯邦の輸入	內、日本より	%	ソ聯邦の輸入	內、日本より	%
穀物（瓲）	五九、〇九八	八三二	〇・〇一	三四、四八六	一、三九五	四・一
米	五二、五八〇	五七八	〇・〇一	三四、三九〇	一、〇八二	三・一
麥粉（〃）	八、〇九三	七、九一七	九七・八	一、〇八三	二一	二・九
果實（〃）	一三、三三三	三五九	〇・〇	三〇、二四三	三四	一・一
菜（〃）	三、七五〇	二、四七五	六五・七	一、四六一	三〇	二・〇
野菜種子（〃）	一九、七一七	一四、八九〇	七五・五	七、七六八	二	〇・〇
茶（〃）	一二、二五七	二、六四〇	二一・六	三、六九七	二八七	七・六

木材（趲）	九、五一〇	三、三二六	三四・九	七、七六一	一、四九八	三二・一			
生畜（〃）	一〇三、四一一	三一	〇・〇	三八、九七五	六	〇・〇			
植物油（〃）	二、三〇四	一、二一九	五二・九	二、四二八	四五	一・九			
肉（〃）	二、八一二	四七六	一六・九	一、〇九六	三〇六	二七・九			
罐詰（〃）	六九四	五一四	七四・一	二九一	二八九	九九・三			
砂糖（〃）	三〇七	三〇六	九九・七	九〇	九〇	一〇〇・〇			
皮革（製品）（〃）	二、五五六	五八二	二二・八	九一七	一五二	一六・六			
鹽（〃）	六、三三四	二、〇〇〇	七六・五	二二	一〇〇・〇	一〇〇・〇			
セメント（〃）	一〇〇、二三三	一〇〇、一八一	九九・八	二一九、七一五	二一九、七一五	一〇〇・〇			
陶磁器（〃）	一、六一	九二〇	五七・一	一、〇二七	九五八	八三・三			
モリブデン鑛（〃）	一、五二三	—	—	二、一一五	二五	一・二			
ゴム製品（〃）	二八	一九	六七・九	三四	二一	六一・八			
染料（〃）	一、三五九	七三	五四	五八七	九八	一六・七			
紙（〃）	一、七〇三	一五一	八・九	一、一八二	四二	三・六			
麻製品（漁具）（〃）	三二五	二七二	八三・七	一五一	二八	八四・八			
毛織物（〃）	三三一	三一七	九五・八	一一	—	—			
衣類（千留）	七七五	五九三	一一・七	二五七	一三五	九一・四			
黑色金屬日製品（百萬留）	一三一・二	五三・七	二・八	八〇・四	四・七	五・八			
鐵鋼材（趲）	六二、七二五	三、二一六	五・一	二八、一六六	一、九一六	六・八			
鐵鋼材（〃）	一四六、一八八	一、二六九	〇・九	九七、四五六	一、九〇九	二・〇			

ブリキ（〃）	一〇、一六〇	四〇九	四・〇	四、九四四	三六一	七三			
針金（〃）	一〇、八四九	一、六八一	一五・五	八、五五四	二、五九〇	三〇三			
鐵管（〃）	三六、八三三	三、七三五	一〇・一	二〇、四四六	二、五四五	一一・四			
レール（〃）	四、五九七	三四九	七・六	一、一〇四	一、一〇四	一〇〇・〇			
一般機械（千留）	四〇二、二二五	八、六七八	〇・八	二八〇、五七五	八、八四八	三・二			
工作機（〃）	二、六、〇五六	一、六九二	〇・八	一〇六、七九一	三、五八三	三・四			
精密機械（〃）	二八、五九〇	二一七	〇・八	一五、八八七	八〇	〇・五			
電氣機械（〃）	五九、〇二二	一一、五六五	九・六	三五、五二七	二、五四五	七・二			
運輸材料（〃）	三七、二九二	一、五五五	一四・四	一七、八八一	一〇、九八四	六一・四			
船（〃）	三〇、〇五二	四、九二八	一六・四	一五、一〇八	一〇、六三一	七〇・四			

ソ聯邦の全輸入に於て日本の支配的地位を占めてゐる物資は茶、肉、罐詰、砂糖、皮革製品、鹽、陶磁器、ゴム製品、染料、衣類等の輕、食料工業品で、或物資に於てはその殆んど全部が日本品によつて占められてゐる。これは、專らソ聯邦の極東が自給自足し得ず、その需要を日本品によつて充足しつゝあるがためである。

而して、右輕、食料工業品以外に、工業用機械、鐵製品、本產針金及びレール、セメント、運轉材料、特に船舶、並に魚具等の生產及び建築材料は夫々八〇%—一〇〇%を占めて居り、この內には北鐵協定に基く輸入が大量に含まれてゐるとは云へ、特にソ聯邦極東建設に日本の物資を利用しつゝあることが看取される。

而して之等の物資が、特に極東の軍事的防備、北洋漁業に於ける日本との競爭のために利用されうる關係上、日本の輸入も看過してはならぬ。即ち、ソ聯邦の輸入に於て日本側に於ては、政治的考慮よりして、その輸出を制限しつゝ

あり、而も、建設材料及び輕工業品に於て之を滿洲國に振り向けねばならなかつた關係上、近年では日本からのこれら物資の輸入も殆んど杜絶狀態に至つた。

斯くの如く、政治的及び經濟的理由からして、日ソ貿易は萎縮して終ひ、ソ聯邦は、嘗て東京に駐日通商代表本部を置き、その支部を大阪、神戸、函館、大連、京城の各地に設置し、日ソ貿易の調整に從來したにも不拘、近年之等を漸次廢止して了ひ、現在では駐日通商代表部を東京に置くのみとなり、日ソ貿易は此處に全面的後退を示しつゝあるのである。次に滿ソ貿易に就いて見よう。

二、滿ソ貿易

貿易の推移　ソ聯邦は滿洲に於て東支鐵道を對滿政策遂行のための政治的經濟的據點として利用して來たが、一九三二年滿洲國の成立するに及んで、漸次この政策遂行が不可能となり、遂に一九三五年北鐵を滿洲國に讓渡して、滿洲より撤退して了つた。

而して、滿ソ貿易は如何と云ふに、ソ聯邦の滿洲に於ける勢力の衰退と平行して輸出入とも萎縮の一途を辿り、一九三五年に於て北鐵讓渡協定に基き滿洲國より輸入が行はれたにも不拘、增加せず、現在では全く日ソ貿易と同樣となるにたらないものとなつてゐる

今、滿洲國との貿易の推移を滿洲國外國貿易統計月報によつて示すと次の如くなつてゐる。

（第八表）　滿ソ貿易の推移　（單位千圓）

	ソ聯への輸出	ソ聯邦よりの輸入	合計	バランス
一九三一年	四五、四四六	一四、四四一	五九、九四八	(+) 三一、〇〇四
一九三二年	三四、四一二	七、五三三	四一、九四五	(+) 二六、八八九
一九三三年	一三、三五九	七、五六七	二〇、九二七	(+) 五、七九二
一九三四年	八、四二三	四、八八〇	一三、三〇三	(+) 三、五四三
一九三五年	四、六六六	一、二九八	五、八三〇	(+) 三、四九三
一九三六年	一、五八五	二六二	一、八四六	(+) 一、三二九
一九三七年	一四五	七〇一	八四六	(−) 五五六
一九三八年	二九	三二	六二	(−) 二

即ち、滿ソ貿易高は一九三二年の四千百萬圓より、年々減少の一途を辿り、一九三八年に至つて六萬圓と減少し、對ソ輸出は二萬九千圓、輸入は三萬二千圓に過ぎぬ。從つて滿洲國にとつても、ソ聯邦にとつても、貿易の意義と云ふものは現在のところ全く問題にならない。滿洲貿易に於けるソ聯邦の割合について見ても一九三二年に於てソ聯邦は滿洲國總貿易高の四・四%を占めてゐたが、一九三三年二・二%、一九三四年一・三%、一九三五年〇・六%、一九三六年〇・四%、一九三七年及八年〇・〇一%と低下してゐる。尙ソ聯邦の貿易統計には全く對滿貿易統計は記載されてゐない。

主要商品の對ソ輸出　次に滿洲國側の資料によつて先づ對ソ輸出について見るに、一九三二年頃には滿洲國は大豆を筆頭として豆粕、豆油、小麥、小麥粉、その他各種の農産物、食糧品を多量にソ聯邦へ輸出してゐたが、之等は何れも減少の一途を辿り、一九三六年に於ては大豆及び植物油の輸出が若干行はれたに過ぎず、一九三七、八年に於ては何が輸出されたか分らない程である。今、一九三五―六年について滿洲國の對ソ輸出狀況を示せば、次の如くなつてゐる。

（第九表）　滿洲國の對ソ輸出　（單位千圓）

	一九三六年	一九三五年
動物及同製品	七・八	一四・七
大豆・豌豆	九七・一	三、六七四・二
米	—	四・一
藥材香料	〇・一	—
植物性油	一二四・三	四三三・七
種子	—	四・三
木材	一・四	一・三
織物	〇・一	—
金屬及製品	〇・一	〇・〇
雜貨	三〇八・〇	三四七・四

ソ領極東地方並にザバイカルはその農業生產力低く、ために從來長期間に亙つて食料及び穀物等の生活必需品を大量に滿洲より輸入してゐたが、一九三二年以降ソ滿國境の不安、之に次ぐ東部線の封鎖、滿洲國側の貿易統制その他により對ソ輸出は著しく減少した。

が、ソ領極東は後に述べる如くまだ自給自足の域に達してゐないため、滿洲の農産物に負ふところが可なり大きかつた。

主要商品の對ソ輸入　從來滿洲には多數のソ聯人及びロシヤ人が居住し、これらの需要を滿たすために各種の物資がソ聯より輸入されてゐたが、北鐵讓渡以後ソ聯品の常用者の減少したこと、及び滿洲市場が日本によつて獨占されたこと等により、各品目とも極度の減少を示した。而してこの傾向に拍車をかけたものは滿ソ間の政治的對立であることは云ふまでもない。

今、滿洲のソ聯邦より輸入せる商品について示せば次の如くである。

（第十表）　滿洲國のソ聯邦よりの輸入　（單位千圓）

	一九三六年	一九三七年
纖維物質及同製品	〇・二	三一・六
鑛物及金屬同製品	〇・一	二・一
車輛及船舶	四・八	四・二

ソ聯邦よりの滿洲國の輸入の著減したことは、前にも述べた如く、ソ聯邦の勢力が滿洲より後退し、これに代つて、日本が、滿洲市場を獨占したゝめであるが、特に滿洲國が、ソ聯邦と同樣經濟建設過程にあつて、相互に工業用原料及び機械の輸入を必要とし、相互に、有無相通ずるところの餘裕を持たなかつたことが、滿洲國の對ソ輸出を萎縮せしめた最大の經濟的原因である。

斯くて、從來哈爾濱を中心として全滿各地に設けられてゐたソ聯邦の通商代表部、石油トラストその他各種の經濟機關も漸次廢止され、此處に滿ソ貿易は慘憺たる衰頽振りを示すに至つたのである。

以上日滿對ソ聯邦貿易の推移及び現狀について見て來たが、日滿對ソ聯邦貿易はその地理的關係からして發展すべき多くの條件を有せるにも不拘實際には餘り發展せず、最近年には三國通商關係は殆ど斷絶の一步手前にまで進んでゐる。

では何故に、地理的に見て緊密關係にある可き筈のソ聯邦と日滿との間の貿易がかくの如く發展せずして、反つて減少しつゝあるか？これが原因を以上述べ來つたところよりして總括して列擧すれば大體次の如きものと考へられる。

（一）日滿及びソ聯邦相互の國體の主義的、根本的相異に基く政治上及び感情上の對立の存在とその激化。

（二）日本の大陸進出とソ聯邦の東進政策（或は極東赤化政策）との對立とその激化。

（三）（一）及び（二）に起因する兩國諸懸案、即ち北洋漁業問題、北樺石油及び石炭利權問題が兩國の紛爭を激化せしめたこと。

（四）以上は政治的原因であるが、經濟的には、日本が輕工業製品の輸出國であり、滿洲國は農業國であるが、ソ聯邦は國の工業化政策强行過程にあつて、極力大衆の需要を削限し、貿易を國營企業の發展に奉仕せしめてゐる關係上、その輕工業品及び食料の對ソ進出の困難であつたこと。

（五）工業化過程にあつたソ聯邦の輸入必要品は專ら生產財、特に原料及び機械であつたが、滿洲は勿論日本も右の輸出を大規模に行ひ得なかつたこと。

（六）而も日滿より輸出可能な商品にあつても、之等はソ領歐洲方面の經濟建設に利用さる可きものが大部分であつて、日本は運賃の關係上イルクーツク以西に輸出し得なかつたこと。

（七）ソ聯邦の主要輸出品が、專らソ領歐洲に於て生產され、而も國際的商品であつて、日滿よりも歐洲へ向けうる可能性の多かつたこと。

即ち、兩國の經濟的紐帶が極めて薄弱であり、政治關係によつて貿易が左右されうる可能性が大きかつたことである。

（八）叙上の如き諸原因からして、未だ兩國間に通商關係調整のための法的基礎、即ち通商條約の締結されてゐない

水產物	九六・〇	一九四・五	
畜產物	一・〇	四二・七	
藥材及香料	四八・四	一・七	
煙草	八・〇	一・九	
化學製品	二・七	四・六	
石油同製品	六・〇	一二六・一	
皮革	五九・五	二三九・一	
建築用木材	〇・七	四五七・一	
石炭	二七・六	二〇・六	
硝子	〇・一	一・六	
雜貨	二六〇・九	一、一六八・二	

こと。

（九）貿易組織の相違に起因し、貿易技術上の障害の多かつたこと。即ち、日本の貿易クレヂット期間の短いこと及びソ聯邦の貿易獨占による幾多の障害の存在せること、その他である。

叙上の如き諸原因は日ソ通商關係を阻止して來た最も大きい原因と目されるが、では兩國の通商關係は此の儘の狀態で放置さるべきか？　否、緒言にも述べた如く、日ソ兩國は今次の歐洲動亂の影響を受けて自國貿易に新しい面を開かねばならない國内的理由を持つてゐる。

ソ聯邦については、「歐洲動亂のソ聯邦貿易に及ぼす影響」に於て述べた如く、歐洲方面に於ける輸出入の困難なると關聯して、極東方面へ新市場の開拓を餘儀なくされ、特に第三次五年計畫による極東建設は多量の食料及び建設材の輸入を必要としてゐる。反面日本に於ては、原料の輸入難、それに關聯する輕工業の不振、輸出産業の萎縮あり、對獨伊貿易の杜絶は日滿の産業擴充計畫の再檢討を餘儀なくせしめてゐる狀態に立至つてゐる。

此處に於て日滿及びソ聯邦は從來の政治的對立感を捨て、新しい法的基礎の上に兩國通商關係を打開すべき必要があるのでないか。

兩國イデオロギーの對立は、今後兩國の存在する限り、何時までも存在するとは云へ、それは相近接する國々の經濟關係を發展せしめてはならないとの理由にはならぬ。日本は現にソ聯邦より漁業、石炭及び石油利權を得て、之が開發を行つてゐるではないか。

嘗て、互に仇敵視した獨逸は現にソ聯邦と相提携してゐる。

日本も、滿洲國も、そしてソ聯邦も歐洲動亂に直面して新しい貿易面の開拓の必要にせまられてゐる現在に於ては當然、地域的に近接するソ聯邦を、そして日滿を相互にその通商相手國として考慮すべきであつて、要は相互間に經濟的に提携しうる可能性があるかないかである。

依つて、以下、日滿對ソ聯邦の通商關係の現狀打開のための經濟的可能性について見よう。

三、ソ聯邦の輸入の必要性

そこで先ず問題となるのは日本がソ聯邦に對して何をどの程度に輸出しうるかであるが、これにはソ聯邦が現在何をどの程度に必要としてゐるかを知らねばならぬ。此の點について、我々はソ聯邦全體として何を輸入せねばならぬか、又、ソ領極東が何を必要としてゐるかの二つに分つて見ることが出來る。

1、ソ聯邦全體として必要とする物資　これに就いてはソ聯邦の自給自足性の方面から既に本誌「歐洲動亂のソ聯邦貿易に及ぼす影響」の項に於て述べた。が、それは主としてソ聯邦の戰時經濟的觀點から見たものであつて、ソ聯邦は更に他の幾多の物資に於て之が輸入を必要としてゐるものと考へられる。

事實、ソ聯邦の一九三五年以來、一九三八年十一月までの三年十一ケ月間に於ける物資の輸出入の年平均を見、ソ聯邦の輸入超過となつてゐる物資について見ると、自給自足の方面から見て輸入の必要な戰略的物資の他に多數物資に於て輸入を必要としてゐることが判る。今之等の商品の輸出及び輸入量を對比して、入超の物資のみを、戰略的に輸入を必要としてゐる物資と共に列記すれば次の如くである

ソ聯邦の輸入超過物資及數量

（第十一表）　（一九三五―三八年一・一一月の年平均）

		輸出量	輸入量	入超高
第一群	戰略原料及半製品			
1	鋼材	(瓲)三四、二二三	(瓲)四七、三〇四	(瓲)一三、九三
2	鐵鋼板	四、九〇八	一三、三三	八、四二四
3	ブリキ	七	四、八四八	四、八四一
4	合金鐵及良質鋼	五四	五、六七六	五、一二五
5	鐵管	三、三二四	三、三、三八八	二八、八六四
6	針金	四、八四四	一二、五三六	七、一七二
7	硫黄	一三	七九三	七八〇
8	棉花	一七、六四〇	二五、三三六	七、七一六
9	銅	三	四八、五四〇	四八、三二八
10	アルミニューム	〇	二、四二四	二、四二四
11	アンチモニイ	一	一、三三	一、三三

12 ニッケル	〇	七、七二八	七、七二八
13 亞鉛	〇	一、二四八	一、二四八
14 ヂュート	五	四三、一七六	四三、一七一
15 シザール、ケナフ麻	二四〇	二、九〇四	二、六六四
16 鉛	六〇	一八三、三三六	一八三、二七六
17 錫	五	三、四〇四	三、三九九
18 水銀	—	—	—
19 羊毛	二一六	二七、二八八	二七、〇七二
20 ゴム	〇	三一、七二八	三一、七二八
21 セメント	八五、二七二	一三一、〇四〇	四五、七六八
22 モリブデン鑛	—	一、七五三	一、七五三
第二群 機械類	(千留)	(千留)	(千留)
23 ボイラー、その他	四三二	一、〇五六	六二四
24 蒸氣汽關	二四〇	四、四五三	四、二一三
25 內燃機關	三六〇	一八、一六八	一七、八〇八
26 ポンプ	二四〇	五、九一六	五、六七六
27 壓搾機	二四	五、二〇八	五、一八四
28 排・送風機	一一〇	二、四四〇	一、三三〇
29 起重機コンベアー その他	五二八	三、〇四八	二、五二〇
30 浚渫機、掘鑿機	—	七九二	七九二
31 選、洗、碎鑛機	一二	三、九三六	三、九二四
32 製紙機械	六	一〇、三四四	一〇、三三八
33 印刷機	一四四	二、九二八	二、七八四
34 紡織機械	三、五一六	七、三二〇	三、八〇四
35 鑛山及工場用排氣器	四	一、一一六	一、一一二
36 金屬旋盤	二五二	四六、五八四	四六、三三二
37 同 平削機	四八	六、二五二	六、二〇四
38 同 轉削機	七二	三、一〇八	三、〇三六
39 同 研磨機	三六	二四、一四四	二四、一〇八
40 齒車製造用機	一二	一〇、九八〇	一〇、九六八
41 金屬壓機	〇	一〇、九九二	一〇、九九二
42 蒸汽、氣壓ハンマー	七	一、三九二	一、三八五
43 金屬切斷機	二四	五、三五二	五、三二八
44 木材加工機	三六	二、五六八	二、五三二
45 秤(精密秤を除く)	二四	五七六	五五二
46 タイプライター	一一	二、七〇〇	二、六八九
47 壓延機	—	七、八三六	七、八三六
48 瓣、活栓、シーバー	三〇〇	一七、〇八八	一六、七八八
49 ボール・ロール・ベアリング	二一六	二、〇八八	一、八七二
50 發電機、モーター	四六五	四、五六〇	四、一〇四
51 變壓機	一〇八	三一二	二〇四
52 電流分離・調節機及配電機	二一六	九七二	七五六
53 電氣爐	二四	二、八三二	二、八〇八
54 蓄電池・器	一二〇	三一二	一九二
55 電信電話ラヂオ機械	二、一〇〇	八、二五六	六、一五六
56 電氣測定器	六〇	三、三六〇	三、三〇〇
57 電極	〇	一三、一七六	一三、一七六
58 光學用機械	一二〇	七、五七二	七、四五二
59 寫眞、撮影、映寫機	五二八	二、一四八	一、六二〇
60 實驗用精密機械	四八	二、二五六	二、二〇八
61 船舶	一	二九、九一六	二九、九一四
62 測圖・製圖用具	一九二	三、四二〇	三、二二八
63 時計	一二〇	一、一五三	一、一三三
第三群 食糧及生活必需品	(噸)	(噸)	(噸)
64 米	一、四八八	四三、七三二	四二、二四四
65 生、乾果實	五、三五二	二八、二四八	二二、八九六
66 クルミ	四四四	二、二九二	一、八四八
67 茶	六、三三四	一六、八三六	一〇、五〇二
68 シェラック	—	二、八三二	二、八三二
69 ゴルク	四	六、八一六	六、八一二
70 生畜類	三六	九五、一二四	九五、〇八八
71 肉	二、四〇〇	二、六四〇	二四〇
72 魚類	二、五六八	二〇、六四〇	一八、〇七二
73 ココア・同製品	四八	九、三九六	九、三四八
74 皮革原料	四、一六八	五、六六四	一、四九六
75 製精皮革	三八四	一、六六八	一、二八四
76 毛髮	—	一、七一六	一、七一六
77 麻製品(漁具)	九九六	一、八八四	八八八
78 キニーネ	〇	一三	—
79 研磨材	四八	一、七五二	一、七〇四

ソ聯邦の輸入の特徴を見るに、生産財が主要部分を占め一九三六年以來一九三八年一—十月間の割合を示すと次の如くなつてゐる。

	生産財		消費財	
	百萬留	%	百萬留	%
一九三五年	九一九・八	八七・一	一三五・八	一二・九
一九三六年	一、二〇八・九	八九・五	一四〇・二	一〇・五
一九三七年	一、二一九・七	九〇・九	一二一・五	九・一
一九三八年(一—十一月)	一、一〇一・三	八八・〇	一五〇・七	一二・〇

即ち、生産財は全輸入の九〇%を占め、消費財は一〇%程度である。この輸入を更に製品別に見ると生活必需品の割合は八—九%であるに對し、原料及び半製品が四〇%、完成品が五〇%を占め、これによつて見ると、生産財の内でも完製品及び原料がその大部分を占めてゐることが判る。

而して、以上表示せる約八〇種に及ぶ物資はソ聯邦が最近四ケ年に於て輸入せる物資であるが、之等の物資の輸入は今後に於ても必ず輸入しなければならない物資であり、特に第一群の物資は戰略的意味に於て、第二群の物資は工業生産の技術的完成及び生産力擴充を目標とする第三次五年計畫遂行のために、而して第三群は國民生活の、極度の統制下にある需要を充すために輸入を必要としてゐる。

然るに、現在歐洲動亂の勃發により、英佛及びその植民地からの輸入が、前の論文に於ても說明せる如く、殆んど不可能になつて來てゐる。而も機械の輸入に於ては獨逸からその必要量を大部分滿しうるか否かは疑問である。從つて過去の輸出を禁止しても、第四段に示せる入超量は之を何れかの國から充足せねばならないものと見ることが出來る

2、極東地方の自給自足と輸移入　次に問題となるのは日滿兩國と最も近接せる地域にあるソ領極東であるが、極東はソ聯邦の農工業中心地よりも日滿のそれにずつと近い位置にあり、而も只一本のシベリヤ鐵道によつて、ソ領歐洲と結合されてゐる。而も、その經濟開發狀態を見るに、工業建設に本格的に乘出して來たのは、第三次五年計畫期に這入つた昨一九三八年度からであつて、殆んど總ての物資に於て未だ自給自足の域に達してゐない。

（第十二表）ソ領極東の主要物資自給率

		生産（千噸）	輸移入（千噸）	輸移出（千噸）	消費高（千噸）	自給率（%）
1	石油（三四年）	二四一・八	三四五・八	〇・二	四八七・五	四九・六
2	石炭（〃）	三、三四八・〇	三九九・五	二〇五・七	三、五四一・八	九四・五
3	鑛物性建築材（〃）	五八・〇	一六三・九	一・三	二二〇・六	二七・〇
	内、セメント	—	—	—	—	三〇—四〇
4	金屬（〃）	—	三四〇・五	—	三四〇・五	〇・〇
5	穀物（〃）	四六・三	七三七・三	七八三・六	五・九	
6	鹽（三五年）	一・五	八一・一	八二・六	一・八	
7	砂糖（〃）	一・三	一七・一	一八・七	六・九	
8	魚類（三四年）	三三〇・〇	一七・四	三一六・五	一〇四・二	
9	食料穀物（一九三六—七年）	五九四・〇	—	一、一三一・三	五二・五	
10	飼料穀物（〃）	三七四・八	—	三九七・三	九四・三	
11	肉（〃）	四七・九	—	四二・九	一一・六	
12	馬鈴薯（〃）	五七二・一	—	六九八・九	八一・八	
13	砂糖（〃）	三・一	—	二七・一	一一・四	
14	食鹽（〃）	一〇・一	—	二二六・六	四・四	
15	乾草（〃）	二、四八〇・三千立方米	—	一、九八七・五千立方米	一二四・七	
16	木材（一九三年）	四、八二〇	—	一三、九八六	三三・四	
17	小麥粉（一九三一年）	九九・四	—	二五六・四	三八・七	
18	ライ麥粉（〃）	五一・三	—	一九〇・三	二六・七	

（註）一「極東ソ聯要覽」北經調査資料第四十五號の統計より算出す。
9—15は東部シベリヤ地方なる爲む。

右表にても判る如く、ソ聯邦極東地方が自給自足しうる主要物資は魚類、肉及び乾草の三品目であつて、他の石油、

石炭、建築材料、金屬、木材、その他の食料に於ては殆んど自給し得ず、之等の不足をソ聯邦本部或は外國より輸移入してゐる現狀である。

而して、右の諸物資の他に極東及び東部シベリヤ地方に於て一部又は全部生産されない結果他地方より輸移入されてゐる主要工業製品として次の二〇品目が擧げらる。即ち、(一)綿糸布、毛織物、(二)衣服、(三)メリヤス、(四)菓子(五)革及ゴム靴、(六)石鹸、(七)煙草、(八)機械(九)麻袋、(一〇)鐵材、(一一)ブリキ、(一二)エタニツト、(一三)ドラム罐、(一四)トラツク及自動車(一五)農用機械、(一六)自轉車、(一七)小鋏、(一八)蓄音器及レコード、(一九)樂器、及び(二〇)藥品。

叙上の、極東及び東部シベリヤ地方に於て自給自足しえない物資の内、ソ聯邦の歐洲部より供給しうるものと見られる物資は石油、自動車、農用機械及び綿・毛製品、木材、石炭、穀物、砂糖であつて、他はこれを外國より輸入しなければならぬ。

次に極東地方の今後必要とする物資として機械及び建設材があることは特に注目せねばならぬ。本誌第十卷一號の一六頁には、ソ聯邦の第三次五年計畫と極東建設について述べられてゐるが、それによれば極東に於て石炭業の三倍の增産、電力業の擴大、製鐵業の振興を目的とする冶金工業基地の創設、自動車及び機關車製造並に修繕工場の多數建設、建築材料工業、特にセメントの增産、食料品工業の擴充等が計畫されて居り、その投資額は之を今のところ明らかにしえないが、その遂行には多量の機械、即ち鑛山用、發電用、食料品工業用機械及び建築材料を必要としてゐる。

然るに、現在之等の物資の大部分は外國より輸入されてゐる狀況であり、動亂の發生によりその歐洲方面よりの輸入は一段と困難を加へつつあるため、出來うれば、之を極東方面に於て充足せねばならぬ(ソ聯邦輸入貿易に及ぼす歐洲動亂の影響については前の論文を參照されたし)。

では、ソ聯邦及びソ領極東地方に於て輸入を必要としてゐる物資の內、如何なる物がどの程度に日滿兩國より充足されうるか?

次に日滿兩國の對ソ輸出の可能性について見る、

四、日滿の對ソ輸出の可能性

日本の輸出は之を製品別に見ると(一九三七年)粗生食料品が全輸出の二・七%、製造食料品が六・二%、原料品二五・七%、全製品が五九・八%で、食料品及び完成品が主體をなして居り、完成品の內では、綿織物、人絹織物、機械及び同部分品、生糸が主位を占め、夫々全輸出の一八%、四%、三%及び一二%を占め、之に次いで、罐・罎詰食料品、絹織物、メリヤス製品、綿織品、鐵製品、陶磁器、毛織物、人造絹糸、玩具、紙類、木材、硝子及び同製品、小麥粉等があり、輸出の五割乃至六割は纖維工業品である。この點對ソ輸出について特に考慮する必要がある。

次に日本の對外輸出貿易の特徵とするところは、圓ブロック、即ち滿洲、支那及び關東州への輸出が日本全輸出貿易額の四二%(一九三八年)を占めてゐることであつて、而もこの率は一九三六年の二四・四%、一九三七年の二四・九%に比較すると增加傾向にある。

此處に於て圓ブロックの自給自足の觀點からして日滿支の輸出力を見る必要があるのであるが、資料の關係上此處では日滿兩國の最近の輸出入狀況及びこれに及ぼす可き歐洲動亂の影響を考慮して、日滿の對ソ輸出能力について見る。

そこで、昭和十二年即ち一九三七年の日滿貿易品の內輸出超過にある物資とこれに占める現交戰國英獨佛及び伊太利の地位について、日滿兩國を一單位とし、兩國の貿易統計によつて述べると次表の如くなる。尙、重要戰略的物資の自給率及び輸出可能量については三二頁の表を參照されたし。

(第十三表)　日滿兩國の輸出超過物資及びその對英獨佛米輸出高　(一九三七年—單位千圓)

品名	輸入高	輸出高	出超高	對英本國輸出	對佛輸出	對獨伊輸出
第一群 輕工業品						
人絹糸	二、一二九	四四、八〇三	四二、六七六	—	—	—
人絹織物	三〇、六四五	一五四、八六〇	一二四、二一五	—	—	—
生糸	…	四〇七、一一八	四〇七、一一八	三一、四三〇	二六、一一一	—
絹織物	二、一一九	七二、二八六	七〇、一五七	九、五一八	一、六七三	—
綿糸	一三、一二六	五四、九〇六	四一、七八〇	一九、八四六	一、四六四	—
綿織物	一〇五、四三八	五七三、〇六五	四六七、六二七	—	—	—
綿タオル	…	八、九三五	八、九三五	—	—	—
綿ブランケット	…	八、〇九二	八、〇九二	—	—	—
生織物	二八、二九九	五〇、〇八二	三一、七八三	—	—	—
石鹸	四、〇六九	五、五三一	一、四六二	—	—	—
陶磁器	四、四五七	五三、九七一	四九、五一四	一、一七一	四二六	—
硝子製品	二、三四五	三三、五七二	三一、二二七	一、八九〇	—	—
除虫菊	—	七、六九三	七、六九三	—	—	—
寒天	四八四	六、七六一	六、二七七	—	—	—
帽子	…	二六、三三七	二六、三三七	一、六〇二	—	—
ランプ部分品	…	三一、九一六	二一、九一六	—	—	—
身邊裝身具	…	一五、五三五	一五、五三五	—	—	—

ボタン	—	一五、一〇五	一五、一〇五	三、〇四七	一二三	三五二
玩具	一、三四三	四二、二九五	四〇、九五三	—	七、〇三六	一九〇
第二群 飲食料品						
罐・罎詰食料品	五、〇三五	八六、九〇五	八一、八七〇	二九、一三三	—	—
水產物	二〇、五八四	二一、九一六	一、三三一	—	—	—
茶	四、一二〇	二三、一八一	一九、〇六一	—	—	—
小麥粉	一三、八二七	三〇、七四六	一六、九二〇	—	—	—
植物油	—	五八、三一九	五八、三一九	五一	一、〇三六	一九〇
魚・鯨油	—	一五、四一四	一五、四一四	—	一、五二一	—
第三群 原料その他						
大豆・腕豆類	九二、五四七	一七四、九四八	一五五、四〇一	四、七三九	三六二	四三九
油粕	四五、三二〇	六四、六二五	一九、三二五	—	—	—
セメント	一、〇七六	六、八三六	五、七六九	五二六	六四三	—
製帽サナダ	—	七、八七六	七、八七六	—	—	—
ハッカ油	—	二九七五	二九七五	一六一	—	—
落花生	—	一二、一一五	一二、〇〇〇	一四二	二七五	—
金屬製品	七、六七四	三四、一一六	四六、四二二	—	—	—
樟腦	—	四、四七七	四、七五五	一一六	二六九	—
ゴムタイヤ	—	二二、九八三	二二、九八三	—	—	—

（註）…印―不明、印―なし。

第二章　日滿對ソ聯邦の經濟的提携の可能性

日滿兩國の貿易統計には機械類及び戰略物資の輸出入は殆んど發表されて居らず、從つて日滿兩國を一單位として見た際のその輸出能力については之を餘すところなく表示することは全く不可能である。

が、右に示した資料よりして、日滿兩國の輸出可能物資はその大部分が農產物及び輕工業品、特に纖維工業品を以て構成されてゐることが判る。然るに、一八頁にも述べた如くソ聯邦全體として輸入を必要としてゐる物資は生產財、特に機械及び重工業用原料である。このことは日滿兩國の對ソ輸出の範圍を甚だしく縮少する。

では、ソ聯邦及びソ領極東の輸入を必要としてゐる物資の內、日滿兩國は之に如何なる物資を供給しうるか？

機械及び設備　ソ聯邦及び極東の輸入を必要としてゐるのは鑛山、發電、食料工業用機械、工作機、精密機械及び船舶等であるが、日滿兩國の輸出狀況の窺知し得ない現在では、敘上機械及び設備の對ソ供給力については全く說明しえない。特に日本が支那事變處理を根本國策としてゐる以上、生產設備は擧げて占領地の經濟開發に集中せねばならぬ現在に於ては之がソ聯邦への供給は著しく困難であると見ねばならぬ。が曾て滿洲國の產業開發を强行せる時期に於て北鐵讓渡協定に基いて對ソ輸出を行つた經驗から推すに、發電及び電氣用機械、コンプレツサー、旋盤、ポンプ及び船舶、それに、食料品工業用機械の對ソ輸出は若干可能であらう。因みに當時の對ソ機械輸出額は千七百萬圓、船舶千九百萬圓であつた。

主要戰略的物資　第十一表及び第十二表よりして現在ソ聯邦の輸入を必要としてゐる戰略的物資は非鐵金屬、羊毛、ゴム、鐵製品中の鋼材、鐵管、針金、葉鐵(ブリキ)、更に硫黃、棉花、硝酸鹽、水銀、パルプ、ヂユート及びケナフ麻、セメント、モリブテン鑛、ソ領極東に於ては石油、石炭、金屬であるが、後で述べる如く、右物資の內日滿兩國が現在自給自足してゐるのは硫黃、鋼材及びセメントであり、殆んど自給可能なものは石炭である。而してこれら物資の對ソ供給可能量及びソ聯邦の輸入必要量を對比すると次の如くなる。

	ソ聯邦の輸入必要量(千噸)	日本の供給可能量(千噸)
硫黃	一五・四	七〇・〇
鋼材	二・〇	六〇・〇
セメント	一〇〇・〇	一〇〇・〇

尙、過去の日滿の對ソ輸出狀況から見て、モリブデン鑛鐵製品、ブリキ、針金、鐵管、レール等の輸出も可能と推定されるが(これら物資の一九三六年の對ソ輸出高は約八千萬圓に及んでゐた)、これは一に日滿の生產力及び原料入手の如何に懸つてゐる。

纖維工業品　日本の輸出の六割を占める纖維工業品の對ソ輸出について見るに、これら製品は現在ソ聯邦に於ても對外輸出を行つて居り、近東及び中東市場—イラン、アフガニスタン等に於ては既に日ソ兩國の市場爭奪戰さへ行はれてゐる。

試みに、一九三八年一—一一月のソ聯邦の纖維工業製品輸出入狀態を見ると次の如くである。

第二章　日滿對ソ聯邦の經濟的提携の可能性　八一

(第十四表)　ソ聯邦の纖維工業製品輸出入

	輸出 千噸	輸出 千留	輸入 千噸	輸入 千留
生糸、同製品	一九三	一、六一六	一四五	一、一四九四
眞綿、絹屑	一〇六	三五四	六三	一四六
生糸	—	—	八四	一、三四八
絹糸	一六	一、一四一	—	—
絹布	九七	七二	—	—
人絹布	二〇五	一、二〇二	三五、八三五	六七、〇〇〇
羊毛、同製品	一四三	三五、七二四	毛七、三四三	一六、七三一
棉花、同製品	三五、七二四	一二、四七	三、七九一	一六、三五六
繰綿、綿屑	一二、四七	(千瓩)三二六	二、七七六	(千米)四、三五〇
紡績糸	一七	二、七七六	四三	一六四
織物	六〇	(千米)四八、三七八	—	—
麻、同製品	(千米)三一、三二四	(千米)四四、一七六	(千米)四、二五〇	一、三五六
ヂユート、ケナフ麻	二〇五	二五、二六三	〇	〇・二
	三六	四〇、〇四七		二〇、〇六九

(註)　麻類の內容不明

上表によれば、ソ聯邦は綿織物、その他の製品はこれを大量に輸出しつゝあり、只、生糸、絹屑及びヂユートのみ

を輸入してゐる。從つて日滿より輸出可能なものは、生糸及び絹屑等に限られるが、これとても近年は日本への注文を支那に振り向けつゝある狀態であつて、纖維工業製品の對ソ輸出は甚だ悲觀すべきものがある。

とは云へ、ソ領極東は綿製品その他をソ領ヨーロツパより仰ぎつゝあり、而も嘗て日本より衣類六千萬留、麻製品（魚具）三千萬留、棉織物一千萬留、毛織物五百萬留、絹織物百萬留（一九三六年）を購入してゐた點から見て、交涉次第によつてはソ領極東へ纖維工業品五百萬圓程度の輸出が可能であらう。特に麻製品中漁網、漁具については日本より輸出しうる可能性は大きい。

食糧品及生活必要品　ソ聯邦ヨーロツパ地方は米、果實茶、生畜、肉、魚類、ココア製品、キニーネ、ソ領極東は鹽、砂糖、食料穀物、植物油、罐詰、大豆、野菜、紙、陶磁器、小麥粉その他を輸移入しつゝあるが、この內、日滿兩國より供給可能なものは、米、果實、茶、生畜、肉、魚類、食用鹽、小麥粉、蓄音器、レコード、靴、樂器、藥品、石鹼及び大豆等である。因みに一九三六年に於て日滿兩國がソ聯邦へ輸出せる食料品及生活必需品の內容について見れば次の如くなつてゐる。

（第十五表）　日滿の對ソ輸出（一九三六年）

食料品	廻	千留
砂糖	三〇六	一七四
米	五七八	二四八
小麥粉	七、九六九	一、六七七
野菜	二、四七五	二八八
種子	一四、八九〇	二、〇七八
茶	二、六四〇	二、九九七
豌豆	七五	二六
大豆	一	九七
果實	四一二	二五〇
生畜	三一	二九
肉	四七六	五八三
牛酪	八〇	二五九
魚類	六二	四二
植物油	一	八五二
罐詰	五一四	七〇二
食用鹽	六、三三四	一六一
計	一	七五六四

その他生活用品	廻	千留
紙	一五一	二四四
染料	九八	八〇
ゴム製品	一九	五八
皮革製品	五八二	二、二九二
陶磁器	九二〇	二八
石鹼	七七	三七
計		二、七三九

だか、叙上物資中、米、染料、砂糖、食用鹽は現在日本に於ても不足し、之を外國から輸入してゐる狀態であつて對ソ輸出は不可能と見られる。次に滿洲國の最大輸出品である大豆は、ソ聯邦に於ては九萬留しか輸入されて居らず日本の綿製品と共に對ソ輸出の增大を計りえない狀態にあることは特に留意すべきであらう。

之を要するに食糧品及び生活必需品の輸出に於て對ソ輸出の可能性は甚だ尠いかに見られる。が若し、ソ聯邦が極東の經濟建設を强行し、日滿よりの輸入を增加するとすれば日滿兩國は尠くとも一九三六年の水準即ち合計一千萬留、即ち六百五十萬圓程度にまでは食糧品その他生活用品の輸出を增加しうるであらう。

尙、日本が世界輸出市場に支配的地位を占めてゐる樟腦ハツカ腦及び薄荷油等の對ソ輸出も可能であると考へられるが、現在のところソ聯邦側で幾何の輸入を必要としてゐるか不明であるから、その輸出が可能であると云ふことだけ指摘して置きたい。

五、日滿兩國の輸入の必要性

次に日滿兩國は叙上の諸物資をソ聯邦に輸出する反面に於てソ聯邦から何を輸入しうるか？　言葉を替へて云へばソ聯邦は日滿兩國へ何を供給しうるか？　それには先ず、日滿兩國が現在どの程度に如何なる物資を輸入する必要があるかを知らねばならぬ。そこで第一に我々は日滿兩國の主要物資の自給自足性について見よう。

1、日滿兩國の自給自足性　最近の日滿兩國の自給自足性は、その判斷に必要な生產、輸出入統計が發表されてゐ

ないため之を知ることが不可能であるからして、一九三六年の數字について見る。

(第十六表)日滿兩國の主要物資自給自足性　(一九三六年)

		生産	輸入	輸出	需要高	自給率
1	石炭(千噸)	五九、五五〇	四、九三五	五、〇八二	六四、四〇三	九八・六
2	石油(千竏)	—	—	—	—	—
	揮發油	七〇三・五	六、九三〇	二・九	七、三九三・六	五〇・五
	重油	四三〇・三	二、二六五・七	三・二	二、二一七・九	二五・二
	石油製品全體	一、六六六・五	二、一三・九	七一・九	三、七七・五	四四・七
③	鉛(千噸)	一一・六	九七・八	一・三	一〇七・一	一〇・八
4	硫黄(〃)	一九八・二	—	七一・九	二六六・三	一五六・九
5	アルミニユーム(〃)	六・七	一〇・七	〇・九	一六・六	四〇・三
⑥	ゴム(〃)	—	六・四	一	六・三	〇・〇
⑦	ニツケル(〃)	〇	二・五	〇	二・五	〇・〇
⑧	水銀(三五年一瓲)	五・二	八、二五〇	—	八三〇・二	〇・六
9	鐵鑛石(千噸)	二、一五四	三、八三八	—	六、九八三	四五・二
10	銑鐵(〃)	二、八七二	九八七	二八三	三、五七二	八〇・四
11	鋼材(〃)	四、七五七	五六七	六二	四、七五五	一〇〇・九
⑫	銅(〃)	八三・八	三三・四	一三・四	一三四・八	六七・一
13	棉花(〃)	六〇・三	九三三・三	一・三	九九三・三	六・一
⑭	亜鉛(〃)	三九・一	六一・八	—	一〇〇・九	三八・八
15	滿俺鑛(〃)	六八・三	一七五・九	五・七	二三八・四	二八・六
⑯	クローム鑛(〃)	三九・〇	—	—	三八・〇	一〇〇・〇
17	羊毛(三四年)(〃)	二・三	八二・四	一・六	八二・八	二・七
⑱	燐鑛石(三五年)(〃)	一七二・〇	八三・〇	—	八五五・〇	一七・五

(註)　○印は滿洲國を含まず。滿鐵第三調査室「ソ聯及日滿間の平時に於ける重要重需品需給量の比較」、企畫院「列國資源要覽」より摘記す。

以上の資料よりして現在日滿兩國の自給率及び輸入必要量を表示すると次表の如くなる。

(第十七表)　日滿兩國の輸入必要物資と必要量

		自給率(%)	輸入必要率(%)	輸入必要量(千噸)
1	石炭(千噸)	九八・六	一・四	一一五・三
2	石油(千竏)	六四・三	三五・七	—
	揮發油	五〇・五	四四・五	六九〇・一
	重油	二五・二	七四・八	一、二七三・六
	石油製品全體	四四・七	五五・三	二、〇六一・〇

右、諸物資以外に、ソ聯邦側の調査により判明せる日本の物資自給率は、小麥九五・五%、砂糖一八・八%、鐵バンド〇%、アルミバンド、〇・〇%、タングステン鑛一一〇・〇%、アンチモニイ〇・七%、(一九三四年現在)等があり更に、滿鐵調査月報本年十月號「物資戰略と外交政策」に示される數字によると、次の如き物資に於て日本は自給自足してゐない。即ち、水銀及び錫、白金、石綿、機械類の內、工作機、機關車、客車、貨車、自動車、化學製品の內、硫酸アンモニユーム、可性曹達、曹達灰、染料、工業鹽がある。

更に、昭和十二年度の貿易統計中より、日滿兩國の主要輸出入商品中、入超の物資について見ると、次の如き物資に於て日滿兩國は外國品の輸入を必要としてゐる。

(第十八表)　日滿兩國の入超物資及び英佛獨よりの輸入　(單位千圓)

	日滿兩國の輸入合計	日滿兩國の輸出合計	入超高	英本國より	佛本國より	獨逸より
パルプ	一一六、七二〇	七五	一一六、六四五	五〇	一	三〇
木材	六八、五七五	三八、五三〇	三〇、〇四五	一	一	一
皮革	五七、〇三九	五、三六七	五一、六七二	七九八	—	九三四

第二章　日滿對ソ聯邦の經濟的提携の可能性

麻	四四、七二八	三六七	四四、三六一						
植物纖維（棉花を除く）	二〇、一九一	九、六七五	一〇、五二六						
硫安	四〇、〇九九	一八、五七七	二一、五二二	一七一					
砂糖	二八、五二五	—	二八、五二五	—					
染料	二九、六〇四	一、四七一	二八、一三三	一四					
小麥	一〇、六五三	五、四八二	五、一七一	—					
鹽	三四、〇三五	三八、七〇八	四、六七三	七〇四					
印刷料紙、紙	一一、六一一	〇〇	一一、六一一	三、六七九					
曹達	一二、七八七	二、三〇六	一〇、四八一	—					
米及籾	一、九四九	—	一、九四九	—					
牛脂	九、一五六	—	九、一五六	—					
毛糸	二三、七二七	一〇九、八八一	一四、八四六	滿 一、六〇五 日 一、五二九					
機械設備	二、〇〇九	—	二、〇〇九	滿 三、五二六 日 四、五一五					
ボロ	一九、二七三	—	一九、二七三	—					
麻袋									

右に示した二つの表により、重要戰略物資中硫黄、鋼材及びクローム鑛を除いて日滿兩國は自給自足の域に達してゐないこと、特に重要輸出品たる纖維工業品の原料はその大部分を輸入に仰がねばならぬこと、化學工業製品中染料、工業鹽、加里鹽、硫安及び曹達等の化學工業の主要原料、次いで、木材、皮革、食料品中の米及び小麥等の輸入を必要としてゐることが判る。

六、ソ聯邦の對日滿輸出の可能性

では日滿兩國は之等の不足物資をどの程度にソ聯邦から

の輸入によつてまかないうるか？此處で問題となるのは先ずソ聯邦の輸出能力であり、また今回締結された獨ソ通商協定によりソ聯邦がその輸出餘力の幾何を獨逸に振り向けるかである。で先ず輸出能力に就いて見よう。

ソ聯邦最近年の主要物資輸出能力は本誌第十號第一號に表示した如くであるが、それによれば主要物資生産に對する輸出率は低下の傾向にあり、總國民經濟生産額に對する輸出額の割合はその最大に達した一九三〇年の三・五％に對して、一九三五年一・三％で、最近は生産の增加にも不拘、輸出は減少した結果更に低下してゐる。これはソ聯邦の生産が專ら國內市場の需要を滿すために行はれてゐる結果であり、このことはソ聯邦の對日滿輸出の可能性を見る際特に注意せねばならぬ。

ではソ聯邦は如何なる物資をどの程度に輸出しつゝあるか、今、輸出入品の一九三五年—一九三八年（一—一一月）間の年平均を見、その出超にある品目及びその出超高を表示すると次の如くである。

（第十九表）ソ聯邦の主要輸出超過物資及數量（一九三五—一九三八年一—一一月平均）

	輸出	輸入	出超高
第一群戰略物資（廿）			
1木材	二、〇五六、九八八	一九	二、〇五六、八八八
原木	四三八、三三八	—	四三八、三三八
（坑木）	一六五、〇九六	二	一六五、〇七五
半加工材	七六、四三二	三四	七六、三九八
（枕木）	三、五五四、八二四	三、六〇〇	三、五五一、二二四
挽材	一二一、〇三六	一	一二一、〇三五
ベニヤ板	六四六、三〇八	三、六〇〇	六四二、七〇八
2石炭	八二一、四七六	—	八二一、四七六
3無煙炭	七四、一六一	—	七四、一六〇
4石炭ピッチ	二、三四〇、六〇二	六九、五六六	二、二七一、〇三四
5石油、同製品	六、七六八	〇	六、七六八
6パラフイン	五三七、〇四八	—	五三七、〇四八
7滿俺鑛	一三八、五七六	—	一三八、五七六
8鐵鑛	二、九二八	—	二、九二八
9クローム鑛			

10	石綿、同製品	三三、五五六	三三六	三三、三一〇	20	自動車	一二、六八八	一、五七三	一〇、一二六
11	マグネサイト	六、九一三	—	六、九一三	第三群	農産物(續)			
12	岩鹽	一六七、八七三	六、四八〇	一六三、三五三	21	小麥	七三、七〇〇	三八、三三〇	六八四、四八〇
13	化學製品				22	ライ麥	一七、九三六	—	一七一、九三六
	サントニン	二	—	二	23	大麥	二六、八四四	〇	二六、八四四
	曹達	一〇一	一〇	一八	24	燕麥	五五、六〇八	一六八	五五、四四一
	硫化ナトリユム	三、五一〇	—	三、五一〇	25	玉蜀黍	六、一八〇	二四	六、一五六
	クロールム石灰	二、一一〇	—	二、一一〇	26	穀粉	四九、一四	六、〇三六	四三、一二八
	クロームピツチ	三、一三八	—	三、一三八	27	麩	六、八三八	四八	六、七八〇
	テレビン油	七、八七五	—	七、八七五	28	澱粉製品	一六、四五二	二四	一六、四五六
	染料	二、〇二八	七四	一、一〇四	29	種子	一三、三九二	四、一六四	九、三二八
	エーテル油	二一六	一四四	七二	30	煙草	二、六八八	一、一七二	一、四一六
	加里鹽	三六、三六八	〇	三六、七八四	31	野菜	六、九一三	三、三四八	三、三五四
14	燐灰石	三六、七六〇	—	三六、七六〇	32	豆類	六二、九三〇	六〇	六一、八七〇
15	亞麻	四三、九〇八	〇・五	四三、九〇七		粕	一五七、八二四	六	一五七、八一八
16	銑鐵	三〇一、六九二	〇・五	三〇一、六九一	第四群	食料及畜產品(續)			
第二群	機械(千望)				34	牛酪	一七、二三	二四〇	一六、九九二
17	農用機械	三、一六八	一、二八四	一、八八四	35	繭詰	六、四八〇	四八七	一、六八八
18	ミシン	一、七一六	九四八	七六八	36	植物油	六、四一〇	四九二	五、九二八
19	トラクター	四五五	一四四	三一	37	イクラ	五四〇	三四八	一九二
38	砂糖	二三〇、一四四	二六	二元、九二八					
39	毛皮	四五六	五	四五一					
40	毛布	二、三一〇	六六〇	一、五六〇					
41	亞麻布	一、一四一	—	一、一四〇					
42	石鹼	五八八	八	五四〇					
43	マツチ	七、〇四四	五	七、〇元六					
44	紙	四、三九六	一、八七三	二、四二四					
45	棉布	一七、九五三	二一六	一七、七三六					
46	寶石	三、二一〇	三	三、〇八					

註 化學製品は一九三六年

以上示した約五〇種の物資はソ聯邦の總輸出額の九五%を占めてゐるが、之等物資の輸出構成を見ると、最近では工業製品の比重が農産物のそれに代つて增大傾向を示し、一九三八年に於ては農産物三七・七%、工業製品六一・三%工業製品中でも重工業品及び木材工業製品が夫々二五%を占め、輕工業及び食料品工業製品の比重は三〇%程度で、これを日本の輸出構成と比較して見ると全く逆の傾向を示してゐる。が更に製品別に見ると原料及び半製品が五〇・二%、生活必需品三一・一%、完成品一八・七%であつて、原料及び半製品が全輸出の五割を占めてゐる。このことは、日滿兩國が原料に於て自給自足の域に達してゐない點より見て、ソ聯邦の對日滿輸出を甚だ有望ならしめてゐる。

此處に於て日滿の自給自足狀態及び輸入狀況をソ聯邦の輸出のそれと對照せしめつゝ、ソ聯邦の對日滿輸出の可能性について述べて見よう。

戰略的原料物資の對日滿輸出の可能性 ソ聯邦の輸出可能な戰略的物資は殆んど總てが、日滿兩國の自給自足しえない物資であり、ソ聯邦は羊毛を除き之を日滿兩國へ輸出可能である。

即ち、日滿兩國の主要不足原料にしてソ聯邦より供給しうるもの、及びし得ないものを見れば次の如くである。

ソ聯邦が供給しうるもの
- 石炭(無煙炭を含む)石油及同製品、鐵鑛、銑鐵、棉花、滿俺、燐鑛石、木材、皮革(原料)亞麻、曹達、染料、加里岩、鹽。

同　供給不可能なもの　非鐵金屬（鉛、アルミニユーム、ニツケル、水銀、銅、亞鉛、錫、アンチモニイ）モリブデン鑛、羊毛、ゴム、硫安、アルミバンド、鐵バンド。

その他、日滿の自給自足性不明なるも現在の日ソ貿易狀態を見て供給可能なもの。

サントニン、白金、石綿。

右物資の內、主なるものにつきソ聯邦の對日滿輸出の可能性について說明して見よう。

（イ）石炭、日滿兩國は石炭の需要の九八％まで自給しうるも、現在他を中國及び佛領印度より仰いで居り、特に佛領印度からは專らカーバイト原料たる無煙炭を輸入してゐるが、今次動亂の結果供給杜絶を疑念されてゐる關係上これを他の國より仰ぐ必要がある。一方、周知の如くソ聯邦は無煙炭の主要輸出國であり、その年輸出量は二十五萬噸に及んでゐる。而して動亂の結果カナダ、佛蘭西、白耳義、瑞西方向への輸出合計十五萬噸の輸出が困難となつて居り（前論文參照）、一方石炭輸出も國內需要の增大に起因して減少傾向にあるとは云へ、二十萬噸程度の輸出は可能であり、日滿兩國はソ聯邦よりの輸入によつて、石炭不足の三分の一を充足しうるであらう。

（ロ）石油同製品、日滿兩國は年二百萬噸の石油輸入を必要としてゐるが、最近（一九三七年）では、その六〇・五％即ち百二十萬噸（"America's share in Japans War Guilt" New work, 1939f）を米國より、殘餘は蘭印及び英領ボルネオより仰いて居る。而して今次米國及び英領ボルネオ方面よりの輸入は杜絶の恐れあり、出來うればその供給地をソ聯邦に求めねばならぬ。一方ソ聯邦の石油製品輸出可能量は一九三八年一―十一月の數字からすれば百五十萬噸程度、三五年以來の平均を見れば約二百三十萬噸であり、此の內三割は英佛へ向けられてゐた。從つて英佛への輸出杜絶の結果、五―六十萬噸は充分日本に振り向けうるものと一應は考へられるが、此處に注意を要するのはソ聯邦の石油輸出は減少傾向にあり、極東方面に使用する石油は之を米國よりの輸入によつて充足してゐる狀態であつて、而も獨ソ協定により獨逸に多量の石油を供給せねばならない點を考へるならば、ソ聯石油の對日輸出は益々困難となる。尚、一九三六年のソ聯邦の對日石油輸出高は二十二萬噸、一千萬留であつたが、右の狀態からして、今後ソ聯邦の對日石油輸出が、六十萬噸程度に增大しうるか否かは疑問と考へられる。

（ハ）銑鐵及屑鐵、日滿兩國の銑鐵不足量は最近年七十二萬噸に達しており、その內四一・六％即ち約三十萬噸（一九三七年）、更に屑鐵五九・七％は米國より輸入されてゐるが、米國が愈々參戰するか、或は傳へられるが如き日米關係の惡化が日米通商條約廢棄の有效化にまで進んだ場合、その輸入は全く困難となる。他方、ソ聯邦の生產は近年益々增大傾向にあり、一九三七年千四百五十萬噸、內、百三―四十萬噸を輸出し、日本へは一九三六年三十萬噸、三七年（一―九月）一萬五千噸を振り向けてゐた。

ソ聯邦は周知の如く、生產技術の點で立後れて居り、鐵製品に於ては銑鐵を輸出して、鋼材、鋼板、金鐵、針金等を輸入してゐる現狀にあり、若し、日本が銑鐵の供給を受け、鋼材、針金等の輸出を行ふ協定が成立すれば、日本は米國からの輸入を止めてこれをソ聯邦から入手しうるであらう。

（ニ）燐礦石、日本は燐酸鹽の原料たる燐礦石の需要の八二・五％約八十萬噸を輸入によつてまかなつて居り、その大部分は米國（二五％）及びエヂプト（三二・五％）より輸入してゐるが、これが供給杜絶の場合約五十萬噸の輸入が不可能となる。一方、ソ聯邦は如何と云ふに年平均四十萬噸程度の輸出を行つて居り、內、白三〇％、獨二〇％、佛一〇％、英二％、計四〇％、二十五萬噸は英、佛、獨、白に向けるゐる。が今次戰亂による輸送の困難のため、白、英、佛への輸出（十四・五萬噸）が困難となつた。從つてこれをソ聯邦が日滿へ振り向けるとすれば、日本は米國よりの輸入が止つてもソ聯邦よりの輸入によつて、米國よりの輸入杜絶による不足を大部分補ひうるであらう。

（ホ）滿俺鑛、日滿兩國の滿俺鑛不足噸は約十七萬噸である。一方ソ聯邦は年平均五十萬噸、一九三八年三十五萬噸

を輸出し、內、英、佛へ十萬噸、白耳義へ十一萬噸を輸出してゐたが、これらは今次動亂の結果輸出杜絶の狀況にあり、ソ聯邦が若し英、佛及び白耳義へ輸出してゐた量を日本に振り向けるとすれば充分その不足は補ひうるものと考へられる。

が、燐礦石にしろ、滿俺鑛にしろ、獨逸は自給しえず、從つて獨ソ通商協定により、可成り多量の燐礦石及び滿俺鑛を獨逸に供給せねばならない。從つて、叙上の數量が果して、日滿へ振り向けうるか否かは今の所斷定しえない。

(ヘ)棉花、棉花は日滿の主要輸出品たる綿製品の原料であると同時に、戰時に於ては火藥原料となるのであるが、全需要の約九四%—九十三萬噸は輸入によつてまかなつてゐる。そしてその輸入相手國を一九三七年について見ると英印四二・七%、米國三六%、エヂプト六・九%で、英印及び米國よりの輸入は合計七八・七%、約七十萬噸に及んでゐる。

然るに、ソ聯邦は棉花を近東諸國から多量に輸入してゐる反面年々、輸出も行ひその輸出量は一九三五年六千四百噸、一九三六年—二萬七千八百噸、一九三七年—四萬五千三百噸、一九三八年—一萬六百噸に及び、その主要仕向國は英(二七%)、スペイン(四六%)、米國(七%)であつて、スペイン及び英國への輸出が半分以上を占め、從つて英、佛、スペインへの輸出を日本に振り向けるとすれば、約六萬噸は輸出可能である。が之は日本の全輸入量の九分の一に過ぎず、從つてソ聯邦よりの輸入によつて需要を充分に滿しうるとは云へない。特にソ聯邦が對獨輸出を强化すれば、對日輸出は甚だ困難となる。

(ト)化學工業原料、「日本は酸、アルカリ、肥料工業等に於ては第一次世界大戰以來の發展により大體對外依存の域を脫したとは云へ、工業鹽及び加里鹽が未だ自給自足してゐない。」(——大毎「歐洲動亂の日本經濟に及ぼす影響」による)

工業鹽の內地生產は食料を充す程度で、工業用としては外國に依存し、國ブロック內からの輸入は約十萬噸で、他はエヂプト、ソマリランド、エストニアから輸入してゐるも、現在では米國からの輸入さへ考慮されてゐる程であつて、著しく入手困難な立場にあり、その輸入杜絶がソーダ灰、鹽素工業に與へる影響は大きい。加里鹽も亦同樣で內地生產は需要の三%(同上)で、殆んど獨佛に依存してゐたが、この供給は目下期待出來なくなり、鹽酸、加里工業の危機さへ傳へられてゐる。

然るに、ソ聯邦は加里鹽及び工業鹽(岩鹽)に於て大量の輸出を行ひうる立場にある。即ち、ソ聯邦の年平均輸出高は加里鹽三萬六千噸、岩鹽十七萬噸に及び、一九三八年の輸出高は三百四十三萬九千留—二百二十三萬四千圓程度である。日本の加里鹽及び工業鹽の輸入高の分明しえない現在に於てはソ聯邦よりの輸入によつて幾%を充足しうるか、明かにしえないが、日本がその不足をソ聯邦よりの輸入によつて充足しうる可能性は大きい。

次に染料であるが、日滿の合成染料輸入高は昭和十二年二千八百萬圓、內日本の合成染料輸入高は千七百萬圓に及び、內獨より七二・七%、米國より一一・四%、瑞西より一三・一%輸入してゐて、斷然獨逸に依存してゐるが、ソ聯邦の染料輸出高は年二千噸、一九三八年に於て千二百噸—百四十萬留であつて、染料の品種によつては、獨及び米國よりの輸入をソ聯邦に振り向けらる可能性は充分にあるものと見られる。

(チ)木材、日本の木材輸入必要量は昭和十二年の數字によると三千萬圓程度である。一方ソ聯邦は木材の主要輸出國であり、日本はその需要を特に抗木、枕木、原木に於てソ聯邦よりの輸入によつて完全に充足しうるも、現在極東地方は木材を輸入してゐる狀態で、日本が若し木材を輸入するとすれば、歐洲方面より持つて來ねばならぬことは大いに考慮さる可きである。

(リ)その他主要原料の內ソ聯邦より輸入可能なものとして、亞麻、サントニン、曹達、白金、石綿等があるが、日本の輸入必要量不明につき、說明を略す。

(ヌ)機械類　日滿の機械輸入の內容不明であるため、個々の物資について檢討することが不可能であるが、ソ聯邦の輸出內容より見て、農用機械、トラクター、自動車等の日滿への輸入は可能である。

(ル)農產物　農產物中日本に不足してゐるのは小麥及び

第二章　日滿對ソ聯邦の經濟的提携の可能性

燥であるが、此の內小麥はソ聯邦より供給可能である。

即ち、日滿兩國の小麥輸入必要額は二千八百萬圓、麵五百萬圓、之に對しソ聯邦の輸出額は小麥が一九三五年九千萬圓、一九三六年九百萬圓、一九三八年（一—一一月）一億八千萬圓、麵一九三八年一—一一月七十三萬圓であり、ソ聯邦よりの麵の輸入は困難なるも、小麥の輸入は充分可能である。尙ソ聯邦は一九三七年に於て小麥輸出の四四%を英國に、三八%を白耳義に、一八・六%を和蘭に仕向けてゐたが、今次動亂の結果その輸出困難となつた一方、獨逸に對して、輸出を增加することゝなつた。

而して、獨逸の一九三六年の小麥年輸出入量を見ると、輸入四十六萬九千噸、輸出四萬八千噸で差引四十二萬一千噸が絕對的に輸入必要な量と見られる。然るにソ聯邦の輸出可能量は年六十八萬四千噸で、その大部分英、白及び和に振り向けてゐたが、輸送その他の關係で、これら諸國への供給困難となつた。從つてソ聯邦は之を獨逸に振り向けても尙、二十萬噸近い穀物を極東方面を廻しうる。從つて、此の程度の輸入は日滿兩國によつて可能であらう。

その他の食料品及生活用品　日滿兩國の輸入必要な食料品（小麥その他を除く）及び生活用品、即ち砂糖、牛脂、印刷料紙及び紙、煙草の內ソ聯邦より輸入可能なものは、砂糖、牛肥、煙草及び紙である。この內、砂糖について述べる。日本は砂糖を年千七百七十萬ピクル輸移入し、一方二百五十萬ピクルを輸移出してゐるから差引千五百二十萬ピクル即ち、九十一萬六千噸を絕對的に外國より移入せねばならぬ。

一方ソ聯邦の砂糖輸出可能量は年平均十一萬九千噸で、その內英佛へ二二・九%振り向けられ、他は近東諸國に振り向けられてゐる。從つて英佛への輸出杜絕によつて日滿へ振り向けられる量は全輸出高の約五分の一即ち二萬一千噸程度であつて、ソ聯邦からの輸入によつて日本の不足を全部補ふことは困難でゐる。

七、シベリヤ鐵道の輸送能力

最後にシベリヤ鐵道の輸送能力について一言して置かう「歐洲動亂のソ聯邦貿易に及ぼす影響」の論文中に於て、輸送路の混亂による極東方面の意義特に浦鹽の意義の增大

するであらうことを述べた。又、日滿及びソ聯邦貿易の將來を考へる場合、當然シベリヤ鐵道の輸送餘力の有無は問題となつて來る。

極東の經濟建設のため今後どの程度の貿易貨物が動くかは未だ推定困難であるから、極東建設のための貨物輸送を考慮せずに此處ではシベリヤ鐵道の輸送餘力のみについて述べて置く。

先ず現在のソ領極東地方及び東部シベリヤ地方の貨物發著數量を見るに一九三六年度に於ては次表の如くなつてゐる。

第二十表　極東地方の貨物發着量（單位千噸）

	到着	發送
極東地方	二一、六〇〇	一七、六〇〇
東部シベリヤ地方	二二、二〇〇	一一、四〇〇
合計	三三、八〇〇	二九、〇〇〇

右は理論的に現在の發著數量と見て大差なきものと云はれて居り、これによつて見る時、現在のソ領極東鐵道は右發著數量に於ける到着超過量四百萬噸、東部シベリヤ鐵道は、六十萬噸の超過輸入を行ひつゝあり、これは一日平均前者一四列車、後者三・五列車に相當するものと見られてゐる。而してこれだけのものは極東及び東部シベリヤ地方より歐路に向つて空車の儘移動してゐるのである。從つて、この輸送餘力は日滿兩國よりの對ソ輸出或は若し可能なれば現在一般に問題とされてゐるところの對獨輸出貿易に利用しうるわけである。

反面、歐路より極東への貨物輸送に就いて見るに「現在ソ聯邦の極東鐵道の輸送力はイルクーツク附近に於て一晝夜平均五〇往復、戰時六〇往復と見られるが、同地附近の實際の列車運行回數は盈車路貨物列車三〇列車、旅客列車七である。」（註）

註「ソ聯邦實態研究資料」滿鐵北經昭和十三年五月十五日發行一八號

從つて、現在のところ、平時最大輸送力を發揮するまでには、更に一三ケ列車の輸送餘力を持つてゐるわけであつてこれは、「一ケ列車の積載能力七五〇（註）噸」とすれば一日九千七百五十噸、年三百五十五萬八千七百噸の輸送餘力に相當し、又この數量はソ聯邦の年輸出貨物量の約二倍に當る。

（註）同上

從つて、極東建設のための貨物輸送を考へねばシベリヤ鐵道の、ソ聯邦歐路より極東向貨物輸送餘力は年約三百五十萬噸、極東地方より歐路向貨物輸送餘力は七百六十萬噸と見られ、シベリヤ鐵道の輸送力は充分にあるものと斷定しうる。

八、結　論

以上、ソ聯邦對日滿兩國の經濟的提携の可能性について見て來たが、之を要約すれば次の如くなる。先ず、日滿の對ソ輸出の可能性について結論するならば、ソ聯邦が專ら生産財（全輸入の九〇%）を對象として輸入を行ひ、而も原料及び半製品（全輸入に占める割合約四〇%）及び完製品（約五〇%）がその大部分を占め、生活必需品が全輸入の一〇%に過ぎないこと、及び生産力擴充を目的として機械、羊毛、非鐵金屬、ゴム等、日本で自給自足してゐない物資の輸入を强行し、生活必需品の輸入禁止或は統制を行つてゐること。日本の輸出が六割までは纖維工業製品であつて、原料輸出國でないこと、及び支那事變處理と滿洲の産業開發のために多量の製品を滿支兩國に供給せねばならない關係上、ソ聯邦の必需とする物資の輸出が困難であること等の理由により、日滿兩國の輸出は甚だしく困難であり、特に日本の綿製品及び生糸、滿洲の大豆に於てソ聯邦が自給の域に對し、大量の輸出さへ行ひつゝあることは日滿兩國の對ソ輸出を甚だ悲觀的なものとする。

だが、ソ領極東は自給自足の域に達して居らず、而も電力、製鐵業、機關車、自動車生産及び修繕工業、建築材料工業及び食料品工業の生産力擴充に第一歩を踏み出した結果、多量の生活用品、工具、建築材料を必要として居り、之に對する日滿兩國の輸出の可能性は充分にあるものと見ることが出來る。

而して、ソ聯邦及び極東の輸入必要品にして日滿兩國より輸出可能なものは、鋼材、鐵鋼板、ブリキ、針金、鐵管、硫黄、セメント、機械設備類中の電氣機械、コンプレッサー、施盤、ポンプ、船舶、時計、茶、生畜類、皮革製品、漁具、魚類、小麥粉等であり、その他、ソ聯邦が特殊な考慮より消費品の輸入統制を緩和すれば、一般生活用品のソ領極東への全面的進出は可能である。が、此の場合日滿側の物資自給の觀點からして飢餓輸出をさへ行ねばならないであらう。

尚、鐵製品の對ソ聯輸出はソ邦よりの銑鐵の供給が確保されゝば甚だしく有望とならう。

次いで、ソ聯邦の輸入必要品中日滿兩國より輸出不可能なものは羊毛、ゴム、合金鐵、良質鋼、非鐵金屬の總て、機械類の大部分、米、コルク、ココア、同製品、皮革原料デユート、ケナフ、キニーネ、研磨材、鹽（極東水産業に日本鹽が最も適してゐると云はれてゐるが、日本の輸出能力なし）砂糖、木材等である。

次いで、ソ聯邦の對日滿輸出の可能性に就いて云へば、ソ聯邦が、主要農産物輸出國であると同時に、主要戰略的原料の輸出可能な國であること、及び日滿兩國が完製品輸出國であると同時に原料の輸入を必要としてゐる國であることは、ソ聯邦の對日滿輸出を甚だ有望視せしめてゐる。而して日滿兩國の輸入品にしてソ聯邦が供給しうるものは石炭、無煙炭、石油、及び同製品、鐵鑛石、銑鐵、棉花、滿俺鑛、燐礦石、木材、皮革、原料、マグネサイト、自動車白金、石綿、生糸、鹽、岩鹽、染料、曹達、煙草、小麥、麪、ボロ、牛脂、砂糖、毛糸の二十六品目があるが、これらはソ聯邦の國内に於て需要增大し、一方、獨ソ協定により對獨輸出の必要も大いにある關係上、特に石炭、石油、鑛石類の輸入は困難であり、從つて、日本がソ聯より之等物資を得んとするには獨日ソ三國間に幾多の折衝が必要だ。

ソ聯邦が供給しえないものは鉛、アルミニユーム、ゴム、ニツケル、水銀、銅鐵礦土、アルミ礦土、アンチモニイ、モリブデン鑛、錫、麻袋、及びパルプの十三品目である。

而して、ソ聯邦の輸出可能な物資中、日滿兩國が自給自足してゐるか、又は輸入統制を行つてゐて、ソ聯邦よりの輸入を必要としてゐないため、日滿兩國へ輸出しえないものとしてはクローム、豆類、小麥及び種子を除く農産物、植物油、罐詰、イクラ、毛、毛皮、石鹼、マツチ、棉布及び寶石等がある。

尚、日滿兩國の貿易統計及び生産統計に現はれた數字は極く限られた品目、特に一般消費品に關するものであつて、

他の軍需原料及び機械類の輸出入及び生産狀況については全く之を窺知しえず、從つて、ソ聯邦の對日滿輸出の可能性について充分なる檢討を加へ得なかつた。此の點甚だ遺憾とするところである。

尙、以上述べ來つたところよりして、此處に日滿及びソ聯三國が完全な經濟提携を行つた際に於て何うしても、相互に供給しえない物資として、ゴム、羊毛、非鐵金屬たる銅ニツケル、アルミニユーム、鉛、錫、亞鉛、アンチモニイそしてモリブデン鑛及び水銀の十二品目のあることが判る。右品目の內、亞鉛、及びアルミニユームはソ聯邦としては何うにか自給可能であるが、他の物資はこれを第三國よりの輸入によつてまかなはなければならぬ。而も、ソ聯邦は、歐洲動亂の結果、叙上物資の主要供給國たる英佛及びその植民地の輸出制限、再輸出國たる白耳義及び和蘭本國並にスペインとの交通困難等の理由により、叙上諸物資の入手困難な立場に置かれてゐる。然るに、非鐵金屬、ゴム、羊毛、の主要供給國は南洋、米國、及び東亞の諸地方に存在する。從つて、ソ聯邦は、これら供給國より如何にしてこれら物資を得るかの問題が生じ、又、ソ聯邦にとつて日滿を仲介とする叙上諸國との貿易の意義が生ずる。だが、この問題は今回は觸れないことゝし、項を改めて今後研究して見ることゝする。

之を要するに經濟的には、日本がソ聯邦の原料を利用しソ聯邦に完製品を供給する立前からするならば、日ソ經濟提携の可能性は充分にあるものと斷定しうるが、全面的且つ完全なる經濟的提携は殆んど不可能である。

だが、日本はその輸入の三五・七%を米國に、一二・四%を英國に、輸出の一七%を米國に、一三・二%を英國に(何れも一九三八年)占められ、貿易を通じて英米兩國に徹底的に依存してゐる。從つてこの餘りにも片寄つた戰略的に不利な貿易の分布を好轉せしめるために、即ち貿易轉換のために、新しい市場を發見すべきであり、この意味に於てこそ日ソの經濟關係の打開の意義が存在する。この貿易轉換の觀點からして日ソ經濟關聯の好轉に努力さるべきである。

(昭和一四、一一、五　淺田萬喜雄)

第一表　ソ聯邦貿易の量的推移

	輸出		輸入		輸出入合計		バランス(百萬留)
	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	(イ)輸出超 (ロ)輸入超
一九二九年	四、〇四五・八	一〇〇・〇	三、八五七・〇	一〇〇・〇	七、九〇二・八	一〇〇・〇	(イ)一八八・八
一九三〇年	四、五三九・四	一一三・二	四、二七七・九	一一〇・三	九、一七・九	一一六・三	(ロ)九八・五
一九三一年	三、五五三・二	八七・八	三、〇八三・七	七九・九	六、六三六・九	八五・九	(ロ)一、二八六・八
一九三二年	二、五一八・二	六一・二	一、五二五・一	四〇・四	四、〇四三・三	五二・六	(ロ)九五六・四
一九三三年	二、六七一・六	五二・六	一、六七三・六	四五・三	四、三四五・二	五五・九	(ロ)九九四・〇
一九三四年	一、八三三・三	四五・三	一、〇七七・九	二六・四	二、九一〇・二	三七・四	(ロ)七五五・四
一九三五年	一、六〇九・三	三九・八	一、〇七五・二	二七・四	二、六八四・五	三四・三	(ロ)五三四・一
一九三六年	一、三五九・一	三三・五	一、三五二・五	三四・八	二、七一一・六	三三・七	(ロ)七・四
一九三七年	一、七五八・六	四三・七	一、三四・二	三四・〇	三、〇九九・八	三八・八	(イ)六二・二
一九三八年(一一月)	一、八九・九	—	一、二五二・二	三四・八	二、一四二・一	二六・三	(イ)六三・七

第二表　ソ聯邦貿易の大いさ(世界貿易に於けるソ聯邦の地位)

(イ)　世界貿易總額に於けるソ聯邦の割合

	一九二九年		一九三二年		一九三五年		一九三六年		一九三七年	
	舊百萬米弗	%	舊百萬米弗	%	舊百萬米弗	%	舊百萬米弗	%	舊百萬米弗	%
世界貿易總額	六八、六九〇	一〇〇・〇	二六、八四〇	一〇〇・〇	三四、三五〇	一〇〇・〇	三五、五三三	一〇〇・〇	三一、四二一	一〇〇・〇

第二章　日滿對ソ聯の經濟的提携の可能性

ソ聯邦	九二八・五	一・四	六五八・三	二・四	一・一	三一三・三	一・三	三四四・六	一・一
日本	一、九五五・一	—	七五八・六	—	三・七	一、一六五・六	三・六	一、二六五・六	三・七
獨逸	六、四一四・七	九・五	二、四七八・七	九・三	八・四	二、〇五五・〇	八・五	二、〇五五・〇	八・六
伊太利	一、九四〇・〇	二・九	七七三・五	二・九	二・四	六二七・〇	二・七	七五四・二	二・四
英吉利	八、九五六・五	一三・二	三、五五五・二	一三・五	一三・五	二、七八二・二	一三・九	四、〇四三・二	一三・七
北米合衆國	二三、一〇四・〇	一四・四	三、八二五・〇	一〇・三	一〇・三	二、九六〇・〇	一〇・八	三、〇四二・〇	一〇・三
佛蘭西	四、二四七・八	六・三	一、二四八・三	五・九	五・四	一、四八二・八	五・四	一、四五三・三	五・七

（ロ）世界輸出とソ聯邦の割合

世界輸出總額	三三、〇四四・〇	一〇〇・〇	一二、八五五・一	一〇〇・〇	一一、五五四・〇	一〇〇・〇	一二、四二〇・〇	一〇〇・〇	一一、四五五・〇
ソ聯邦	四七五・三	一・四	二九五・九	二・三	二一八・一	二・〇	二六三・三	二・一	二一四・一
日本	九六九・八	二・九	三六四・一	三・七	三四二・七	三・〇	三九二・〇	三・一	三六〇・〇
獨逸	三、二一二・六	九・七	一、二六七・一	一〇・九	一、〇一四・〇	九・〇	一、一三五・八	九・一	一、〇一七・〇
伊太利	八〇一・四	二・四	三四九・四	三・〇	二八〇・四	二・五	三二七・一	二・六	二八〇・四
英吉利	三、五四九・四	一〇・七	一、二七九・五	一〇・三	一、一三九・〇	一〇・一	一、二五九・七	一〇・一	一、一三九・〇
北米合衆國	六、四二八・〇	一九・四	二、〇四四・〇	一七・四	一、五四四・〇	一三・六	二、〇五四・〇	一六・五	一、五四四・〇
佛蘭西	一、九五五・五	五・九	七四〇・〇	六・三	六二二・〇	五・五	七四〇・〇	五・九	六二二・〇

（ハ）世界輸入とソ聯邦の割合

世界輸入總額	三三、九五五・〇	一〇〇・〇	一三、九五九・〇	一〇〇・〇	一二、三五七・〇	一〇〇・〇	一三、〇五九・〇	一〇〇・〇	一二、三五七・〇
ソ聯邦	四五三・二	一・三	三五二・一	二・五	二一〇・二	一・七	二六三・一	二・一	二一〇・二
日本	九九五・三	二・八	一、一二一・六	八・九	四二四・一	三・四	三五二・七	二・七	三四〇・一
獨逸	三、二〇三・一	九・四	一、二九八・六	九・二	一、一三五・二	九・一	一、一七一・〇	九・二	一、一六三・三
伊太利	一、二九八・六	三・八	四二四・一	三・〇	三五三・九	二・九	四二四・一	三・四	三五三・九
英吉利	一、二五七・六	三・七	一、一七一・〇	八・四	一、〇四二・三	八・四	一、一七一・〇	九・二	一、〇四二・三
北米合衆國	二、〇五五・〇	六・〇	二、〇五五・〇	一四・七	一、七三一・〇	一三・九	二、〇五五・〇	一六・五	一、七三一・〇
佛蘭西	六二二・〇	一・八	六二二・〇	四・四	五一九・〇	四・一	六二二・〇	四・九	五一九・〇

第三表　ソ聯邦の商品別輸出入

	一九三五年				一九三六年				一九三七年				一九三八年（一―一一月）			
	輸出		輸入		輸出		輸入		輸出		輸入		輸出		輸入	
	噸		噸		噸		噸		噸		噸		噸		噸	
1小麥	七、九九三・〇	一四・九	一四、九一二	—	五七、九三五	一〇・五	六、〇八八	—	八四五、七三八	一・一	一、二〇七、五六四	一三・八	六、六八八	一・一	一三、六九八	一三・九
2ライ麥	四二、三五八	—	五八七、七二四	一・一	一〇五、八四九	一・三	二四、二六七	一・三	二〇四、二六七	二・六	三四〇、七四三	三・四	一〇五、一三二	一・二	二四、二六七	二・五
3大麥	一五六、四五〇	三・九	一〇、二一六	〇・二	五二、三五五	一・〇	三一〇	—	二一〇、五八〇	二・七	二一〇	—	五六、三三三	一・一	一一〇	—
4燕麥	一〇、二一六	〇・二	二、五六〇	〇・〇	—	—	三四	—	一六、一七〇	〇・二	一六、一七〇	〇・二	九五九	〇・〇	一六、一七〇	〇・二
5玉蜀黍	一〇	—	三九、〇八〇	〇・四	九五九	〇・〇	五二、五八〇	一・〇	七七八	〇・〇	三五、七六六	〇・四	七七八	〇・〇	一、五四九	〇・〇
6米	二、五六〇	〇・〇	三九、〇八〇	〇・四	七七八	〇・〇	五二、五八〇	一・〇	三五、七六六	〇・四	一、五四九	〇・〇	一、五三〇	〇・〇	三九、九六六	〇・四
7粒穀粉	三〇、三八〇	〇・三	一三、三〇二	〇・一	五六、三三三	〇・六	八八、〇九三	〇・九	一三、三〇二	〇・一	四八、二二三	〇・五	五六、三三三	〇・六	六八、六六	〇・七

1 30 生・死・鳥 二公〇
2 30 牛・馬・豚・鶏 二公〇
3 28 肉製品（下記ノ除ク） 二公〇
4 27 生ニベ 二公〇
5 26 ニベ 二公〇
6 25 挽ニ 二公〇
7 24 挽木 二公〇
8 23 木加工 二公〇
9 22 統計 二公〇
10 21 中丸 二公〇
11 20 原木 二公〇
12 19 抽ゾ出ム汁・樹脂稲物性 二公〇
13 18 ゾ ニ公〇
14 17 来ラ ニ公〇
15 16 ゾ ニ公〇
16 15 乾ル ニ公〇
17 14 生 二公〇
18 13 豆 二公〇
19 12 野菜 二公〇
20 11 薬種 二公〇
21 10 種 二公〇
22 9 澱粉 二公〇
23 8 ヒキワ 二公〇
24 7 ノ輸出ニ関スル経済外交ノ方向 二公〇
25 6 ノ ニ公〇
26 5 ノ ニ公〇
27 4 ノ ニ公〇
28 3 ノ ニ公〇
29 2 ノ ニ公〇
30 1 ノ ニ公〇
31 30 牛・馬・豚・鶏・鳥 二公〇
32 30 魚介類 二公〇
33 30 獣毛・羽毛・油脂・糖類 二公〇
34 30 果実類 二公〇
35 30 穀粉・製粉 二公〇
36 30 魚介類 二公〇
37 30 果実 二公〇
38 30 砂糖 二公〇
39 30 菓子・糖菓 二公〇
40 30 菓子・糖菓 二公〇
41 30 カカオ豆 二公〇
42 30 調製アルコール飲料 二公〇
43 30 茶 二公〇
44 30 マホメ 二公〇
45 30 麻マニラ麻 二公〇
46 30 日本産ノ麻ノ繊維的撚糸ノ可能性 二公〇
47 30 綿 二公〇
48 30 羊毛 二公〇
49 30 日本産ノ麻ノ繊維的撚糸ノ可能性 二公〇
50 30 羊毛 二公〇
51 30 羊毛 二公〇
52 30 羊毛 二公〇
53 30 羊毛 二公〇
54 30 羊毛 二公〇
55 30 羊毛 二公〇
56 30 羊毛 二公〇
57 30 羊毛 二公〇
58 30 羊毛 二公〇
59 30 羊毛 二公〇
60 30 羊毛 二公〇
61 30 羊毛 二公〇
62 30 羊毛 二公〇
63 30 羊毛 二公〇
64 30 羊毛 二公〇
65 30 羊毛 二公〇
66 30 羊毛 二公〇
67 30 羊毛 二公〇
68 30 羊毛 二公〇
69 30 羊毛 二公〇
70 30 羊毛 二公〇
71 30 羊毛 二公〇
72 30 羊毛 二公〇
73 30 羊毛 二公〇
74 30 羊毛 二公〇
75 30 羊毛 二公〇
76 30 羊毛 二公〇
77 30 羊毛 二公〇
78 30 羊毛 二公〇
79 30 羊毛 二公〇
80 30 羊毛 二公〇
81 30 羊毛 二公〇
82 30 羊毛 二公〇
83 30 羊毛 二公〇
84 30 羊毛 二公〇
85 30 羊毛 二公〇
86 30 羊毛 二公〇
87 30 羊毛 二公〇
88 30 羊毛 二公〇
89 30 羊毛 二公〇
90 30 羊毛 二公〇
91 30 羊毛 二公〇
92 30 羊毛 二公〇
93 30 羊毛 二公〇
94 30 羊毛 二公〇
95 30 羊毛 二公〇
96 30 羊毛 二公〇
97 30 羊毛 二公〇
98 30 羊毛 二公〇
99 30 羊毛 二公〇
100 30 羊毛 二公〇
101 30 羊毛 二公〇
102 30 羊毛 二公〇
103 30 羊毛 二公〇
104 30 羊毛 二公〇
105 30 羊毛 二公〇
106 30 羊毛 二公〇
107 30 羊毛 二公〇
108 30 羊毛 二公〇
109 30 羊毛 二公〇
110 30 羊毛 二公〇
111 30 羊毛 二公〇
112 30 羊毛 二公〇
113 30 羊毛 二公〇
114 30 羊毛 二公〇
115 30 羊毛 二公〇
116 30 羊毛 二公〇
117 30 羊毛 二公〇
118 30 羊毛 二公〇
119 30 羊毛 二公〇
120 30 羊毛 二公〇
121 30 羊毛 二公〇
122 30 羊毛 二公〇
123 30 羊毛 二公〇
124 30 羊毛 二公〇
125 30 羊毛 二公〇
126 30 羊毛 二公〇
127 30 羊毛 二公〇
128 30 羊毛 二公〇
129 30 羊毛 二公〇
130 30 羊毛 二公〇
131 30 羊毛 二公〇
132 30 羊毛 二公〇
133 30 羊毛 二公〇
134 30 羊毛 二公〇
135 30 羊毛 二公〇
136 30 羊毛 二公〇
137 30 羊毛 二公〇
138 30 羊毛 二公〇
139 30 羊毛 二公〇
140 30 羊毛 二公〇
141 30 羊毛 二公〇
142 30 羊毛 二公〇
143 30 羊毛 二公〇
144 30 羊毛 二公〇
145 30 羊毛 二公〇
146 30 羊毛 二公〇
147 30 羊毛 二公〇
148 30 羊毛 二公〇
149 30 羊毛 二公〇
150 30 羊毛 二公〇
151 30 羊毛 二公〇
152 30 羊毛 二公〇
153 30 羊毛 二公〇
154 30 羊毛 二公〇
155 30 羊毛 二公〇
156 30 羊毛 二公〇
157 30 羊毛 二公〇
158 30 羊毛 二公〇
159 30 羊毛 二公〇
160 30 羊毛 二公〇
161 30 羊毛 二公〇
162 30 羊毛 二公〇
163 30 羊毛 二公〇
164 30 羊毛 二公〇
165 30 羊毛 二公〇
166 30 羊毛 二公〇
167 30 羊毛 二公〇
168 30 羊毛 二公〇
169 30 羊毛 二公〇
170 30 羊毛 二公〇
171 30 羊毛 二公〇
172 30 羊毛 二公〇
173 30 羊毛 二公〇
174 30 羊毛 二公〇
175 30 羊毛 二公〇
176 30 羊毛 二公〇
177 30 羊毛 二公〇
178 30 羊毛 二公〇
179 30 羊毛 二公〇
180 30 羊毛 二公〇
181 30 羊毛 二公〇
182 30 羊毛 二公〇
183 30 羊毛 二公〇
184 30 羊毛 二公〇
185 30 羊毛 二公〇
186 30 羊毛 二公〇
187 30 羊毛 二公〇
188 30 羊毛 二公〇
189 30 羊毛 二公〇
190 30 羊毛 二公〇
191 30 羊毛 二公〇
192 30 羊毛 二公〇
193 30 羊毛 二公〇
194 30 羊毛 二公〇
195 30 羊毛 二公〇
196 30 羊毛 二公〇
197 30 羊毛 二公〇
198 30 羊毛 二公〇
199 30 羊毛 二公〇
200 30 羊毛 二公〇
201 30 羊毛 二公〇
202 30 羊毛 二公〇
203 30 羊毛 二公〇
204 30 羊毛 二公〇
205 30 羊毛 二公〇
206 30 羊毛 二公〇
207 30 羊毛 二公〇
208 30 羊毛 二公〇
209 30 羊毛 二公〇
210 30 羊毛 二公〇
211 30 羊毛 二公〇
212 30 羊毛 二公〇
213 30 羊毛 二公〇
214 30 羊毛 二公〇
215 30 羊毛 二公〇
216 30 羊毛 二公〇
217 30 羊毛 二公〇
218 30 羊毛 二公〇
219 30 羊毛 二公〇
220 30 羊毛 二公〇
221 30 羊毛 二公〇
222 30 羊毛 二公〇
223 30 羊毛 二公〇
224 30 羊毛 二公〇
225 30 羊毛 二公〇
226 30 羊毛 二公〇
227 30 羊毛 二公〇
228 30 羊毛 二公〇
229 30 羊毛 二公〇
230 30 羊毛 二公〇
231 30 羊毛 二公〇
232 30 羊毛 二公〇
233 30 羊毛 二公〇
234 30 羊毛 二公〇
235 30 羊毛 二公〇
236 30 羊毛 二公〇
237 30 羊毛 二公〇
238 30 羊毛 二公〇
239 30 羊毛 二公〇
240 30 羊毛 二公〇
241 30 羊毛 二公〇
242 30 羊毛 二公〇
243 30 羊毛 二公〇
244 30 羊毛 二公〇
245 30 羊毛 二公〇
246 30 羊毛 二公〇
247 30 羊毛 二公〇
248 30 羊毛 二公〇
249 30 羊毛 二公〇
250 30 羊毛 二公〇
251 30 羊毛 二公〇
252 30 羊毛 二公〇
253 30 羊毛 二公〇
254 30 羊毛 二公〇
255 30 羊毛 二公〇
256 30 羊毛 二公〇
257 30 羊毛 二公〇
258 30 羊毛 二公〇
259 30 羊毛 二公〇
260 30 羊毛 二公〇
261 30 羊毛 二公〇
262 30 羊毛 二公〇
263 30 羊毛 二公〇
264 30 羊毛 二公〇
265 30 羊毛 二公〇
266 30 羊毛 二公〇
267 30 羊毛 二公〇
268 30 羊毛 二公〇
269 30 羊毛 二公〇
270 30 羊毛 二公〇
271 30 羊毛 二公〇
272 30 羊毛 二公〇
273 30 羊毛 二公〇
274 30 羊毛 二公〇
275 30 羊毛 二公〇
276 30 羊毛 二公〇
277 30 羊毛 二公〇
278 30 羊毛 二公〇
279 30 羊毛 二公〇
280 30 羊毛 二公〇
281 30 羊毛 二公〇
282 30 羊毛 二公〇
283 30 羊毛 二公〇
284 30 羊毛 二公〇
285 30 羊毛 二公〇
286 30 羊毛 二公〇
287 30 羊毛 二公〇
288 30 羊毛 二公〇
289 30 羊毛 二公〇
290 30 羊毛 二公〇
291 30 羊毛 二公〇
292 30 羊毛 二公〇
293 30 羊毛 二公〇
294 30 羊毛 二公〇
295 30 羊毛 二公〇
296 30 羊毛 二公〇
297 30 羊毛 二公〇
298 30 羊毛 二公〇
299 30 羊毛 二公〇
300 30 羊毛 二公〇

47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22
硫	岩	菱	苦	鹽	土	黃	鹽	鑛	鑛	鑛	鑛	鑛	鑛	鑛	鑛	鑛	鑛	鑛	鑛	鑛	鑛	鑛	鑛	鑛	鑛
黃	塩	苦	土	鹽	粘	土	鹽	品	原	製	屑	ラ	ム	鉛	ラ	糸	他	ノ	其	ボ	ル	ア	亜	タ	鐵
一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三
九	一〇、九九	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三

67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48						
硫	岩	菱	鉛・同	其	ボ	亜	タ	鐵	滿	バ	石	ルコ	石	無	石	製	皮	毛	棉						
黃	塩	苦	土	鹽	ノ	ア	ロ	鑛	俺	ラ	油	工業製品	炭	煙	炭	革	革		實						
一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三						
九	一〇、九九	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三						

87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68						
石	エ	裘	其	サ	キ	其	其	ベ	ク	見	ク	硫	曹	ゴ	ゴ	陶	硝	研	セ						
一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三						
一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三	一三、〇六三						

88 マッチ	八、五五三	四	七、〇二六	八	五、八四〇	六	六、一八一	｜
89 燐灰石	三八五、六八三	｜	五〇六、六〇八	｜				
90 燐肥料、その他	六七、九五二	｜	三六、三四九	｜	六三、一〇三	｜	六八二、八六五	｜
91 鹽化加里	一七、七六五	｜	二三、五二三	｜				
92 加里肥料（下記除ク）	六二、四二一	｜	一〇、一七三	｜	二九、四〇一	〇三	｜	｜
93 其の他肥料	一三、七二九	二	二九、〇六七	四一	五二、九三八	二九	｜	｜
94 パルプ	｜	四、八五二	｜	二、六九九	｜	｜	｜	｜
95 紙	七、五五四	四一三	三、一六三	一、七〇三	三、九二三	二、三六六	二、七二三	二、八四四
96 印刷物	一三七	一〇六	六七	五三	〇	〇	三九	一六
97 蠶繭	｜	｜	｜	一三七	｜	一三一	｜	｜
98 生糸、絹屑	｜	六三	七三	五八	一〇九	一三八	一六六	一四五
99 絹織物	七一	三九	一五〇	一〇八	一五七	三	二七五	｜
100 羊毛	｜	三一、九三九	｜	二五、八九五	｜	二、七二五	一四三	二五、八一五
101 毛織物	二九八	一六一	二九五	三三一	一三五	一三	｜	｜
102 毛髪	四、八三五	二、四九一	二、五二三	二、三九四	一、〇七〇	九二	一、五三三	一、七三二
103 棉花、棉屑	六、三九八	四四、二三〇	六、八一七	一六、六六三	四五、三一七	三、〇五四	一〇、五七七	一六、三五六
104 棉糸	一、〇二四	四三一	六五	一	六六四	｜	四九一	四三
105 棉織物	一九、一七二	一三九	一七、三八八	二〇九	二〇、〇〇五	一五九	一三、七五六	三三四
106 亞麻、同纖維	五九、〇六〇	〇	五七、一〇六	二	三四、四八六	｜	二一、三三九	｜
107 亞麻糸	五九二	〇・二	一	｜	九	｜	｜	｜

108 亞麻織物	一、一七四	｜	八四七	〇	一、六四四	｜	八三三	｜
109 ヂュート	｜	二五、八八三	｜	二一、七二九	｜	二三、六九五	二〇	四〇、〇四七
110 マニラ麻、ケナフ	｜	二〇、九五一	｜	一八、二三〇	｜	一八、五八六	｜	｜
111 麻製品	一、五〇七	七、〇〇五	九五六	三二五	三八八	五三	一、〇四六	一五
112 衣類、呉服類	六四四	一三〇	一、二九七	九三	一、六一三	六五	｜	｜
113 絨氈	二九七	七三	二三〇	三六	一四三	一三	一三六	一七
114 手工藝品	八四一	｜	一一三	二	五	｜	七八五	三六
115 ボロ	二五、四一八	八、五三〇	一九、一四五	八、八八三	二〇、八三六	九、四九二	二一、四六〇 八、八九四	九、一三五
116 銑鐵	三三一、一九一	｜	七一〇、六六一	｜	一三七、二七二	二	二、四九六	｜
117 合金鐵	九八	六、三六二	九六〇	二、六一七	二一	二九	｜	一、六五八
118 鐵及鋼（型鐵）鐵	一三、二〇九	四六一	一三、一九五	｜	四、三九二	七、〇六八	二、八三三	四、二七〇
119 鐵及鋼鐵材	三三、四五〇	七一、二六四	三三、〇八一	六二、七二五	五三、二二六	三三、二六〇	二五、二五二	一八、〇五〇
120 鐵及鋼板	四、〇九一	一五四、七〇四	四、五一七	一四六、八一八	五、四五	一五二、九〇一	五、四七七	六七、五八八
121 ブリキ	一三	八、八四九	一四	一〇、一六〇	｜	｜	｜	｜
122 針金	三、〇〇四	九、〇八八	五、四四八	一〇、八四九	三、六七二	一三、六四一	四、五〇七 三、七二九	一三、五九一
123 良質鋼	二八	三、〇七二	一一六	三、二四八	一四一	二、六〇〇	六五一	二、四五〇
124 鐵管	三、三三一	三八、七五五	二、六一五	三六、八三三	五、九四一	二九、〇九六	二、三一三	二三、一七三
125 軌條其ノ他鐵道用材（下記除ク）	一、六二九	二二、〇二八	三、一八五	四、五九七	二、三四八	三、〇二九	一六、四七四 九、七四九	五六二
126 車輪	一	七三、九五六	三	三、七六四	二四	二四	｜	八
127 工具（下記除ク）	七八九	四四三	八七二	五〇八	一、〇七五	三一三	一、〇二一	三五三

128	冷金屬切斷鋏	一四	一七	二	二				
129	生產用黑色金屬製品	二、一〇〇	二、二九一	一、九五五	三、四一三	二、六七八	二、五四九	三、三六二	九、七三四
130	銅（製品）	〇・四	二九、五九〇	一	四五、二六〇	六一	六五、八〇四	一	四九、四六七（二三、四九〇）
131	ニッケル（〃）	—	五、五八二	—	七、二一五	〇・一	九、〇七六	有色金屬鑛（一六二）	八、三七六
132	アルミニューム（〃）	〇・五	五三八	—	一七	〇・五	二、五四六	〇・四	六、三七四
133	鉛（〃）	九九	三〇、八九九	一八	二九、六六二	五〇	四二、四二三	七三	一五、〇六八
134	亞鉛（〃）	〇・一	一、四七四	—	八六	〇・二	二、九三九	二	三九三
135	錫（〃）	二	七、四二八	三	九、八一九	七	一三、五〇七	七	七、九七三
136	アンチモニイ	—	二、三七八	—	二、三七五	：	：	：	—
137	其の他有色金屬	—	六三四	—	四九七	〇・一	一三〇	〇・一	二一四
138	刀類	五九	一	六八	一	六三	一	三一	〇・一
139	消費用金屬製品	一、九一四	三五	二、五三三	一三五	三、〇〇三	一四三	二、七七〇	二四
140	ボイラー、同附屬品	（千留）七一四	（千留）一、三九三	（千留）七二一	（千留）六〇〇	（千留）一四二	（千留）四七七	（千留）一三〇	（千留）一、六六一
141	蒸汽機械、同部分品	五七九	三、九〇七	六	六、九四七	三〇二	四、五三八	三三	二、〇三四
142	內燃機械、同部分品	一四〇	三五、九〇七	一〇〇	一七、八九六	七四二	九、四四五	四〇六	八、二三三
143	ポンプ、同部分品	三七七	二、五六二	四三	三、二四七	一七八	四、九八五	△三四三	三、三六八
144	壓搾機、同部分品	一三	五、四〇五	〇・四	四、五九三	五三	三、七二五	△二一	六、六八七
145	排送風機	二三三	二、二〇三	三九	二、五四五	一六七	八八四	△六四	七九七
146	起重機、コンベーヤ設備	四〇七	二、〇一〇	一八四	三、二九八	六八八	四、五三六	△二七	—
147	浚渫機、掘鑿機同部分品	—	三二四	—	七一四	—	六〇五	三、五四八	一、四四九

148	農用機械、同部分品	二、一三〇	二一〇	二、九〇七	四九八	三、七五三	六七	三、五四八	二六九
149	選洗碎鑛機	二	二、四〇〇	二	八、一二八	六七	二、六八四	四七	二、一九四
150	製紙用機械	—	一、八九七	六	一三、七九〇	九	一七、三七〇	一〇	七、四五五
151	印刷機械	八八	一、〇一三	一〇	六、四六三	二八九	二、六六九	一八四 一三〇	一、三三三
152	紡織機械	八、三六一	二、〇八一	八五七	一五、三五四	四、三四八	九、六二三	二一	一、六二七 一、一九〇
153	ミシン	一、三五八	九七二	一、二一三	一、六五九	一、九〇一	四七七	一、三三七 —	六一〇
154	鑛山及工場用排氣器	—	二四五	—	六八八	一三	八八四	：	二、五五二
155	金屬旋盤	八三	一九、三三〇	一七九	六五、四〇五	五三九	四七、七二八	△一九三	三八、五二四
156	金屬鑽孔機	二六	九、四七四	五〇	一六、八二三	一〇四	一一、七四七	△五七	二三、二九八
157	平削機	—	二、六九八	三九	八、〇七九	六三	四、七七三	△五三	八、九五三
158	轉削機	—	五、三二一	八一	一、九四九	三七	一〇、五四三	△八六	一九、七〇〇
159	研磨機	九	二、一一六	四〇	三〇、五一四	三〇	一四、〇三九	△七七	三八、八八五
160	齒車製造用機械	—	六、二五〇	六	一五、七九四	—	九、九〇一	△—	二、〇六八
161	其ノ他冷金屬加工機	三九	六、四二一	四三	二九、一四四	—	一、〇八〇	—	—
162	金屬壓搾機	一	三、五六一	—	二一、九三〇	—	五、四〇三	△—	三、一四五
163	蒸氣、氣壓ハンマー	—	七八四	二六	一、四三六	—	一、〇一八	△—	二、三二八
164	金屬切斷機	〇・四	一、一六九	二一	五、五二五	八	二、九二四	△八二	一、三三五
165	其ノ他金屬加工機	四	二、五五四	三五	九、四五八	—	一、〇八九	△—	五三五
166	木材加工機	二六	一、〇三八	二九	二、六一五	四五	四、二三五	△六四	二、一五〇
167	秤（精密秤ヲ除ク）	一五八	一八	三〇八	一、二〇三	二九二	四九二	三六七	五二五

	一九二八年—二九年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年
	〃	〃	〃	〃	〃	〃
生活必需品	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
百萬留	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
原料及半製品	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
百萬留	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
製品	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

第四表　ソ聯邦ノ商品群別輸出入構成

（イ）輸　出

	計	類	石	鐵	道（軌條、車輪、其ノ他ノ部分品）	自動車	同上部分品	船舶、航空機	物	履	鑛	電	其ノ他
	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
生活必需品	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
百萬留	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
原料及半製品	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
百萬留	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
製品	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

（ロ）輸　入

	計	類	石	鐵	道（軌條、車輪、其ノ他ノ部分品）	自動車	同上部分品	船舶、航空機	物	履	鑛	電	其ノ他
	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
生活必需品	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
百萬留	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
原料及半製品	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
百萬留	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
製品	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

ソ聯邦の經濟外交の向方

イ　ソヴィエト計算單位使用協定、延長、同部分議定書　168
ロ　ソヴィエト政府ノ機關ノ他ノ商業代表部　169
ハ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動　170
ニ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　171
ホ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　172
ヘ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　173
ト　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　174
チ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　175
リ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　176
ヌ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　177
ル　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　178
ヲ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　179
ワ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　180
カ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　181
ヨ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　182
タ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　183
レ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　184
ソ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　185
ツ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　186
ネ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　187
ナ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　188
ラ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　189
ム　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　190
ウ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　191
ヰ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　192
ノ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　193
オ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　194
ク　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　195
ヤ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　196
マ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　197
ケ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　198
フ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　199
コ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　200
エ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　201
テ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　202
ア　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　203
サ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　204
キ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　205
ユ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　206
メ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　207
ミ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　208
シ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　209
ヱ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　210
ヒ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　211
モ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　212
セ　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　213
ス　露國ニ於ケル外國貿易機關ノ活動ニ關スル法律（ソヴィエト政府ノ決定）　214

一九三四年 〃	二九五・七	一六・一	一、一〇四・一	六〇・三	〇・〇	〇・〇	四三一・九	二三・六
一九三五年 〃	三〇四・八	一九・〇	九九六・九	六二・〇	〇・〇	〇・〇	三〇六・六	一九・〇
一九三六年 〃	一八〇・九	一三・四	九〇七・五	六六・八	〇・〇	〇・〇	二六八・九	一九・八
一九三七年 〃	三九六・五	二二・九	一、〇二二・一	五八・六	〇・[illegible]	〇・〇	三一九・八	一八・五
一九三八年 〃 (一―一二月)	三六九・八	三一・一	五九七・七	五〇・二	〇・一	〇・〇	二二二・四	一八・七

（ロ）輸　入

一九二八年―二九年	三一五・四	八・六	一、九九六・四	五四・五	四八・二	一・三	一、三〇二・二	三五・六
一九三〇年 〃	四一一・三	八・九	一、六三七・二	三五・三	九八・九	二・一	二、四八九・六	五八・七
一九三一年 〃	二〇四・五	四・二	一、五四〇・四	三一・八	一一四・三	二・四	二、九八〇・二	六一・六
一九三二年 〃	三三六・四	七・三	八七七・七	二八・五	八〇・六	二・六	一、八九八・三	六一・六
一九三三年 〃	七二・七	四・六	三九七・二	二五・五	―	三・九	―	六六・〇
一九三四年 〃	九五・〇	九・四	三九五・九	二八・九	四七・三	四・七	四七八・七	四七・〇
一九三五年 〃	九一・九	八・七	四六三・八	四三・九	四〇・七	三・九	四五九・五	四三・五
一九三六年 〃	八八・〇	六・五	四七三・〇	三四・九	五四・七	四・一	七三六・七	五四・五
一九三七年 〃	八五・八	六・四	六六九・〇	四九・九	四六・一	三・四	五四〇・二	四〇・三
一九三八年 〃 (一―一二月)	一一七・〇	九・四	四九六・八	三九・七	四六・一	三・六	五九二・二	四七・三

第五表　生産、消費財別輸入構成

	生産財 百萬留	生産財 指數（一九二九年＝一〇〇）	生産財 構成（全輸入＝一〇〇）	消費財 百萬留	消費財 指數（一九二九年＝一〇〇）	消費財 構成（全輸入＝一〇〇）
一九二九年	三、四一六・四	一〇〇・〇	八八・六	四三八・〇	一〇〇・〇	一一・四
一九三〇年	四、〇八二・一	一一九・四	八八・一	五五一・九	一〇四・三	一一・九
一九三一年	四、五二〇・二	一三二・三	九三・四	三一五・四	五七・八	六・六
一九三二年	二、七四六・三	八〇・三	八九・一	三三二・九	九五・六	一〇・九
一九三三年	一、三七五・三	四〇・二	九〇・三	一四四・五	五八・〇	九・七
一九三四年	八五八・五	二五・一	八四・六	一五三・三	一三五・〇	一五・四
一九三五年	九一九・八	二六・九	八七・一	一三五・八	一一三・一	一二・九
一九三六年	一、二〇八・九	三五・三	八九・五	一四〇・二	九二・一	一〇・五
一九三七年	一、二一九・七	三五・八	九〇・九	一二一・五	九七・八	九・一
一九三八年（一―一二月）	一、一〇一・四	―	八八・〇	一五〇・八	―	一二・〇

第六表　ソ聯邦ノ輸出構成（農工業別及生産部門別）

（イ）農工業製品別輸出構成

	農産物 百萬留	農産物 指數（一九二九年＝一〇〇）	農産物 輸出構成（全輸出＝一〇〇）	工業製品 百萬留	工業製品 指數（一九二九年＝一〇〇）	工業製品 輸出構成（全輸出＝一〇〇）
一九二九年	―	一〇〇・〇	三八・九	―	一〇〇・〇	六一・一
一九三〇年	―	一二〇・〇	四一・九	―	一〇六・七	五八・一

一九三一年	—	九五・三	四二・二	—	八三・〇	五七・八
一九三二年	—	五一・一	三一・九	—	六九・三	六八・一
一九三三年	—	三九・九	二八・八	—	六二・四	七一・二
一九三四年	—	三七・六	三二・二	—	五〇・四	六七・八
一九三五年	—	二〇・八	二〇・四	—	五一・八	七九・六
一九三六年	二七五・三	一七・五	二〇・三	一、〇八三・七	四三・八	七九・七
一九三七年	五四七・六	三四・八	三一・七	一、一八一・〇	四九・三	六八・三
一九三八年（一—一一月）	四四八・六	—	三七・七	七四一・五	—	六二・三

（ロ）生産部門別輸出構成

	第一次五箇年計畫期平均		第二次五箇年計畫期平均		一九三六年		一九三七年		一九三八年（一—一一月）	
	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%
原料農産物	一、〇〇七・三	二七・六	三三三・一	一九・六	二〇一・五	一四・五	四六五・八	二七・〇	四一六・七	三五・〇
重工業製品	六八一・七	二三・六	三〇一・六	一八・九	三八九・六	二九・七	四二七・八	二四・八	二五三・八	—
輸工業製品	五六〇・六	一五・三	二九五・八	一七・一	二二三・四	一六・四	二三〇・九	一三・四	一五七・五	—
木材工業製品	五六八・三	一五・五	二七七・五	二一・八	三五九・二	二六・五	四七三・八	二五・三	二五二・六	—
食糧工業製品	六三四・〇	一七・三	二一一・三	一三・二	一六六・四	一三・三	一五四・四	八・九	一〇一・一	—
其ノ他	一六・二	〇・五	一一・二	〇・六	八・八	〇・六	一一・七	〇・六	九・三	〇・八

註 %ハ全輸出ヲ一〇〇トシタ場合ノ比重

第七表　ソ聯邦ノ國内消費ニ對スル輸入割合

	一九三二年			一九三七年		
	消費高	輸入高	%	消費高	輸入高	%
鋼材（單位千噸）	五、一九三・〇	八九三	一七・四	二、五一〇・〇	二	〇・〇
鐵管（〃）	—	—	—	九一四・〇	二九	三・二
棉花（〃）	三八七・六	二四・二	六・二	七一九・三	二二・一	二・九
銅（〃）	四三・二	一二・五	二八・九	◎九二・五	二九・二	三一・六
アルミニューム（〃）	一一・四	一〇・六	九二・九	三〇・一	—	一〇〇・〇
亞鉛（〃）	二四・二	一〇・五	四三・四	◎四七・二	一・五	三・二
鉛（〃）	五二・四	三三・七	六四・三	◎六二・〇	二五・三	四〇・八
錫（〃）	—	三・九	—	◎三二・八	五・八	一六・八
羊毛（〃）	九〇・八	二五・九	二八・五	一一六・三	二五・八	二三・〇
ゴム（〃）	—	三〇・七	—	〇七三・五	三一・五	四二・八
パルプ（〃）	四三五・二	三・二	〇・七	◎五九五・五	四・五	〇・八
米（〃）	二六一・八	六六・九	二五・五	四一五・〇	三五・八	八・六
魚類（〃）	一、三七九・六	七一・一	五・一	一、六一三・〇	一四・六	〇・九

註　ソ聯邦の總國内消費額に對する輸入割合はソ聯邦側發表によると一%と云はる。〇印一九三六年◎印一九三五年

第八表　ソ聯邦ノ輸出率（生産ニ對スル輸出ノ割合）（△印一九三六年　◎印一九三五年）

	一九一三年 %	一九三〇年 %	一九三二年 生産高	一九三二年 輸出高	一九三二年 %	一九三四年 %	一九三五年 %	一九三七年 生産高	一九三七年 輸出高	一九三七年 %
木材			—	—	—					
挽材	五〇・二	三・六	—	—	一八・三	一四・三	一八・二	—	—	—
ベニア板	—	二三・九	—	—	三四・五	三六・五	三三・六	—	—	—
石油	—	八五・四	二一、四一三・〇	五、五八一・〇	二六・一	一五・九	一三・八	三〇、四八五・〇	一、八六〇・六	六・一
ベンヂン	九七・三	二四・〇	二、四五九・〇	一、九七二・〇	八〇・二	四〇・四	二七・三	△三、〇〇一・〇	四一九・〇	一四・〇
ケロシン	二九・〇	三三・〇	三、五六〇・〇	七九二・〇	二二・二	九・四	八・五	△五、四三三・〇	三八二・〇	七・〇
燃料石油	—	四六・八	九、二一四・〇	三、七三〇・〇	四〇・五	二〇・八	一四・九	△一〇、四八五・〇	一、四二〇・〇	一三・五
潤滑油	—	—	六八二・〇	二四六・〇	三六・一	二〇・三	二〇・五	△一、五〇〇・〇	三〇八・〇	二〇・五
毛皮	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
亜麻	—	—	六七三・〇	九三・〇	一三・八	一三・六	九・四	一三四・二	三六・五	二七・二
亜麻布	—	一六・六	—	—	一六・四	一七・一	一〇・七	—	—	—
綿布（百萬米）	七・二	五・三	二、七三三・〇	二一・九	七七・五	七・一	八・四	三、四四七・七	二一一・六	六・一
満俺鐵	—	五五・五	八三三・〇	四一五・〇	四九・八	四〇・四	二四・二	二、七五二・〇	一〇〇・八	三・七
鐵鑛	—	四・二	一二、〇八六	三四二・〇	二・八	一・四	〇・六	二七、七七〇・〇	三三一・五	一・三
銑鐵	—	—	—	—	—	一・一	二・六	一四、五〇〇・〇	一三七・三	〇・九
石綿	—	二九・〇	三九・八	一九・五	二七・六	一六・五	二六・二	△一三五・一	二二・一	二〇・八
石炭	—	三・八	六四、三一五・〇	一、七九五・〇	二・八	二・三	二・二	一二七、九六八・〇	一、三二三・三	一・〇

牛酪	五五・〇	二三・七	七一・六	三〇・九	四三・二	二七・五	一九・〇	△一八七・八	二三・一	二・三
穀物	—	二・七	六九、八七〇・〇	一、八一九・〇	二・六	〇・八	一・六	一二〇、二九〇・〇	一、二七七・五	一・一
小麥	一三・七	九・四	二〇、二五〇・〇	五五〇・〇	二・七	〇・七	二・三	四六、八六〇・〇	八四五・七	一・八
ライ麥	—	二・七	二二、二〇〇・〇	四三一・〇	一・九	〇・五	〇・二	—	二〇四・二	—
大麥	三四・〇	二一・一	五、〇三〇・〇	四三〇	八・四	二・六	六・九	一〇、六〇〇・〇	二〇四・二	一・九
燕麥	六・七	二一・〇	一一、二四〇・〇	一七・〇	〇・二	〇・五	〇・二	二一、八六〇・〇	六一・〇	〇・三
玉蜀黍	四八・三	一一・八	三、四三〇・〇	三一一・〇	九・一	三・二	—	—	—	—
砂糖	一一・四	五・九	一、二六四・六	七六・一	六・〇	二・六	二・八	三、四五三・三	一三三・〇	三・九
罐詰	—	—	—	—	—	—	二・三	△一、一七一・五	八・四	〇・七
植物油	—	二・六	四〇九・七	三七・九	九・三	九・五	〇・二	四九三・三	四・六	〇・九
燐鑛石	—	五・二	三八〇・〇	四五・〇	一一・八	三六・五	二四・七	◎一、五五五・〇	三八五・〇	二四・七
〆粕	—	四四・七	七九八・六	四三一・八	五四・一	五六・〇	—	六九五・八	三八九・六	五五・九
魚類	—	二・九	一、三三五・四	二六・九	二・〇	一・三	〇・三	一、六〇八・九	一・六	—
棉花	—	—	三八一・〇	一八・〇	四・七	—	—	七一六・七	三八・五	五・四

註 ソ聯邦ノ國民經濟總生産高ニ對スル輸出高ノ割合ハ一九二九年三・二%、一九三二年二・五%、一九三四年一・八%、一九三五年一・三%デアル

地位

年	一九三四年		一九三五年		一九三六年		一九三七年		一九三八年(一二)	
	新百萬留	%	新百萬留	%	新百萬留	%	新百萬留	%	新百萬留	%
英	三〇・七	二六・六	三七・六	三三・五	三六・七	六・六	三六・一	三八	三三・三	六・七
米	六一・三	三・四	七二・一	六・二	九・六		一三・四		九・三	

位置	國別	年代	一九一三年		一九一四年		一九一五年		一九一六年		一九一七年		一九一八年		一九一九年		一九二〇年		一九二一年		一九二二年		一九二三年		一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		金額及%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%
一	英		一三五・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一
二	米		一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一
三	和蘭		一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一
四	獨逸		一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一
五	佛蘭西		一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一
六	伊太利		一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一
七	波		一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一
八	伊		一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一
九	ヂ		一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一
十	其他		一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一
	合計		一三五・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇

位置	國別	年代	一九一三年		一九一四年		一九一五年		一九一六年		一九一七年		一九一八年		一九一九年		一九二〇年		一九二一年		一九二二年		一九二三年		一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		金額及%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%	百萬留	%
一	英		一三五・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一	一三〇・〇	一四・一
二	米		一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一
三	和蘭		一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一
四	獨逸		一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一
五	佛蘭西		一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一
六	伊太利		一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一
七	波		一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一
八	伊		一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一
九	ヂ		一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一
十	其他		一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一	一・〇	〇・一
	合計		一三五・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇	一三〇・〇	一〇〇・〇

（ロ）相手國別ソ聯邦輸入貿易及ソ聯邦輸入に於ける各國の地位

順位	國別	金額及% 年代	百萬留	百萬留	百萬留	百萬留	百萬留	百萬留	百萬留	百萬留	百萬留	百萬留
			一九一三年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
一	英		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
二	吉		三五・九	四〇・〇	四二・〇	四二・〇	四四・〇	四四・〇	四四・〇	四四・〇	四四・〇	四四・〇
三	米		一四・〇	一四・〇	一四・〇	一四・〇	一四・〇	一四・〇	一四・〇	一四・〇	一四・〇	一四・〇
四	白		一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇
五	和		八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇
六	獨		七・〇	七・〇	七・〇	七・〇	七・〇	七・〇	七・〇	七・〇	七・〇	七・〇
七	佛		六・〇	六・〇	六・〇	六・〇	六・〇	六・〇	六・〇	六・〇	六・〇	六・〇
八	イ		五・〇	五・〇	五・〇	五・〇	五・〇	五・〇	五・〇	五・〇	五・〇	五・〇
九	瑞		四・〇	四・〇	四・〇	四・〇	四・〇	四・〇	四・〇	四・〇	四・〇	四・〇
一〇	土		三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇
一一	蘭		二・〇	二・〇	二・〇	二・〇	二・〇	二・〇	二・〇	二・〇	二・〇	二・〇
一二	瑞		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
一三	諾		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
一四	ア		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
一五	チ		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
一六	ブ		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
一七	波		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
一八	エ		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
一九	ブ		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
二〇	ギ		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
二一	日		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
二二	英		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
二三	吉		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
二四	米		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
二五	利		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
二六	國		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
二七	波		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
二八	伊		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
二九	リ		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
三〇	チ		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
三一	ユ		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
三二	ス		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
三三	ア		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
三四	ア		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
三五	チ		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
三六	ブ		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
三七	諸		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
三八	其		一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
	合		一〇三・〇	一〇三・〇	一〇三・〇	一〇三・〇	一〇三・〇	一〇三・〇	一〇三・〇	一〇三・〇	一〇三・〇	一〇三・〇

第十表　日ソ貿易

（イ）品目別對ソ輸出

ソ聯邦の對日輸出	一九二九年		一九三〇年		一九三一年		一九三二年		一九三三年		一九三四年		一九三五年		一九三六年		一九三七年一九月七年	
	噸	千留	噸	千留	噸	千留	噸	千留	噸	千留	噸	千留	噸	千留	噸	千留	噸	千留
材木	三、七八六	一、六四五	一、九五五	一、〇一〇	七五六	三九九	一、〇三七	五四九	一、三五八	七一四	一、三八一	七三二	一、七八八	九四六	二、一〇〇	一、一一三	一、一〇一	五九七
材の乾溜製品	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
他ノ製品	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
木材ノ製品	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
骨	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
製	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
品	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
草	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
詰	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
粕	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
糖	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
品	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
材	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
板	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
ヲ類	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
皮	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
品	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
鳥類	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
髪毛	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
料	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
菜	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
實	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
草	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
ル	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
子	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
麥	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
麥	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
粉	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
製	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
品	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
濃縮	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
煙草	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
罐詰	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
砂糖	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
木	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
そ	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
べ	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
挽イ	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
魚毛	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
絹死肉	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
剛毛	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
羊毛	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
皮革	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
毛原	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
野果	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
藥亜	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
麻の油	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
クの他用イ	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
炭躍	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
俺	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
磁寸イト	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
製	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
石石	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
石満鐵薬	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
酒製	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
鑛鑛子	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
品	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
類	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
錨鑛	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
鑛子	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
品	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
草	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
濃縮	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
煙草	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
粉	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
製	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
品	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
雜	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五
品	三、五九九	一、四五二	三、五三二	一、四一三	二、七一四	一、〇八五	二、三五九	九四三	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五	二、四一四	九六五

―	―	一八	五〇四	九六二	一、四五四	八、一五八	一一、七九四	―	―
―	―	―	―	四二	二〇六	一、〇四六	三、七一五	六九三	一、三三〇
―	―	―	―	六	九	四四五	四一八	三〇	二一
―	―	―	―	一六	一四五	一一七	三五二	三四	一五一
―	―	―	―	―	―	〇	〇・二	―	―
―	―	―	―	〇・二	四	二	六三	〇	二
―	―	―	―	〇	〇・四	七	一一	―	―
―	―	―	―	八九六	一・〇八六	六・五四一	七・二三三	一、〇二八	一・〇三六
―	―	三	六一	二〇	六六	三九	二一七	〇	八
―	―	―	―	〇・一	一	四	七一	〇	〇・一
―	―	―	―	〇	〇・四	〇・二	五	〇	一
―	―	―	―	二	四	一七	二	―	―
―	―	八〇	二一五	一三	七九	四三	八二	一一八	一五九
―	―	七七	一九三	一〇	三九	一三	二三	四三	一五九
―	―	三	三三	三	三九	二九	五八	四	一三
―	―	―	―	―	―	―	―	七	三
―	―	五九	一、二〇九	八九	八九四	一四七	四、九二八	一四四	一〇、六三

（ロ）ソ聯邦の品目別輸入（日本よりの）

ソ聯邦の日本よりの輸入	粒穀	粉、挽割、屑米	穀物	豆	菜	果	野菜	種子	繊維	肥料	石ケ	塗料	陶磁器	セメント	石炭	石油	皮革
一九二九年	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留
	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣
	三、〇〇〇	七四〇	三、〇〇〇	四、〇八〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇
一九三〇年	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留
	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣
	三、〇〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇
一九三一年	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留
	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣
	三、〇〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇
一九三二年	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留
	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣
	三、〇〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇
一九三三年	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留
	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣
	三、〇〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇
一九三四年	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留
	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣
	三、〇〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇
一九三五年	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留
	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣
	三、〇〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇
一九三六年	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留
	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣
	三、〇〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇
一九三七年	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留
	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣
	三、〇〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇

ソ聯邦の日本よりの輸入	毛皮	煙草	酒類	カオルコール同製	薬品	砂糖	筋子	繩類	植物油	魚類	牛肉	生獣	木材	果実	野菜	種子	綿花	羊毛	絹糸	織物	毛織物	綿織物	麻織物	人絹織物	製品	金属	有色金属	軌条	鉄道車輌	鉄及鋼	鉄管	鉄製品	針金	鉄板	鉄材	機械	銅及アンチモニー	銅線	銅製品	其他
一九二九年	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留
	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣
	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一九三〇年	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留
	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣
	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一九三一年	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留
	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣
	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一九三二年	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留
	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣
	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一九三三年	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留
	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣
	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一九三四年	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留
	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣
	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一九三五年	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留
	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣
	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一九三六年	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留
	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣
	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一九三七年	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留	千留
	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣	趣
	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

船舶	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	五九	一、二九	八九	八九四	一四七	四、九一八	一四四	一〇、六六三
部分品	〇・三	二	一	四	〇・一	〇・四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	七	三三
自動車	—	—	八	三五	—	—	—	—	—	—	三	三	三	三九	二九	五八	四	一三
鐵色用材	—	—	三一	一八四	—	—	—	—	—	—	七	一九九	一〇	三九	一四三	三	四三	二九
運輸機械	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	八〇	三三五	一三	七七	三三	八二	一八	三五九
測量設計器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	四	一七	三	一	—
寫眞用機械	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇	一	〇・一	二	〇	一
光學機械	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・一	〇・二	四	七	〇	〇・一
精密機械	一	三五	五	九二	一	三九	一	三	—	—	三	六二	三〇	一六六	三九	一三七	八	八
部分品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	八九六	一、一六六	六、五四一	七、三三一	一、〇五八	一、〇六六
電位計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇	〇・三	一七	七	〇	—
電信電話機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・二	四	二	三	〇	一
電氣爐	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇	〇・二	—	—
配電機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一六	一五三	一二七	一五三	一三四	一三
變壓機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六	九	四三四	四八	三〇	二二
發電機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四三	二〇六	一、〇四六	一、七五三	六九五	一、三三〇
電氣機械	二四	二〇	一一三	八五	二二四	九四三	一	三	—	—	一八	五〇四	九六三	一、四三三	八、一八一	二、七四四	一六	—
△機械部分品	八二	四九	二三八	一、六五	一、七一八	三、二二〇	一六	三五九	—	—	—	—	三三	三三	二三	六〇四	一三	五四
事務用品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・三	—	〇・三	九	一四	四三
秤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・三	〇・四	—	二	〇・三	〇・三
工作機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一〇・六	一、一九	一、〇八	一、六九	二、三〇三	三、五八
鑛山用機械	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四三	四六	—
ミシン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・一	〇・四	〇・一	—	—	一
紡績機械	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	七九	—	—
起重機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	八二	一四三	八四〇	二三〇	九二	九
排氣器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・一	二	一	三三	一	七
コムプレッサー	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四	四	—	七七	一一	一七
ポンプ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一九	一九	一四〇	三六五	九四	三四
内燃機械	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六六	六六	一、二八八	三、四八〇	一、〇三四	二、二九六
蒸汽機械	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	七	三三	三六	三三	三〇	二三
蒸汽々關	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三、二四	三、四〇六	一〇六	七九	二五	一〇〇	一五〇	一七五
機械設備	三四五	一、四〇二	六六八	二、四〇〇	八〇〇	二、六五	四〇四	一、九八四	二、二四	一、一二四	三、四三三	三、四〇〇	一、一二二	八七	四三八	八六三	一、一二七	一、一三六
銅製品	九	七四	三九	三三	四九	一	四	〇	〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一二〇	一一〇	—	—	—	—
アンチモニイ	五	三五	一四	一四	九	七九	〇	〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
銅	三	二	七	二六	一、三五五	二、三〇四	一〇〇	三九	一	一	—	—	二	四	四〇	九五	—	—
錫	一	四	二	一三	一	四	—	—	〇	〇	—	—	三	四	一	九〇	—	—
有色金屬	三三	八八	七四	二三四	一、三五六	三〇四	二四四	四三	三	九	三	一三七	三四	三〇	七〇	一、〇二	六	一七
その他金屬製品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一、七〇九	一、〇三〇	一、八九九	一、九一九	二、五四	二、九〇八
軌條、その他	三七	一八	四〇	一二五	三五	一七	—	—	—	—	—	—	一四〇	六六	三四三	七七	一、一〇四	三三七
鐵管	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一、四三二	八五九	三三	一、六三	一、二五	九九八
良質鋼	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	四	七	三	三	九
針金	三三	四四	七六	一、五三	三六	四六〇	一八〇	一一〇	三〇	二三	—	—	一六	一四	一、六三	三五	二、〇五	五七
ブリキ	一、六三三	三、三〇	一、四〇	三、三九	一、六九	五、八三	六七三	一、三四	五四〇	四九九	—	—	五、三三	二四	四四	三三	三三	一九八
鐵鋼鐵板	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二、五九	一、八三	一、三九	一、三三	一、九〇	一、九一
鐵鋼鐵材	八四四	一、三四	四、三九	七、六七	三、七〇	八九	一三四	三〇六	七三	九三	—	—	二、一〇	八四	一〇	二二	九二	四六
合金鐵	三、〇六五	三、〇六	五、八六	三、二七	三、六七	一、二三	七二	一八六	八〇六	三三	—	—	—	一	—	一〇	—	—
黒色金屬、同製品	三、〇八五	三、〇六	五、八六	三、二三	三、六七	一、二三	一、六九	一、〇五	七、三六	六、二四	三、三九	三、三九	—	—	—	—	—	—
ボロ	—	—	—	—	—	—	—	—	三	四	九	一	八	四	三	二	—	八
衣類	二四	三四	四六	八〇	六	一六	一	—	—	—	八二	一二	—	九四	七八	三三	三三	三三
麻製品	一、四九六	一〇、九八	一、九八四	一五、〇七	三、三一	三、六八	二、一三	六〇八	二、三九	三、六三	四三	八、三	六、九六	五、九四	三、五	三九	三、八	三、九
糸	—	—	—	—	—	—	四五	二三	二三	二七	二六	一三	四三	九七	—	六	—	六
綿織物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	三〇	三〇	三六八	三	—	—	—
毛織物	二	七四	二	四六	四	—	—	—	—	—	—	三二	三三	一、三七	三七	三八	一	—
絹織物	〇・三	三三	〇	四	〇	〇	—	—	—	—	—	—	三〇	四〇	九六	九六	—	—
紙	八九九	一、〇四七	一三〇	三六七	二	一三九	八	七〇	四	一五九	二五	三	三	一〇三	一、一三	二四	三	一三
石鹸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	七	二九	一六	二三	二六	二六
燐寸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四	九	四	四	八	七	六	三
肥料	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三	〇	二	四	八	八	七	四
エーテル油、香料	四三	四六	六	三三	七	七〇	—	—	二三	八八	三	七八	三三	三九	三三	七三	四三	一〇
染料	—	—	—	—	—	—	—	—	四四	七九	三五	七四	一三〇	四五	一九	一三	九	八〇
ゴム製品	二七	三三	五九	四七	三	一四	—	—	一七	八三	三	一〇	三	六三	一九	三三	三六	七
陶磁器	一九	四四	九五	九三	三三	三六	—	—	三五	一五	六	四三	二三	九〇	六	九六	三六	三六
セメント	一、二〇五	一、一六	二、六〇	二、三五	三、五五六	三、一七	一	四	—	—	六八	七	一、四六六	三、八〇	一〇〇	一、九六	三、九七	三、五六
鹽	六九〇	九三	七四	八	—	—	—	—	—	—	一、七六	九三	一〇、九九	三九八	六三	一六二	三	—
石綿製品	四	六六	三	一八	—	四	—	—	—	—	三	三	三	三	三	一九	三	四
石油製品	一八一	三	二四〇	一五三	一七	一四〇	—	一四〇	一四	—	一、一八	四六	九〇	三三	三三	三三	三九	一二
石炭	八、三五三	三七	三、九七	三三	〇・七	一	三	—	—	三	三六	三、四	三、三	三三	三、〇六	三三	一	一
皮革	〇・三	四	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・三	—	六	三三	六	三九	三三	三
毛皮	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四	—	六	—	六	三	一	—
〆粕	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四	—	—	一	六	—	—	—
煙草	八	三九	一四	一〇一	一	三四	—	—	—	三	六	二三	三〇	三七	二〇	三三	二	八
酒類、アルコール	一四	一六	八	一六	一	四	—	—	—	—	一六	二三	五	一三	三	八	—	一

昭和十四年十二月十日印刷
昭和十四年十二月十五日發行

大連市榊町四八番地
編輯人　水谷國一

大連市伏見町一四番地
發行人　阪口麓

大連市近江町九一番地
印刷所　山田浩通

大連市近江町九一番地
印刷人　東亞印刷株式會社

發行所　南滿洲鐵道株式會社

國立國會圖書館
2/3